2007

●第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会　東京大会
●第４６回東京都図画工作研究大会　中央大会
●第２５回東京都中学校美術教育研究会　第４ブロック大会

人間形成としての造形美術教育

ー新しい教育課程にどう対応するのかー

主　催

関東甲信越静地区造形教育連合
東京都図画工作研究会　東京都中学校美術教育研究会

後　援

文部科学省　全国連合小学校長会　全日本中学校長会
全国公立学校教頭会
東京都教育委員会
千代田・中央・文京・台東・豊島・北・板橋各区教育委員会
東京都国公立幼稚園長会　東京都公立小学校長会　東京都中学校校長会
文京区立幼稚園長会　千代田・中央・文京・台東各区公立小学校長会
文京・豊島・北・板橋各区公立中学校長会　日本ＰＴＡ全国協議会
（社）東京都小学校ＰＴＡ協議会　東京都公立中学校ＰＴＡ協議会
文京区立小学校ＰＴＡ連合会　文京区立中学校ＰＴＡ連合会

第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会　東京大会

第４６回東京都図画工作研究大会　中央大会

第２５回東京都中学校美術教育研究会　第４ブロック大会

大会テーマ

「人間形成としての造形美術教育」

― 新しい教育課程にどう対応するのか ―

■ 期　日　　平成１９年１１月８日（木）・９日（金）

■ 会　場　全体会・各種会議・講演 ：文京学院大学・短期大学ホール

● 小学校公開授業・分科会：文京区立青柳小学校　青柳幼稚園

（大会テーマ）「みて、みて！こんなのつくったよ」

―子どもの育ちを大切にする図工をもとめて―

● 中学校公開授業・分科会：文京区立茗台中学校・区民プラザ

（大会テーマ）「つくる喜び・みる喜び」

―未来を心豊かに生きるために―

■ 主　催　関東甲信越静地区造形教育連合

東京都図画工作研究会　東京都中学校美術教育研究会

■ 後　援　文部科学省　全国連合小学校長会　全日本中学校長会　全国公立学校教頭会

東京都教育委員会　千代田・中央・文京・台東・豊島・北・板橋各区教育委員会

東京都国公立幼稚園長会　東京都公立小学校長会　東京都中学校校長会

文京区立幼稚園長会　千代田・中央・文京・台東各区公立小学校長会

文京・豊島・北・板橋各区公立中学校長会　日本ＰＴＡ全国協議会

(社)東京都小学校ＰＴＡ協議会　東京都公立中学校ＰＴＡ協議会

文京区立小学校ＰＴＡ連合会　文京区立中学校ＰＴＡ連合会

第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会　東京大会
第４６回東京都図画工作研究大会　中央大会
第２５回東京都中学校美術教育研究会　第４ブロック大会

目　次

○　あいさつ・祝辞……２
○　大会日程……７
○　全体会次第……９
○　校種別テーマ……１１
○　会場アクセス……１２
○　基調提案……１３
○　テーマ別分科会一覧……１７
○　講演者の紹介……１８
○　小学校分科会提案……２１
○　小学校公開授業……３３
○　中学校分科会提案……５４
○　中学校公開授業……６７
○　参考資料……７９

あいさつ
「世界に誇れるARTの教育を」

関東甲信越静地区造形教育連合理事長
東京都図画工作研究大会　大会会長

辻　政博

先日，韓国の知人から，日本の図工教育の現状を紹介して欲しいとメールがきた。次のように返信した。

『日本の図画工作教育は，現在学校教育のなかの教科のひとつとして位置づけられ，全国どこの小学校にいっても，子どもたちが学べるシステムとなっている。ただ，以前は，年間70時間（1週間で2時間）あったものが，現在時間数が，削減された状態にある。

子どもたちの8割以上が，図画工作の授業が好きだとアンケートに答えている。子どもたちの創造性，想像性，社会性，人間性，また，文化を育てるためには，時間数が以前の状態に戻るのが望ましいと造形教育関係者は考えている。

現在，政府が進める「教育改革」のなかで造形教育が今後どうなっていくかは，不明の状態だが，高度情報化社会にあっては，重要な教育のひとつであることは確かである。自分のからだと心をとおして，試行錯誤しながら，感じ，考える機会がほとんど消滅しているからである。

造形美術＝ＡＲＴの教育は，幼稚園，小学校，中学校，高等学校，大学，特別支援学校などのさまざまな学校種のなかで，進められている。

日本では，造形美術教育は，単に大人の技術をそのまま子どもに教えるのではなく，子どもたち一人一人の資質・能力をのばすためにおこなう。そこには，ＡＲＴを通して，人間形成をおこなうという本質的な考えがある。』

子どもたちのために世界に誇れる造形教育を今後展開したいものだ。

最後になりましたが，本大会を開催するにあたって，ご尽力をいただいた文部科学省，全国連合小学校長会，全日本中学校長会，東京都教育委員会，文京区をはじめとする中央ブロック各区教育委員会，ならびに関係諸機関，団体，関ブロの先生方，会場校の皆様方に，心より御礼申し上げます。

あいさつ

関東甲信越静地区造形教育研究大会
東京大会会長

正留　久巳

第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会東京大会並びに第４６回東京都図画工作研究大会中央大会，第２５回東京都中学校美術教育研究会第４ブロック大会が関東甲信越静地区の造形教育に関わる先生方や多くの皆様をお迎えして催すことができますことに感謝申し上げます。研究大会開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

学校教育は，生涯学習の基礎づくりの場でもあります。学校においては，その発達段階に応じて必要な学習体験や，その年代に身につけておかなければならない資質・能力を育成し，生涯にわたり学んでいこうとする意欲と能力を育てることが求められています。これらは，造形美術教育の目標でもあります。造形美術教育は，表現や鑑賞などの幅広い活動を通して，自分をみつめたり，工夫することを学んだり，他の良さを感じ取ったりする中から，感性を豊かにし，豊かな情操を養い，人間形成の根幹をなす極めて重要な働きを持っています。これからの時代，人が，より人らしく生きるために，他の文化を理解し，他者を理解し，ものの本質を見極められることが，更に大切になるだろうと思います。これは，形，色，材料で，自分の考えや心を表現する活動を通して，体験的に積み上げてこそ，涵養できうるものでもあります。

新しい学習指導要領の告示を前に，今大会のテーマを「人間形成としての造形美術教育」としました。日本の教育の転換期といえるこの時代に，造形美術教育の果たすべき役割と機能を再確認し，指導実践の研究を深めることは極めて重要であると考えます。

最後になりましたが，本大会を開催するにあたり，文部科学省をはじめ，各教育関係諸団体より多くのご指導と厚いご支援をいただき，ここに開催できましたことを心より感謝申し上げます。また，本研究大会にご参集の皆様に，厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

東京大会の成功を願って

国立教育政策研究所
教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
奥村　高明

子どもたちの成長は，たった一人で実現できるものではありません。それは，友だち，先生，学校，家庭，地域社会，歴史，文化など多くの人々や社会との関わりで達成されています。

これまでの関東甲信越静地区造形教育研究大会，東京都図画工作研究大会，東京都中学校美術研究会の実践も，そのかけがえのない関わりの一つだと思います。長年の実践と子どもたちの成長に果たした役割に敬意を表するとともに，今大会が開催されることを心よりお祝い申し上げます。

さて，現在，中央教育審議会の教育課程部会では，教育基本法や学校教育法などの改正を受けて，どのような方向で学習指導要領を改訂するか議論が進められています。例えば，芸術専門部会では，領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を整理し，「共通事項」として示してはどうかという意見が出ています。

そして，小学校では，自らの行為や感覚をもとに，形や色，イメージを活用して活動すること，中学校では，形や色，材料などから性質や感情，イメージなどを豊かに感じ取ることなどについて話し合われています。これらの議論は，教育現場において，子どもの活動を考える際の参考になると思われます。

本大会におかれましては，これまでの先進的な実践の積み重ねの上に，素晴らしい子どもたちの姿が展開されることでしょう。そこでは，子どもたちが何を活用し，どのような力を発揮しているかを見ることが出来るだろうと思います。ご参会の皆様におかれましては，本大会を通して，必ず明日の実践の指針になる財産が得られることと確信します。

本大会の成功を願い，同時に本大会の今後のますますのご発展とご隆盛をお祈り申し上げて，祝辞といたします。

祝　辞

東京都教育委員会教育長
中村　正彦

「第47回関東甲信越静地区造形教育研究大会・東京大会」並びに「第46回東京都図画工作研究大会・中央大会」及び「第25回東京都中学校美術教育研究会・第4ブロック大会」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

平成17年10月26日に示された中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」にあるように，これからの社会においては，自ら考え，頭の中で総合化して判断し，表現し，行動できる力を備えた自立した社会人を育成することがますます重要であり，そのためには，学校教育において，基礎的な知識・技能と自ら学び自ら考える力を総合的に育成することが必要となります。

文化芸術振興基本法の前文には，文化芸術の重要性について，「人々の創造性をはぐくみ，その表現力を高めるとともに，人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し，多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり，世界の平和に寄与するものである。」と示されています。

造形表現・図画工作・美術教育における形や色による創造活動を通して，子供たちの表現力，価値あるものに気付く感覚や，深く感じ取れるような感性，そして美しいものや崇高なものに感動する豊かな心をはぐくんでいくことは，学校教育において極めて重要です。

本研究大会が，「人間形成としての造形美術教育」とのテーマで，具体的な授業提案や研究発表，講演会などをもとに研究を深められますことは，誠に素晴らしいことであり，大きな研究成果を示していただけることを，心から期待申し上げております。

最後に，本大会開催のためにご尽力くださいました関係の皆様に感謝と敬意を表しますとともに，本大会の成功と関係団体のご発展を祈念いたしまして，祝辞といたします。

祝　辞

文京区教育委員会教育長
根岸　創造

このたび,「第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会東京大会」並びに「第４６回東京都図画工作研究大会中央大会」,「第２５回東京都中学校美術教育研究会第４ブロック大会」が本区で開催されますことをお喜び申し上げますとともに，全国各地からお集まりいただいた皆様に歓迎の意を表したいと思います。

文京区は東京２３区のほぼ中心に位置し，歴史と文化に恵まれた緑豊かな区です。また,「文の京（ふみのみやこ)」「教育のまち」としても発展してきました。江戸時代から「昌平坂学問所」を中心に学問のメッカであると共に，数多くの文人たちが暮らしたまちでもあります。古くは松尾芭蕉に滝沢馬琴，そして明治には坪内逍遥，森鴎外，夏目漱石，樋口一葉，石川啄木と東京帝国大学を中心に数多くの優れた作家や詩人が集い，素晴らしい作品を世に送り出したのです。当時の緑豊かな文京の自然が文人たちの創作意欲をかきたてたのでしょう。そのような歴史と伝統を受け継ぎ，現在でも多くの大学をはじめ，学校や幼稚園，教育研究機関が集まる文教都市としても発展してきました。

さて，本研究大会では「人間形成としての造形美術教育」―新しい教育課程にどう対応するのか―とのテーマのもとに研究が進められ，その成果をご発表いただけると聞いております。子どもたちにとって様々な課題が山積している現代において，造形美術教育が創造力の育成をとおして，子どもたちの「生きる力」の形成に大いに貢献できることとご期待しております。

最後に，関東甲信越静地区造形教育連合をはじめとする関係者のみなさまのご尽力に対して感謝申し上げると共に，本研究大会の成功と，ご参加の皆様の更なるご健勝，ご活躍を祈念いたしまして，私の祝辞とさせていただきます。

あいさつ

関東甲信越静地区造形教育研究大会東京大会副会長
東京都中学校美術教育研究会会長
牧井　直文

この度，各県各地区より多数の先生方の参加を得て，第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会，並びに第４６回東京都図画工作研究大会，第２５回東京都中学校美術教育研究会が開催されますことを，大変に意義深いことと感じております。

さて，このところの一連の教育改革への動きの中で，今後の学校教育を方向付ける法改正が次々と進み，新しい学習指導要領も年度内には告示される見とおしとなってまいりました。

こうした時期に，学校現場で直接児童・生徒の指導に携わる先生方が一同に会し，造形美術教育のあり方や方向性について話し合い，相互に研修を深めることは，今後への展望を開くよい機会になると期待しております。

昨今，我が国の学校教育を取り巻く環境は大きく変化してきており，どちらかといえば知的な側面に偏った学力観が強調される中，芸術教科の今後を危ぶむ声さえ聞こえてくる状況にあります。私たちは今，こうした現実を直視し，教育改革の動向を見極めるとともに，造形美術教育が果たすべき役割を十分に認識していく必要があります。また，造形美術教育の今日的課題について，様々な角度から分析・検討し，目指すべき方向性を明らかにして，教育内容の改善充実を図っていくことが求められます。

今大会のテーマ「人間形成としての造形美術教育」は，これからの教育が目指す「人間力」の育成に視点を当て，造形美術教育の立場からどう取り組みを進めていくべきかを考えようとするものです。感じる力や考える力，創りだす力を育てる造形美術教育だからこそ，児童・生徒の未来を拓く「人間力」の育成が図れるものと確信しております。本大会の研究が成功裏に進みますことを祈念し，私のあいさつとさせていただきます。

ともに学び合う大会に

東京都中学校美術教育研究会
実行委員長
新保　邦明

この度，第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会並びに第４６回東京都図画工作研究大会と併せて，第２５回東京都中学校美術教育研究会が開催されます。この大会が，東京都の中学校美術教育にとって意義深い大会になりますよう心から願っています。　本大会の開催においては，第４ブロック（文京・板橋・北・豊島）の先生方を中心に，大会の成功を目指し熱心に取り組んでいただきました。心より感謝申し上げます。また，長い準備期間を通して，いつも温かなご配慮をいただきました文京区立茗台中学校の後藤一男校長先生はじめ諸先生方に改めて御礼申し上げます。

さて，矢継ぎ早の教育改革の中で，学校教育は，大きな曲がり角に立っています。そこでは，ただ単に教育内容のみならず，教育の在り方そのものが厳しく問われています。中学校美術の置かれた立場も例外ではありません。私たち美術教師には，時代の変化を鋭く捉え，自らの感性を磨き，常に指導方法・内容の改善を図っていくことが強く求められています。こうした不断の自己変革こそが美術科の存在意義を確かなものにしていく唯一の方法だろうと思います。本研究大会のテーマである『つくる喜び，みる喜び』は，全ての生徒が，つくる喜び・みる喜びを味わう中で自己実現を図り，生涯にわたり美術を愛好する心とその資質・能力を育む，という大きなねらいをもって設定されたものです。本大会に参加され，ともに学び合う中で，このねらいに迫るためのヒントを掴んで頂けたら幸いです。

おわりに，ご支援・ご協力をいただきました第４ブロックの各区をはじめ関係各位に心から感謝申し上げ，私のあいさつといたします。

信頼と希望に満ちた声

東京都図画工作研究大会
中央大会実行委員長
沼野　章彦

「図工の時間に子どもたちと何をどうするか」いつでも私たちの重大な関心事です。しかし，「そのとき，自分の心がどうあるか」ということも，私たちにとって大切なことだといつも思っています。

子どもの造形活動に寄り添って，子どもが今どこにいて，これからどこへいくのかを洞察しながら，「先生，こんなのができたよ。」「先生，こうしたいんだけど。」などと次々に子どもたちが声をかけてくる状況の中で，子どもたち一人一人の声に耳を傾け，子どもたち一人一人の内なる声をも感じ取れるような，ゆったりとした心や静かな気持ちでいたいと思います。

子どもたちの喜びを，私たちも共に喜ぶことにより，信頼が生まれ育ってくるのではないかと思います。そのためには，子どもたちが育つ道筋を深く理解することも必要でしょう。

変わりゆく物事が多い中で，日々の実践を通して，変わらないものを確かめることが大切ではないでしょうか。そのただ中にあって，私たちはしばしば子どもたちの信頼と希望に満ちた声を聞きます。

「みて，みて！こんなのつくったよ」

この声が，私たちの研究のきっかけであり，目指すところです。

最後になりましたが，本大会を開催するにあたり，ご後援とご指導をいただきました文部科学省、東京都教育委員会，会場地区の文京区教育委員会，並びに関係諸機関、団体の皆様に厚く御礼申しあげます。また，大変お忙しい中，本大会の会場校を引き受けてくださいました文京区立青柳小学校の鴇田光俊校長先生をはじめ，全職員の皆様，保護者，地域の皆様のご理解とご協力に対し，深く感謝申し上げます。

豊かな人間性の基礎を培う

文京区立青柳小学校校長
鴇田　光俊

第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会東京大会が本校を会場校として開催されますことは，本校にとっても大変意義があり，心から歓迎するとともに，光栄に思います。微力ではありますが，本校児童・教職員・ＰＴＡあげて大会運営に協力させていただきます。

さて，社会が急速に変化し複雑化する中で，人々の価値観も年々多様化してきています。子どもたちを取り巻く社会環境も大きく変化し，学校教育に対する期待も高まっています。

このような社会の背景を踏まえ，国や各自治体では，これからの学校教育の在り方について様々な検討が行われています。我が国は今まさに，教育改革の大きなうねりの中にあります。

私たち教師は，これからの学校教育の動向を注視するとともに，教育の現場を担う者として，保護者や地域社会の期待に応える豊かな教育実践を進めることが，ますます必要になってきます。そのためには，授業研究を核とした研修を積極的に進め，自らの資質・能力の向上を図ることが何よりも大事だと考えます。

このような現状を踏まえ，図画工作教育並びに美術教育に携わる先生方におかれましては，常に自らを磨き，子どもたち一人一人に生きる教育実践を進められていますことに，心から感謝と敬意を表するものであります。

また，この度の「人間形成としての造形美術教育」「新しい教育課程にどう対応するのか」をテーマとした本研究大会は，豊かな人間性の基礎を培い，これからの学校教育の在り方の大きな指針になることと確信しています。

結びに，本研究大会の成功を祈念するとともに，本大会開催のために多大なご支援・ご協力をいただきました関係各位に心から感謝申し上げる次第です。

祝　　辞

文京区立茗台中学校長
後藤　一男

関東甲信越静地区の幼稚園，小学校，中学校の先生方をお迎えし，本日ここに，第４７回関東甲信越静地区造形教育研究大会東京大会，第４６回東京都図画工作研究大会中央大会，第２５回東京都中学校美術教育研究会第４ブロック大会が盛大に開催されますことをお喜び申しあげますとともに、ご来校の皆様方を心から歓迎申し上げます。

今日，教育を取り巻く環境は，社会の急激，かつ複雑な変化が見られる中，グローバルな社会を生きる子どもたちにとって，基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ることが極めて重要であります。

同時に，心豊かな生活を創造していく力，感性や想像力を高め，豊かに発想し，構想する力，鑑賞する力など，実社会に生かすことのできる人間力の形成が必要であると思います。

どんなに社会や時代が変わっても，人間形成に求められているものは変わらないと思います。

本研究会は，本校にとって大変貴重な大会であります。また，これらのことは造形美術教育の役割であり，学校経営者である校長の大きな役割と認識しています。

本校では経営方針の一つに「掲示教育」の充実に重点を置いています。子どもたちの作品を校内外に掲示することで，お互いの知性と感性を刺激し合い，学び合い，そして表現する喜びを十分味わいながら美術教育を展開しているところです。

さて，この研究会において，各先生方による熱心な協議により実り多い成果が上げられますとともに，その成果を自校に持ち帰られ，さらなる園，校の人間形成としての造形美術教育の充実・発展をご期待申し上げますとともに，とりわけ本校生徒全員に，貴重な美術教育を受ける機会を与えていただいた，本研究会の皆様に改めて御礼を申し上げます。

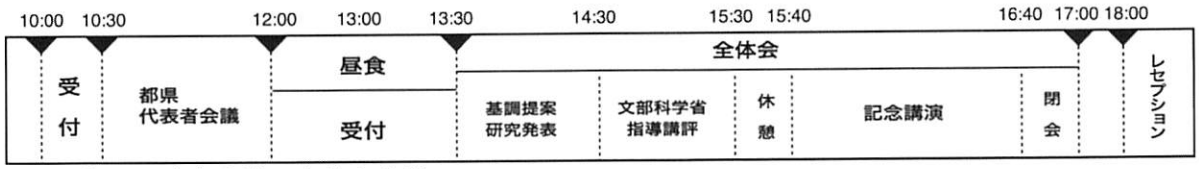
大会日程

大会日程

1日目 11月8日(木)

○第47回 関東甲信越静地区造形教育研究会東京大会テーマ

● **「人間形成としての造形美術教育」** ー新しい教育課程にどう対応するのかー



□ 都県代表者会議・全体会会場
文京学院大学・短期大学ホール （東京メトロ南北線「東大前」駅下車 徒歩3分）

□ 文部科学省指導講評者
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 奥村高明先生

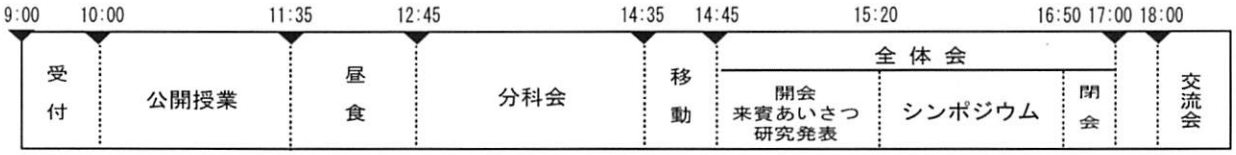
□ 記念講演講師
中央教育審議会芸術専門部員（２００６）、東北新社専務取締役、多摩美術大学教授、CMディレクター 中島信也先生

□ レセプション
文京区シビックセンター ２６階スカイホール（東京メトロ南北線・丸の内線「後楽園」下車 徒歩3分）

2日目 11月9日(金)

○第４６回東京都図画工作研究大会中央大会テーマ

● **「みて、みて！こんなのつくったよ」** ー子どもの育ちを大切にする図工をもとめてー



□ 会 場：文京区立青柳小学校・青柳幼稚園 （東京メトロ有楽町線「護国寺」駅下車 徒歩５分）

□ 内 容：東京都小学校中央ブロック公開授業、研究分科会、研究講評、記念講演、
シンポジウム（がんばれ図工の時間「はみだす ときめき」）等

□ 交流会：プラザ・フォレスト（東京メトロ丸の内線「茗荷谷」駅下車 徒歩７分）

○第２５回東京都美術教育研究会第４ブロック大会テーマ

● **「つくる喜び・みる喜び」** ー未来を心豊かに生きるためにー

□ 会 場：文京区立茗台中学校・区民ホール （東京メトロ丸の内線「茗荷谷」駅下車 徒歩７分）

□ 内 容：東京都中学校第４ブロック公開授業、研究分科会、研究講評、記念講演

□ 後援者：早稲田大学教授 美術史家 大高保二郎先生

1日目

全体会次第

司　会　本間　基史

1　あいさつ
関東甲信越静地区造形教育連合理事長　辻　政博
関東甲信越静地区造形教育研究大会　東京大会会長　正留　久巳

2　来賓祝辞
東京都教育委員会教育長　中村　正彦
文京区教育委員会教育長　根岸　創造

3　来賓紹介・祝電披露　本間　基史

4　基調提案
東京大会研究局長　南　育子
都図研大会研究局長　森田　敏裕
都中美大会研究局長　畝村　明男

5　大会宣言
東京大会副会長　牧井　直文

6　文部科学省指導講評
国立教育政策研究所
教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　奥村　高明

7　記念講演
中央教育審議会芸術専門部員（2006）
東北新社専務取締役、多摩美術大学教授　中島　信也

8　次期開催県あいさつ
第４８回　関東甲信越静地区造形教育研究大会
群馬大会代表　尾内　理樹

2日目

全体会次第

小学校 ●第４６回東京都図画工作研究大会中央大会

研究全体会次第

司　会　大道　博敏

1	開会のことば	東京都図画工作研究大会副会長	庖刀由利子
2	あいさつ	東京都図画工作研究会　会長	辻　政博
3	来賓祝辞	文京区教育委員会教育長	根岸　創造
4	来賓紹介		大道　博敏
5	基調提案・研究経過報告	大会研究局長	森田　敏裕
6	指導・講評	東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	岩﨑　治彦
7	シンポジウム	がんばれ！図工の時間！！フォーラム　共催シンポジウム コーディネーター	横内　克之
8	謝　辞	会場校校長	鴇田　光俊
		大会実行委員長	沼野　章彦
9	大会引継・次期大会あいさつ	西多摩大会実行委員長	菅野　利之
10	閉会の言葉	東京都図画工作研究大会副会長	南　育子

中学校 ●第２５回東京都美術教育研究会第４ブロック大会

研究全体会次第

1	開会の言葉	大会副実行委員長 北区立赤羽中学校長	山口　勉
2	主催者あいさつ	東京都美術教育研究会会長 中野区立中野富士見中学校長	牧井　直文
3	実行委員長あいさつ	大会実行委員長 板橋区立上板橋第一中学校長	新保　邦明
4	来賓紹介	大会実行委員長 板橋区立上板橋第一中学校長	新保　邦明
5	来賓祝辞	文京区教育委員会教育長	
6	基調提案	大会研究局長 板橋区立上板橋第三中学校	畝村　明男
7	講　演	早稲田大学教授　美術史家	大髙保二郎
8	謝　辞	大会副実行委員長 文京区立文林中学校長	渡邉　尚美
9	次回実行委員長あいさつ	府中市立府中第五中学校長	中村　一哉
10	閉会の言葉	美術教育研究会副会長 豊島区立西巣鴨中学校副校長	瀬川　博明

校種別テーマ

小学校　第４６回東京都図画工作研究大会　中央大会テーマ

「みて、みて！こんなのつくったよ」

－子どもの育ちを大切にする図工をもとめて－

「みて，みて！こんなのつくったよ」は子どもたちから発せられる声です。子ども自らが育ちを実感しているときに出る，喜びの言葉を大会テーマとしました。

子どもと共に創り出す図工の時間に，子ども自らがもつ資質や能力（自ら感じ，考え，判断し，実行する力）をどのように引き出し，発揮された資質や能力をどのように受け止め（読みとり），どのように返して（支援・共感等）いくことが「子どもの育ち」を大切にすることになるのかを考えていきます。

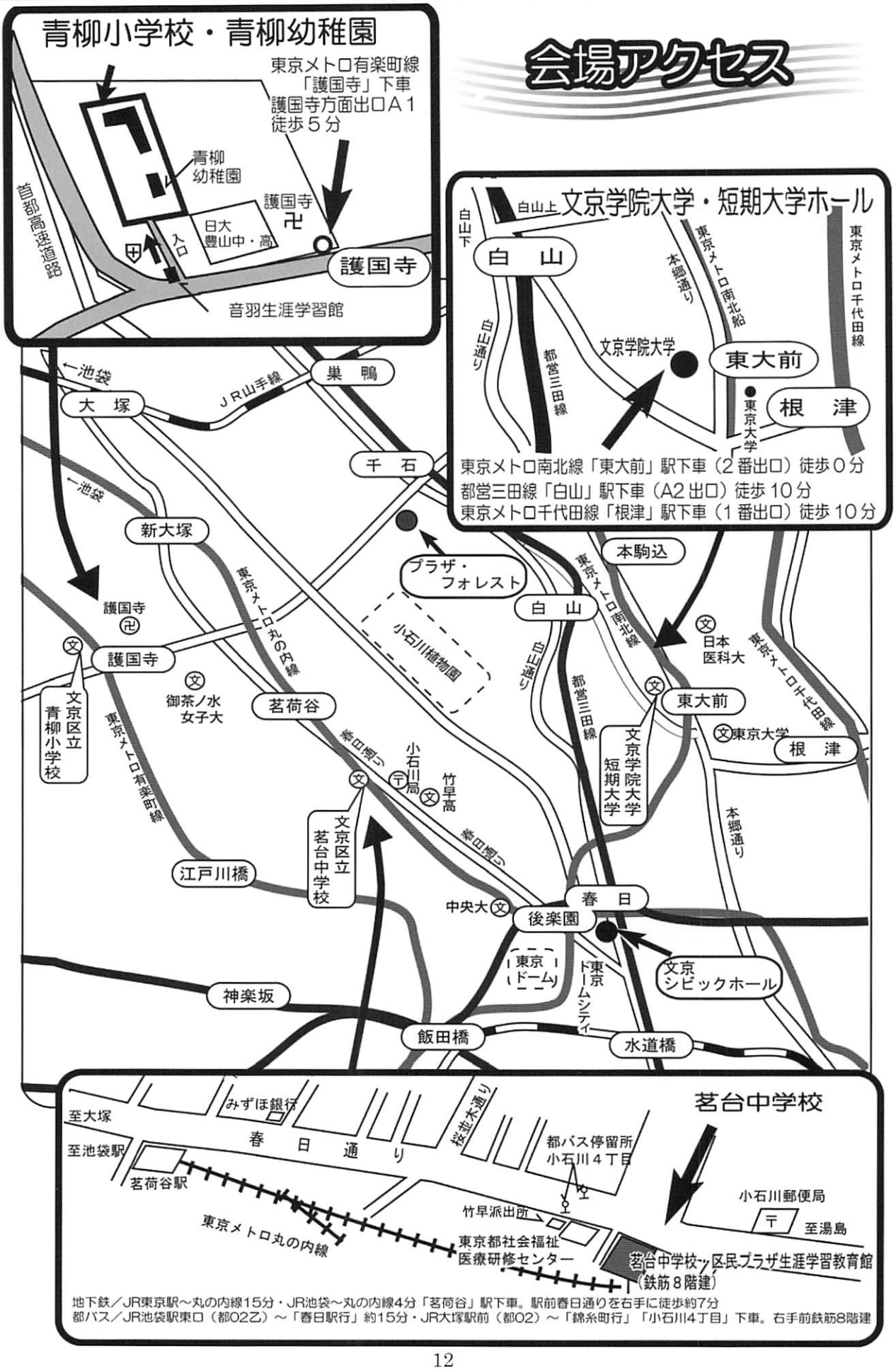
中学校　第２５回東京都中学校美術教育研究会　第４ブロック大会

「つくる喜び・みる喜び」

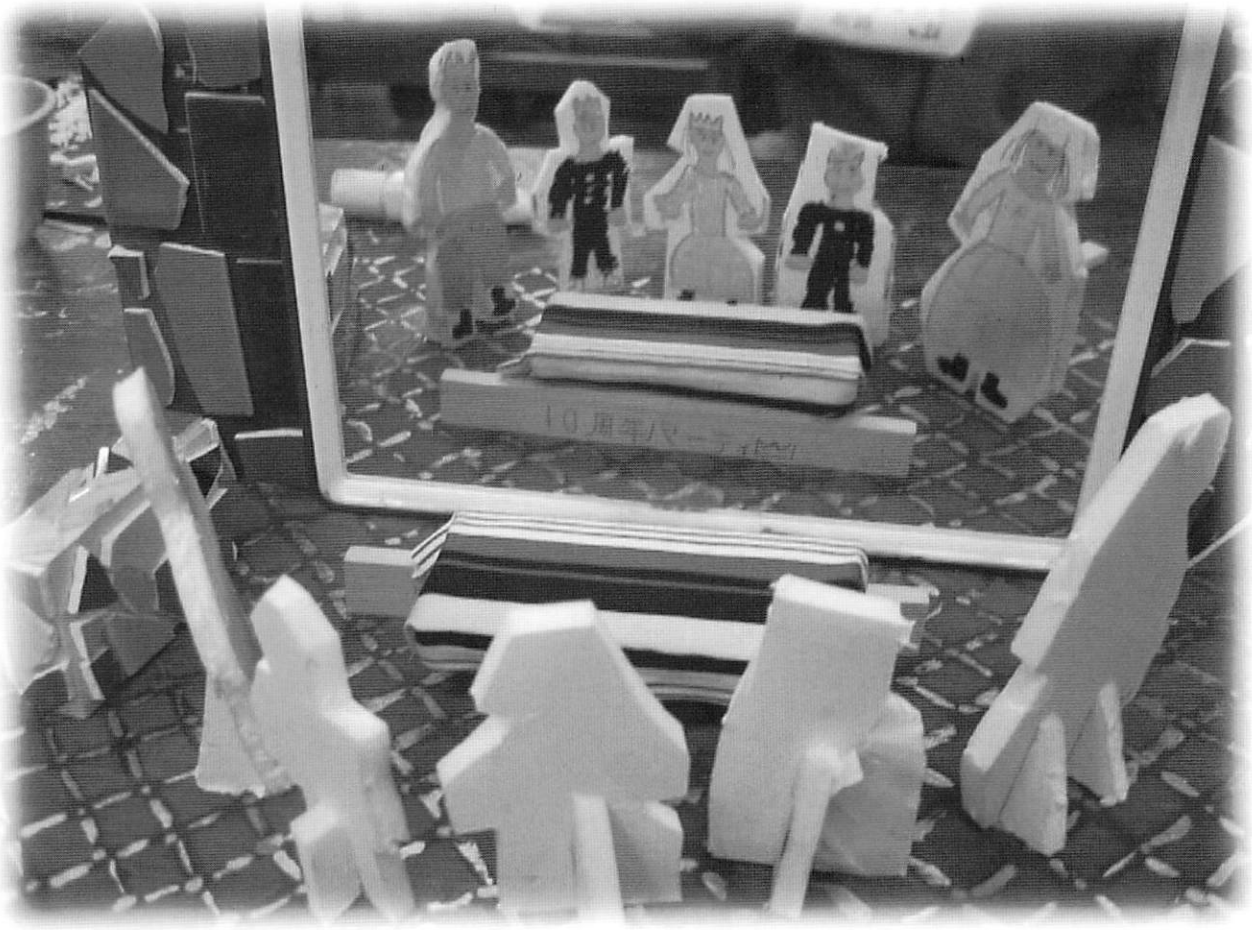
－未来を心豊かに生きるために－

今回のテーマとした『つくる喜び・みる喜び』とは、子どもの主体的な思いや考えを引き出し、また多くの作者の意図を伝え、様々な見方・とらえ方・考え方を学ばせること。つまりは、『自分を知る喜び・他者を知る喜び』そして、『様々な見方・考え方ができる喜び』といえます。自己の表現活動のもとにある『ものを見よう』『感じよう』とする心から、自分を認め、他者をも認める広い心へ、その心の動きを膨らませることをできるのが、美術のもつ特性であり、それは私たち美術教師の働きかけがあってこそのものなのです。そして、その幅広いものの見方・考え方こそが人間形成の主を成すものであり、未来を心豊かに生きていくために欠かせない心の育成に他ならないのです。

会場アクセス


青柳小学校・青柳幼稚園
東京メトロ有楽町線
「護国寺」下車
護国寺方面出口A1
徒歩５分
青柳
幼稚園
護国寺
日大
豊山中・高
入口
首都高速道路
護国寺
音羽生涯学習館
文京学院大学・短期大学ホール
白山上
白山下
白山
本郷通り
東京メトロ南北線
東京メトロ千代田線
白山通り
都営三田線
文京学院大学
東大前
根津
東京大学
東京メトロ南北線「東大前」駅下車（２番出口）徒歩０分
都営三田線「白山」駅下車（A2出口）徒歩10分
東京メトロ千代田線「根津」駅下車（１番出口）徒歩10分
←池袋
巣鴨
JR山手線
大塚
千石
新大塚
プラザ・
フォレスト
本駒込
東京メトロ南北線
白山
日本
医科大
東京メトロ千代田線
護国寺
東京メトロ丸の内線
小石川植物園
文京区立
青柳小学校
御茶ノ水
女子大
茗荷谷
東大前
文京学院大学
短期大学
東京大学
根津
東京メトロ有楽町線
小石川局
竹早高
文京区立
茗台中学校
江戸川橋
中央大
春日
後楽園
東京
ドーム
東京
ドームシティ
文京
シビックホール
神楽坂
飯田橋
水道橋
茗台中学校
至大塚
みずほ銀行
春日通り
桜並木通り
至池袋駅
茗荷谷駅
都バス停留所
小石川４丁目
小石川郵便局
至湯島
竹早派出所
東京メトロ丸の内線
東京都社会福祉
医療研修センター
茗台中学校・区民プラザ生涯学習教育館
（鉄筋８階建）
地下鉄／JR東京駅～丸の内線15分・JR池袋～丸の内線4分「茗荷谷」駅下車。駅前春日通りを右手に徒歩約7分
都バス／JR池袋駅東口（都02乙）～「春日駅行」約15分・JR大塚駅前（都02）～「錦糸町行」「小石川4丁目」下車。右手前鉄筋8階建

基調提案



大会テーマ

人間形成としての造形美術教育
ー新しい教育課程にどう対応するのかー

1，大会テーマについて

今日，世界は，大きな転換期をむかえている。グローバリズム，高度情報化社会，地方分権，競争原理の導入など，社会構造の変化にともない，教育改革がすすむなかで，造形美術教育にもさまざまな課題が生じている。また，「改正教育基本法」の成立，「教育三法案」，「教育再生会議第二次報告」など，我が国の教育制度やその方向性を基礎付ける法案や答申が提案され，さらに，年度内には，「新指導要領」の告示が予想されている。

このような状況の中で，本大会では，「人間形成としての造形美術教育ー新しい教育課程にどう対応するのかー」を大会テーマとして設定し，研究に取り組むことにした。

私たちは，これまでも，子どもの人間形成にかかわる視点から造形美術教育の伸展を図ってきたが，現在の変革のうねりの中で，「造形美術教育がもつ人間形成としての働き」という原点に再び注目し，その方法や内容，そして，存続について再検討しなければならないと考えた。

私たちは，教科教育の視点から，これまでも基礎・基本を徹底しながら，自ら考え，進んで学習する力＝「生きる力」の育成に取り組んできた。それらは，言わば，知性と感性の調和のとれた人間形成を期することにほかならない。

さらに，一人一人の子どもたちが，こころと体を十分働かせ，考え，試行錯誤し，表現する喜びを十分味わいながら，他者や世界とかかわり，自分自身をつくりあげていく過程に，真の意味での豊かな人間形成を重ね合わせ，図画工作教育，美術教育のあるべき姿を検証し，模索し，研究をおこないたい。

これからの変化の激しい，価値観の多様化した，グローバルな社会を生きる子どもたちにとって，基礎的・基本的な学力の定着の上に，想像力や創造力，そして，他者や文化に対する共感的理解や倫理性をそなえた豊かな，そして，実社会に生かすことのできる「人間力」の形成が必要である。

そのためには，造形美術教育がもつ，こころと体を存分に働かせた創造的な学習課程の中にこそ，そうした人間的な資質・能力を育む重要な機会と場があると考えた。

本大会では，豊かな子どもの育ちをもとめて，「人間形成としての造形美術教育」について研究をおこないたい。

2，研究の方向について

（1）具体的な子どもの造形活動の見取りから，人間形成の目的へ

はじめに，子どもの造形活動の様子を具体的に把握し，出発するために，二つの活動事例を拾い上げてみる。

【事例１】「子どもイメージの広がり，深まり」（小学校１年生）

絵の具をつけた筆をもって子どもがなにか考えている。画用紙に筆を着地させ，ゆっくりと動かす。絵の具の塊がかたちになる。もう一度，絵の具をつけて筆を画用紙に押しつけるように動かす。そこにはもう一つ塊ができる。そして，いくつもの塊が繰り返され，そのすきまにペンで描いた無数の線があらわれる。

ここに描かれたイメージは「昨日降った雨」と「今日見つけた雨」のイメージを合体させながら表現したものである。つまり，子どもが，目でみたこと，聞こえた音，肌に触れた風，感じたことを，総動員しながら様々な思考と判断を繰り返し，描く姿がそこにあった。このように子どもは，記憶や経験を，造形活動をおこなうなかで関係づけ，新たに組織しながら新しいイメージを生みだしている様子が見て取れた。

【事例２】「活動過程における主体的な子どもの思いの生成」（小学校４年生）

中庭で葉っぱを集めて絵を描いた。春になると土がみえなくなるぐらい草がおい茂る。一つ一つの色やかたちを楽しみながら採集し画用紙に表現していく。クローバー，へびいちご，おおいぬのふぐり，ペンペン草，かやつり草，たんぽぽなどかたちも大きさも様々だ。草を摘むこと，集めることはとても楽しい活動である。草の奥の方をのぞくと小さな草が地面をはうように生えている。さらにその下をのぞくとだんご虫やアリがのそのそ動いている。摘んだ草の下にそっとだんご虫をしのばせて自分のそばに置き，のぞいたりさわったりしながらうれしそうにしている。

この活動では，たんに技術的に絵を描くのではなく，それ以前の中庭の「緑」を集めることからはじめ，「きれい」「おもしろい」「ほしい」「かわいい」などの子どもの思い（主観）が生まれていく様子が見て取れた。

以上のような二つの事例をとおしてみることができるのは，造形活動のなかにおける子どもたちの実際の様子である。つまり，そこにみえるのは，たんに機械的に作品をつくることを目的とした活動ではなく，逆に，造形活動という営みの中にみえる。さまざまな思いを広げたり深めたりしながら，自分自身をつくりあげていく子どもたちの姿である。私たちは，子どものこうした有り様から，研究をはじめたいと考えた。すなわち，具体的な子どもの造形活動の見取りから，人間形成という目的へと研究をすすめたいと考えた。

（2）実践研究の３つのテーマ

さらに私たちは，テーマ「人間形成としての造形美術教育」を具体的な授業研究に結びつけるために，３つの視点を設定し，研究をすすめることにした。

①「主体としての私のはたらき」
②「共感的なまなざし」
③「他者や世界（文化）とのつながり」

①「主体としての私のはたらき」とは，色やかたちを媒介とした造形活動をとおして，つくりあげられる「私」への着目である。子どもの造形活動の過程を追い，そこに働く資質・能力をよみとり，検証することが大切だと考えた。

また，②「共感的なまなざし」とは，造形活動をとおして，生まれてきたさまざまな子どもの思いが，他者や世界に受容されることによって，確かなものになっていくことを指す。そして，他者からの共感は，新たな自分の成長に大きな力を与えると考えた。

さらに，③「他者や世界（文化）とのつながり」とは，自分を包み込む生活世界や文化への着眼である。自分のおこなう活動が，現実の世界に深くかかわることに気づいたとき，はじめて子どもの成長と実社会に働く生きた力が生まれるのではないかと考えた。

3，各学校種のアプローチ

これまで述べてきた研究テーマや研究の方向性，視点から，さらに具体的な授業研究をおこなうために，各校種の実態を踏まえながら，次のようなアプローチを試みることにした。

（1）小学校のアプローチ

表現活動の中でたびたびみせる「みて，みて！こんなのつくったよ」という子どもたちの表情や内から発せられる言葉には，素直な喜びや発見，自分への期待感があふれている。小学校では，自分にとっての意味を自らつくりあげていく創造的な活動を大切にした授業を研究したいと考えた。そして，研究をおこなうなかで，子どものあるがままをみつめるまなざしで，何がこころの豊かさをもたらし，また，そこでは何がおきているのかという事実を検証し，模索していきたいと考えた。

（2）中学校のアプローチ

中学校では，「つくる喜び・みる喜び」という子どもの主体的な活動を支える喜びと創造的であることの喜びを実践から分析し，そこで働かせる力を検証したいと考えた。創造的に自分自身をつくりだす継続的な活動は，他者や社会，文化とつながることで実社会に生かすことのできる力になると考える。こころと体を存分に働かせ，自分にとっての意味を自らつくりあげていく創造的な表現と鑑賞の活動を大切にした授業研究をおこないたいと考えた。

テーマ別分科会一覧

No.	分科会テーマ	内 容	担当都県	発表者	助言者	司会/記録	教室	会場
1	つくりだす喜び	造形表現活動が育む「つくりだす喜び」を実践から検証し考える	東京都（中央区）	三浦百合子 中央区立泰明小学校	松本健義 上越教育大学	■司会 緑川敏夫 中央区立明石小学校 ■記録 常川英子 中央区立城東小学校	視聴覚室	文京区立青柳小学校
			千葉県	木内美香子 香取市立大倉小学校	小林敏夫 多古町立中村小学校			
2	他者や世界とのかかわり	造形表現活動を通したかかわり合いから育つ力を考える	東京都（台東区）	餅和子 台東区立金曾木小学校	小林貴史 東京造形大学	■司会 安倍啓斎 台東区立平成小学校 ■記録 保坂亮子 台東区立台東育英小学校	青柳幼稚園 2Fホール	
			長野県	中塚洋介 長野市立三本柳小学校	黒澤増博 塩尻市立桔梗小学校			
3	日常にいきる図工	つくりだす喜びから日常に生きて働く資質や能力を考える	東京都（文京区）	桐敷芳子 文京区立根津小学校	水島尚喜 聖心女子大学	■司会 仙北屋崇 文京区立汐見小学校 ■記録 船田京子 文京区立関口台町小学校	図工室	
			群馬県	森坂実紀人 群馬大学附属小学校	坪田欣弥 桐生市立昭和小学校			
4	私をつくる（私をつくる＝人間形成）	造形表現活動をつうじて働かせる子どもの主観と成長を考える	東京都（千代田区）	森脇勝美 千代田区立富士見小学校	岡本昌己 元八王子教育委員会	■司会 長田千春 千代田区立番町小学校 ■記録 高野ゆかり 千代田区立和泉小学校	図書室	
			静岡県	佐藤　彰 伊東市立大池小学校	根木利和 伊東市立北中学校			
5 ①	体と心を働かせた造形活動	感情や感覚、知的な活動、体と心などを総合的に働かせる造形表現活動を考える	東京都（都図研研究局）	玉置一仁 北区立滝野川第二小学校	土佐信道 明和電機代表取締役社長 岩崎治彦 東京都教育庁	■司会 大畑祐之 板橋区立高島五小学校 ■記録 高橋香苗 足立区立大谷田小学校	音楽室	
5 ②	体と心を働かせた造形活動		栃木県	福田知香子　長峯貴志 宇都宮市立戸祭小学校	大野　薫 宇都宮市立西原小学校	■司会 遠田　毅 日野市立三沢台小学校 ■記録 菅原　亮 品川区立城南二小学校	青柳幼稚園 2F教室	
			新潟県	大竹裕範 上越市立上雲寺小学校	柴野ひさ子 三条市立荒沢小学校			
6	自発的な表現活動の生まれるとき	子どもがもてる力を発揮し、思いの実現にむけて働かせる力を考える	茨城県	野村久美 常総市立石下小学校	深谷治之 桜川市立桜川中学校	■司会 鈴木陽子 目黒区立五本木小学校 ■記録 上野千絵子 目黒区立向原小学校	第二学習室	
			山梨県	泉　薫 三枝清美 甲州市立松里小学校	成澤宗克 山梨県教育委員会			
7 ①	連携を考える（鑑賞）美術館や地域との連携	継続した連携の取り組みから成果と課題を考える	東京都（北多摩ブロック）	伊東由美 府中市立日新小学校 井ノ口和子 武蔵野市立第二小学校	武居利史 府中市立美術館	■司会 大杉　健 府中市立若松小学校 ■記録 大森直子 東村山市立東萩山小学校	家庭科室	
			埼玉県	才津純子 さいたま市立田島小学校 田中晃（協力者） 埼玉県立近代美術館	中川昇次 さいたま市教育委員会			
7 ②	連携を考える（幼小中）校種間の連携	創造的な活動を支援する異校種間連携の取り組みから成果と課題を考える	東京都（都図研）	本間基史 新宿区立落合六小学校	大坪圭輔 武蔵野美術大学	■司会 横内克之 新宿区立花園小学校 ■記録 麻佐知子 新宿区立四谷第六小学校	理科室	
			神奈川県	桒島千愛 川崎市立渡田小学校	三村修一 川崎市立西野川小学校			
8	つくる喜びを味わおう！	「美術って楽しい！」その気持ちを作品づくりで存分に味わう。この喜びが生きる力につながる	群馬県	藤﨑敬太郎 館林市立多々良中学校	柏瀬薫世 桐生市立境野中学校	■司会 小林　至 豊島区立千川中学校 ■記録 板橋尚文 豊島区立明豊中学校	7F学習室B	文京区立茗台中学校
			埼玉県	山内美和子 上尾市立上尾中学校	高橋帛子 上尾市立上尾東中学校			
			栃木県	小林栄子 那須塩原市立厚崎中学校	橋本　彰 那須塩原市立三島中学校			
9	生活にいかそう！	美術で学んだことが生活の中にいかされている。そんなことに気がつけば、さらに生活が明るくなる	静岡県	河原茂樹 藤枝市立藤枝中学校	青木隆宏 藤枝市立青島北中学校	■司会 小川永祐 北区立稲付中学校 ■記録 石井恵美子 北区立王子桜中学校	7F学習室A	
			東京都	藤本　卓 北区立紅葉中学校	菊田　寛 墨田区立吾妻第二中学校			
			長野県	森　崇 長野市立川中島中学校	五味一男 諏訪郡原村立原中学校			
10	地域とつながろう！	私たちの暮らす地域と学校の枠を越えて、今、私たちの生きる世界と学ぶ美術がつながる	茨城県	平根聡子 日立市立河原子中学校	鈴木利昭 日立市立大久保中学校	■司会 児玉由美子 文京区立第九中学校 ■記録 中村知子 文京区立第五中学校	7F実習室	
			神奈川県	山本　実 相模原市立大沢中学校	下薗克秀 相模原市立藤野中学校			
			山梨県	小俣博昭 大月市立猿橋中学校 佐藤政道 大月市立鳥沢小学校	條々篤美 大月市立大月東中学校			
11	見つめよう、感じ取ろう！（鑑賞）	見つめること、感じ取ることを通して、生きる力を豊かに育み、そして伸	東京都	町田廣泉 板橋区立志村第一中学校	篠原やよい 町田市立薬師中学校	■司会 石川達也 板橋区立桜川中学校 ■記録 石井和子 板橋区立板橋第二中学校	1F区民プラザ	
			千葉県	北根晃一 千葉市立幕張中学校	白濱正人 千葉市立磯部第一中学校			
			新潟県	佐藤隆幸 十日町市立十日町中学校	鈴木　明 新潟市立横越中学校			

1日目

講演者の紹介

○　中島　信也（なかじま　しんや）

（㈱）東北新社専務取締役　ＣＭディレクター

‘59 福岡生まれ大阪育ち。‘82 武蔵美卒。‘83「ナショナル換気扇」で演出デビュー。
その後東北新社がデジタル映像基地「オムニバスジャパン」を創設、これを機にいちはやくデジタル技術をＣＭに導入しエンタテインメント性の高いＣＭを数多く演出。
デジタル映像新時代へ向け邁進する東北新社グループのクリエイティブの中心的存在。
同社で取締役を務める傍ら多数のＣＭを演出。
また、多摩美大ではグラフィックデザイン学科教授として教鞭を執る。

●経歴
・1959 年 1 月 15 日　福岡県八女郡黒木町生まれ
・1982 年 3 月　武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒
・1982 年4月　(株)東北新社入社
・1983 年 8 月　TVCM演出家としてデビュー
・2005 年 6 月　第 26 回日本宣伝賞山名賞受賞
・現在　(株)東北新社専務取締役
・東京アートディレクターズクラブ会員

●行政関係
・内閣広報室　広報アドバイザー（2004～）
・内閣府　沖縄広報研究会　アドバイザリースタッフ（2004～）
・国土交通省　広報効果研究会　アドバイザリースタッフ（2003～）
・文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門　主査（2003～）
・経済産業省デジタルクリエイターズコンペティション審査委員長（2004）
・総務省後援デジタル･コンテンツ・オブ･ジ･イヤープレゼンター
・文化庁文化審議会文化政策部会　委員（2006）
・文部科学省中央教育審議会　初等中等教育分科会教育課程部会「芸術専門部会」委員（2006）

●教鞭
・多摩美術大学教授(グラフィックデザイン学科・広告映像コース)
・武蔵野美術大学非常勤講師(視覚伝達デザイン学科・映像デザイン)
・創形美術学校非常勤講師(広告)
・桑沢デザイン研究所非常勤講師(CM表現)
・広告学校講師　宣伝会議コピーライター養成講座講師

●受賞歴
・**カンヌ国際 CM フェスティバル**
グランプリ・金・銀・銅賞「日清カップヌードル “hungry?”」（1993・94・95・96）
金賞「宝酒造 “La traviata”」（1987）
・**東京アートディレクターズクラブ賞**
グランプリ「フジテレビ’90」（1990）
ADC 会員賞「日清カップヌードル “hungry?”」（1995）
ADC 賞「フジテレビ 91」「‘92」（1991 ・ 1992）
ADC 賞「PARCO グランバザール」（1994）
グランプリ「伊右衛門」（2005）
・**全日本 CM 放送連盟賞（ACC 賞）**
シリーズ大賞「サントリー白角」（1992）
ACC 賞「アリナミンＶ・シュワちゃん」（1992）
ACC 賞「ＨＯＮＤＡ　ＳｔｅｐＷＧＮ」（1997）
ＡＣＣ銀賞「資生堂・オードブラン」（1999）
ACC 金賞「サントリーＤＡＫＡＲＡ」（2000）
グランプリ「サントリー燃焼系アミノ式」（2003）
・**ニューヨーク ADC 賞**
「東レ・オルゴール」（1990）
・**ＩＢＡ賞（全米放送協会賞）**
グランプリ「ナショナルのあかり」（2001）
・**アジアパシフィック広告祭**
グランプリ「分煙システム･ミドリ安全」（2001）

2日目

第４６回東京都図画工作研究大会　中央大会

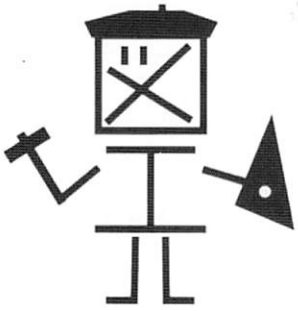
シンポジウムについて

■　第４６回東京都図画工作研究大会　中央大会
がんばれ！図工の時間！！フォーラム　共催シンポジウム

がんばれ！図工の時間！！「はみだす　ときめき」

■シンポジスト　原島　　博氏（東京大学教授）
藤幡　正樹氏（東京芸術大学教授）
苅宿　俊文氏（大東文化大学助教授）
土佐　信道氏（明和電機代表取締役社長）
辻　　政博氏（文京区立誠之小学校
都図研会長）

■コーディネーター
横内　克之　（新宿区立花園小学校）



•がんばれ！図工の時間

予断を許さない状況ですが，本年度中に示される予定の新学習指導要領は，恐らく「学力の向上」という文脈の中で，教育課程の枠組みが補強されることになるでしょう。その背景には，改正された教育基本法と教育三法，さらに教育再生会議や政治・経済等諸々の要求があります。そのような中で，図工教育の応援団がつくられ，具体的なアクションを起こしています。本シンポジウムは，「がんばれ！図工の時間！！フォーラム」を主催する中核のメンバー，そしてアーティストと都図研とで，教育の枠組みの大きな転換点で改めて「図工」「教育」を考えようとするものです。

横内　克之　　（新宿区立花園小学校）

2日目

第２５回東京都美術教育研究会　第４ブロック大会

講演者の紹介

○ 大髙保二郎（おおたかやすじろう）

早稲田大学教授

「パブロからピカソへ

ー天才少年の自立への闘いー」

●１９４５年香川県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程、
マドリード大学哲・文学部大学院博士課程満期退学。
跡見学園女子大学、上智大学を経て現職。専門はバロック美術およびスペイン美術史。

●主な著書

『ピカソ美術館　戦争と平和』（集英社、１９９２年）
『世界美術大全集　バロックⅠ』（共著、小学館、１９９４年）

●主な監修執筆

『プラド美術館』（全５巻、日本放送出版協会、１９９２年）
「ピカソ愛と苦悩―《ゲルニカ》への道」展（東武美術館、１９９５年）
「ピカソ　天才の誕生」展（上野の森美術館、２００２年）
「ピカソ　クラッシック１９１４－１９２５」展（上野の森美術館、２００３年）
「ピカソ　身体とエロス」展（東京都現代美術館、２００４年）
「プラド美術館」展（東京都美術館、２００６年）

●近著

『ゴヤの手紙－画家の告白とドラマ』（岩波書店）

小学校分科会

みて、みて こんなのつくったよ

～子どもの育ちを大切にする図工をもとめて～

みて，みて！こんなのつくったよ

～子どもの育ちを大切にする図工をもとめて～

研究局長　　文京区立礫川小学校
森田　敏裕

はじめに

東京都図画工作研究会（都図研）は東京都の図工専科教師で構成する研究団体です。主に区市町村ごとに研究・研修を重ねています。また，各地区を８つのブロックに分け，各ブロックが輪番制で企画・運営する「東京都図画工作研究大会」を毎年実施しています。今年度，本大会を担当している中央ブロックは千代田区，中央区，台東区，文京区の４区で構成しています。大都会東京のほぼ中央に位置する少さなブロックですが，区ごとに地道に研究を重ねています。今大会では，各区の研究の積み重ねが生きるように，公開授業及び分科会を各区で分担する形で行うことにしました。

大会テーマと研究の方向性

「みて，みて！こんなのつくったよ」は，図工の時間によく子どもたちから発せられる声です。造形活動の多くの場面で，素材や友だちなどとのかかわりの中で，私たち教師に向かって，あるいは友達に向かって発せられる，自分の表現活動を通した自己実現的な喜びの声です。

「いいこと考えた」「いいこと思いついた」などの言葉も同じです。そのような子どもの主体的な，自ら育つ実感の声を引き出すような授業を子どもと共につくり，子どもの表現を大事に受け止めて，また子どもへ返していくことが「子どもの育ち」を大切にすることになるのではないかと考えました。

そこで，子どもが育ちを実感している象徴的な言葉「みて，みてこんなのつくったよ」をメインに～子どもの育ちを大切にする図工をもとめて～を大会テーマとしました。

「みて，みて！こんなのつくったよ」は活動の結果としてだけでなく，活動の過程でも発せられます。自分で自分のよさに気がつき，自分で判断し，自分の心地よさを伝えようとしています。自分の活動に共感を求めています。子どもが生きている実感を表しています。子どもから教師へ，子どもから子どもへ，また，活動や作品の紹介として，教師から子どもへも発せられる，まさに，キーワードであると考えます。

私たちは，子どもと共に創り出す図工の時間に，子どもに何が起き，どのような自ら育とうとする能力（自ら感じ，考え，判断し，実行）を発揮し，何が育っているのかを子どもの育ちに寄り添って読みとりながら，支援，共感を繰り返していかなければなりません。そして，その価値を広めていかなければならないと思っています。

都図研大会は分科会テーマを切り口として「子どもの育ちを大切にする図工」を提案します。これは，関ブロ大会テーマの「人間形成としての美術造形教育」にも当然つらなるものです。私たちはこの大会をきっかけに，図工を通して子どもの育ちを深く考え，大いに議論し，図工教育が子どもの育ち（人間形成）にとって欠かせないものであることを多くの人々に確信していただけることを期待しています。

「つくりだす喜び」分科会

・子どもの生まれもったよさである「力」を「子ども力」と名付けました。「子ども力」が十分に発揮されている時，驚きや喜びを伴いながら，学びが身体化するのではないでしょうか。喜びを検証するのではなく，子どもと他者との相互行為から「子ども力」に学ぶことの意味を考えます。

「他者や世界との関わり」分科会

・１年生と幼稚園児の交流。文京区と台東区の同じ４年生による交流。台東区と文京区で収集した素材との出会い，融合など。子どもと子ども，子どもと大人，大人と大人の温かい関係をめざします。

「日常に生きる図工」分科会

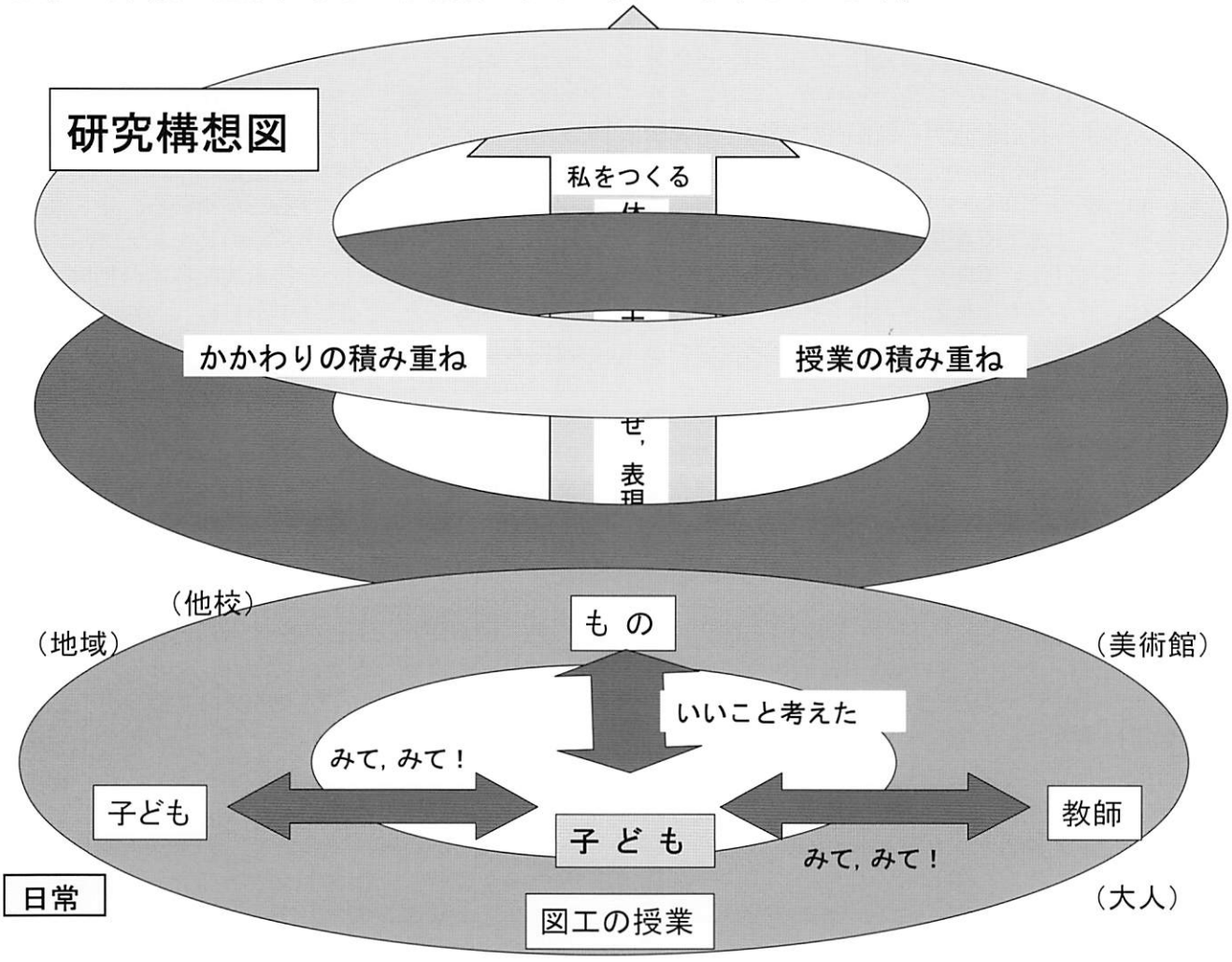
・子どもがつくる，みる，感じる喜びで輝く瞬間を共感をもって受けとめ，そこで生まれる「子どもの育ち」をどう日常に返していくのかみなさんと共に考えたいと思います。

「私をつくる（私＝人間形成）」分科会

・子どもがつくる過程において，様々なこととかかわり合い，試行錯誤しながら自分らしさを発見したり，困難を乗り越えたりしながら成長していくことと捉えました。自分と対話し，新しい自分やすてきな自分を発見していけたらという思いを込め私の世界をつくりあげます。

「体と心を働かせた造形活動」分科会

・「子どもスイッチ」というキーワードをもとに研究を行いました。感覚的な体験を通して子どもから表現が生まれるところを見つけていきたいと考えています。



●分科会　1

つくりだす喜び

東京都　中央区立泰明小学校　三浦　百合子

■　提案発表内容の要旨

子どもたちが造形活動を楽しんでいるとき,「いいこと考えた。」というつぶやきをよく耳にする。これは，今までの自分ではない何か（他者）に働きかけられ，新たな発想が生まれたときに発せられる言葉である。このような言葉が発せられるとき，子どもたちの表情が変化し，体が生き生きと動き出す。つくりだす喜びは，与えられるものではなく，子ども自らの出会いや発見によって，おのずと沸きあがってくるものと考える。

私たち教師（大人）は，子どもたちのこのようなできごとにどれだけ気づくことができていただろうか。

子どもたちは，私たち大人とは違い，自己と世界,または,自己と他者との境界が流動的であり,意味が固定されていないことが多い。そのため,様々なできごとにかかわり，驚きや喜びを伴いながら発見をしつつ,「新しい知」をつくり，つくりかえ，つくりつづけている。つまり，子どもたちには，本来，自己と世界を流動的に越境する柔軟な感性や,未来に向かって生きようとする力,「新しい知」をつくりつづける力が備わっていると考えられる。このような子どもたちの力を「子ども力」と名付けた。本研究では，この「子ども力」に着目し,「子どもと他者との相互作用･相互行為」と「教師の働きかけ」という二つの方向で進めることにした。

本研究は,題材開発や指導方法の工夫ではなく,子どもの学習場面に臨み，子どもの側から観察・記録し，その場のできごとを分析しながら考察することを通して，学習内容を改善していこういとするものである。

■　成果と課題

・学習観察・分析を通して,「子ども力」を発見し，つくりだす喜びに満ちた子どもの姿から,指導のねらいを評価していくことによって，学習内容の改善を図ることができた。
・教えるためには，子どもの姿に学ぶことから始めるということを，今後も大切に，学習内容および授業の改善を図っていきたい。

●分科会　1

つくりだす喜び

千葉県　香取市立大倉小学校　木内 美香子

■　提案発表内容の要旨

本来,子どもは自分の思いや願いを絵にしたり,形に表したりする表現の欲求を持っている。しかし，物にあふれた現代社会において，既製のおもちゃを使って遊ぶ機会が多く，子ども達が遊びの中で絵を描くという経験が少なくなっている。また，核家族化が進み，家庭環境や生活経験の違いも大きくなり，小学校に入学する頃には描画に対する関心に個人差が生じてしまっていることも事実である。

近年，私が受け持った１年生は，半数近くが絵に表す活動に苦手意識を持っていた。表現しようとする思いや意図はあるが，自分の思い通りに描くことができず，活動が停滞してしまう児童も見られた。

そこで,「自由に思いのままに」絵に表すには,低学年段階において基礎となる技能の習得が必要ではと考えた。その一つが表現しようとする思いや意図を形に表そうとする力（構想を練る力）である。これを「イメージを持つ力」と捉え，育成のための活動と支援の工夫を試みた。もう一つが用具の扱い方を身に付けることである。中・高学年の児童が苦手とする水彩絵の具をあえて用い,適切な題材を選択したり初歩的な技能の指導を行ったりすることで，低学年から慣れ，親しみ，自分の表現に生かすことができればと考えた。２年間の描画指導について，児童の作品をもとにレポートにまとめた。

■　成果と課題

・低学年において「イメージを持つ力を育てる」という考えを持って，１題材ごとにねらいを絞って指導・支援を行ったことで，どの児童もイメージを持ちながら絵を仕上げることができ,満足感を得ることが出来た。
・友達の作品を鑑賞する時間を多く設定したことで，よいところをまねたり，自分の作品を見直したりすることができ，構想の確認や練り直しに役だった。
・広がりのある題材において，児童一人ひとりの思いを理解し，指導・支援することの難しさを感じた。構想を練る段階で，児童の思いをくみ取ることが重要である。

●分科会　２

他者や世界とのかかわり

～造形表現活動を通したかかわり合いから育つ力を考える～

東京都　台東区立金曽木小学校　餅　和子

■　提案発表内容の要旨

子どもは生まれたときから全身のさまざまな感覚を十分に働かせて，親や，自分の周りの宇宙，つまり人や物，事と，密接につながって，深く，温かくかかわっています。

豊かなかかわり合いのひとつひとつが，子どもの心の中に“生きるって楽しい”という感情を生み，子どもの活動意欲を高めます。

そして芸術的に，自由に，人や物に働きかけるときにこそ，想像力を発達させると考えます。

しかし今，子どもを取り巻く家庭や，地域，社会の環境は大きく変化し，人間関係はますます希薄になっているのではないでしょうか。

台東区では，「子どもの世界を広げよう」というテーマで研究を続けてきました。

「子どもの世界」を，わたくしたちは，

１．子どもが周囲を見ている見方，感じ方。

２．子どもの想像するイメージの世界。

と捉え，それはつまり子どもの内面世界ですが，一人一人の子どもが心の中に持っていて，外界に表現されたときに，初めて他者の知るところとなるものと考えます。

造形表現活動を通して，“子どもと子ども”，“子どもと大人”，“子どもと材料・場所”とかかわりあいながら表現することが，どのように子どもの世界を広げ，どのような学びの場を創り出せるのかを，探りたいとおもいます。

■　成果と課題

事前授業研究では，子どもが自分の考えや感覚を働かせて，材料とかかわり，自分の表現を試みること，それを友だちに伝えたり，感じたことを交流させたりしながら表現することで，お互いの感覚や発想を刺激しあい，子ども同士の相互作用による学び合いから，より豊かな造形表現が生まれることを，随所に見て取ることができました。より豊かな造形表現や，円滑で，子どもの心に深く残るようなかかわりあいを展開するためには，教師はどのように授業を構成し，指導や支援をしていくか，教師の役割について研究を進める機会としたいと考えます。

●分科会　２

他者や世界とのかかわり

長野県　長野市立三本柳小学校　中塚　洋介

■　提案発表内容の要旨

本校では，図画工作を通して，児童の健やかな成長を促す造形活動のあり方を追究していきたいと考え「豊かな感性を育む図画工作のあり方」をテーマに研究を進めてきた。さらに，低・中・高学年の育てたい力・つけたい力を明確にするため，各グループにテーマを設定した。低学年では「表現と感性の基礎を育む造形活動」，中学年では「創造性を育む造形活動」，高学年では「思いやりの心を育むための造形活動」とした。

高学年，題材名「心を届けよう～木のぬくもりを生かした玩具づくりを通して～」では，色や形について学びながら，木の特性が理解できる。また，作品を媒介としながら，人と人との心をつなぐ造形活動のすばらしさについて理解を深めることができるとともに，自ら課題を見付け，問題を解決する資質や能力を育むことができる。さらに，数十年先を見通した取り組みとして，児童が大人（親）になった時，子どもたちの健やかな成長に，玩具を通した遊びが大変有効であることが理解できる素地を育んでいきたい。これは，美術教育の重要性が理解できる人々を確実に増やしていくことをねらいとした取り組みでもある。また，本校の実践を通して，乳幼児期の美術教育と小中学校の図工美術教育とのつながりをより確かなものにしていくことで，美術教育の重要性を社会に発信していくとも大きなねらいとして考えている。

■　成果と課題

①「自分は他者のために何ができるのか」という願いをもちながら，発想・表現を追求している姿が随所で見られた。また，自分の表現が他者に認められた時の成就感を味わうこともできた。

②「木の玩具づくり」は，教科の目標と内容（表現・鑑賞）及び評価の観点すべてを網羅した大変価値の高い題材であった。また，製作途中，作品を見合ったりアドバイスをし合ったりしながら，友と学び合う姿が見られた。さらに，作品を通して遊び方を考えたり，鑑賞会の企画・運営をしたり等「総合的な学習の時間」との横断的な学習によって「生きる力」を育むことができる題材であった。

③児童の願いを実現するための指導者としての技能を高めることが不可欠である。教師の糸のこ・ベルトサンダー・ドリル等の技能を高める研修時の確保が難しい。

●分科会　3
日常に生きる図工

東京都　文京区立根津小学校　桐敷　芳子

■　提案発表内容の要旨

図工で育む資質や能力は，様々で，幅広い。学習指導要領に示されている内容そのものでもある。「日常に生きる図工」とは，題材の目新しさや，単に役立つとか飾るという視点ではなく，図工で育む力が，日常にどう生きて働くのかという視点である。それには，まず目標・内容をしっかり把握し，子どもたちに寄り添い日々の授業を充実していくことこそが第一である。そこで，内容Ａ表現（１）を中心とした授業・（２）を中心とした授業・Ｂ鑑賞を中心とした授業の研究を３グループに分かれて進めた。

～つくりだす喜びから
日常に生きて働く資質や能力を考える～

①つくりだす喜びがわく（子ども自らが自分の資質や能力を十分に働かせる）授業を創造すること。
②その喜びを授業の中で大切にし，子どもに共感的に寄り添うこと。
③そうした図工の時間を積み重ねていくこと。

■　成果と課題

第一の成果は，授業での子どもの具体的な姿から，子どもの様々な資質や能力を読み取ることができたことである。それらは真の力として日常のあらゆる場に生かされるだろう。そのような力をつけていくことは，図工のねらいでもあるが，もっと言えば，図工を通しての人間教育のねらいでもあることを確信したことである。

第二に，子どもが自分の力を十分に働かせることができるような題材を設定し，つくりだす喜びがわく授業を創造すること，さらに，喜びに共感することが子どもの育ちを大切にすることになり，日常に生きて働く力となるという認識をもてたことである。

そして，これからの課題は，目の前に生きる子どもの読み取りをさらに継続していくことと，それらをもとにした指導の改善と工夫を日々積み重ねていくことである。教師にもまた，主体的にかかわること，自分を変えていくことが求められるのである。

●分科会　3
日常にいきる図工

群馬県　群馬大学教育学部附属小学校
森坂 実紀人

■　提案発表内容の要旨

図工の授業を楽しいと感じている子どもたちは多い。しかしその理由が，自分の意志に任せて自由に好きなことができるからとか，造形の遊び活動，先端芸術のまね事のような活動をしているから，というのであれば日常に生きて働く資質や能力が培われる教科とは理解されないであろう。やはり図工においても，今までわからなかったことやできなかったことが，わかる・できるようになることで，日々の生活の中で生きて働く力を培い，実社会に生かすことのできる人間力を形成していくのではないだろうか。

本提案では，小学校５学年において，板状にしたテラコッタの粘土の組み合わせを工夫し，手や用具などを適切に扱ったり，どべで丈夫に接着したりして，つくりたい形をつくり，窯で焼き上げ，自分の気に入った焼き物のランプシェードをつくる活動を行った。この題材では生活の中に身近にある「焼き物」のつくり方を知り，自分の手で「焼き物」をつくり出す喜びを感じられるようにした。また，低学年の頃から慣れ親しんでいる「粘土」の中には，テラコッタのように焼成のできるものがあることや，焼成すると固く丈夫になること等にも関心をもつことができるようにした。粘土を焼き上げる題材は子どもたちにとって初めての題材なので，基礎的な技能等を身に付けさせ，成就感をもたせるとともに，向上心の高まりを目指すことにした。

以上のような活動を通して，日常に生きて働く資質や能力を考える。

■　成果と課題

・焼き上がった作品を手にした子どもたちは，今まで味わったことのない満足感を得ることができた。はじめはあまり興味を持てなかった子どもも，やっていくうちに楽しくなって，終わったときにはやってよかったという感想を書いていた。
・板状にした粘土を切ったり曲げたりして形をつくるので，イメージに合うランプシェードをつくるのが困難な子どももいた。

●分科会　4

私をつくる（＝人間形成）

東京都　千代田区立富士見小学校　森脇　勝美

■　提案発表内容の要旨

千代田区では，「私をつくる」を，子どもたちがつくる過程で様々なこととかかわり合い，試行錯誤し自分との対話をしながら自分らしさを発見したり，困難を乗り越えたりしながら成長していくことと捉えた。その時の達成感や自己肯定感は，次への活動のエネルギーを生み出す。次へつなげるエネルギーの連続をこの分科会では，「要求トルネード」と名付け，「私をつくる」過程と考えることとした。

■　成果と課題（○成果　●課題）

○試行錯誤しながら自己決定する機会や場面を増やすことは，子どもたちの満足感や成就感など，子どもの悩みや課題に対する思いや気付きを明確にするために効果的であった。

○自分自身との対話（コミュニケーション）の時間を設定したことで，自分の表現のよさに気付いたり，自己の好き嫌いの感覚を確かめたり，新しい自分（の趣向）を発見したりすることができた。

○自由にコミュニケーションする環境をつくることで，自分に「自分らしさ」があるように，友だちにも「その子らしさ」があることに気付くことができた。さらに相互の違いやよさを認め合うことで，自分の「自分らしさ」をさらに求め，表現していこうという意欲（要求スパイラル）が見えた。

●子どもたちが試行錯誤する行為自体が意味のあることだが，教師はすぐに手助けをしてしまうことがある。その子どもの成長にとって長い目で見守ることのできる教師の支援のあり方やバランス，力量等が課題である。

●子どもの成長を何で，どのような場面において見取るか難しい。子どもたちがどの場面で困難を乗り越え成就感をもてたかなど，判断が難しいので，子どもの思いをよいタイミングで聞き取ったり書き出させたりする評価の工夫が必要である。

●子どもの思いと教師の見取った評価には，ズレが生じることがある。子どもとの対話等を通してコミュニケーションを図る時間を取ることが大切である。

●分科会　4

私をつくる（私をつくる＝人間形成）

静岡県　伊東市立大池小学校　佐藤　彰

■　提案発表内容の要旨

子供たちの「発想の力」には，最大限発揮するまでにそれぞれ違ったスピードがあり，また，自分一人の力ではなく，友達とかかわることでその広がり方が大きく変わってくる。

図工科では，とかく完成された作品の出来不出来で評価されてしまうことが多くあるが，出来上がるまでに子供たちは数え切れない成長をしており，その過程での姿こそ，評価されるべきである。子供がどの場面でどんな力を発揮しているか，そしてそれが作品にどんな変化を起こしたのか，今回は「発想」のスピードを追いかけながら，子供の内なる成長＝人間形成の足跡を記録した。

また，人とのかかわりが，自分の思いにどんな影響を与えるかを，「アドバイスカード」や「グループ制作」を手だてとして検証した。

自分の思いが，造形表現活動を通して，どのように深化し，進化していくか，二人の抽出児の制作過程の記録から検証していきたい。

〈題材〉「ひみつのとびらワンダーランド」
〈学年〉　第４学年
〈時数〉　１０時間
〈内容〉学校のどこかに「ひみつのとびら」を作り，その中に自分が考えたワンダーランドを作ろう。

■　成果と課題

・完成した作品を見ただけでは，子供の成長をすべて知ることができないということが改めてわかった。ひとりひとりの制作過程におけるつぶやきや活動を見逃さないことこそ，その子の成長を知るということであり，確かな学力を身につけることにつながることがわかった。

・子供たちはどんな小さな作品，どんな小さな活動の中にも，自らを成長させる力を持っていることがわかった。そしてそれは，人とのかかわり，物とのかかわりによって大きく左右され，進化していくことがわかった。

・常に子供たち全員を追いかけていくことはなかなか難しい。どうすれば子供たちひとりひとりに適切な支援，適切な評価ができるか，手立てを見つける必要がある。

●分科会　５－①

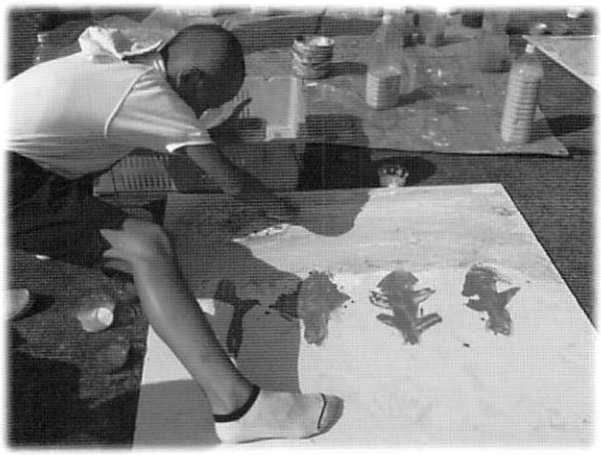
体と心を働かせた造形活動

「子どもにアートが生まれるとき　子どもスイッチ～子どもの造形と5つの接点～」

東京都　北区立滝野川第二小学校　玉置　一仁

■　提案発表内容の要旨

私たち都図研研究局は，２年にわたり「子どもにアートが生まれるとき　子どもスイッチ～子どもの造形と５つの接点～」というテーマで研究を続けてきました。子どもの表現がうまれるとき，なにが子どもの中に起こり，それがどういうものに向かっていくのかを，「子どもスイッチ」というキーワードから解き明かしていこうという研究です。子どもの思いが表現に表れるとき，そこには必ず原因や理由があるはずです。そしてそれは，子どもが自分自身の内面や自分以外の他者に何らかの働きかけをして接触を試みていることなのです。こういう一連のきっかけや流れを私たちは包括的に「子どもスイッチ」と呼び，様々な角度からアプローチを試みようと考えています。



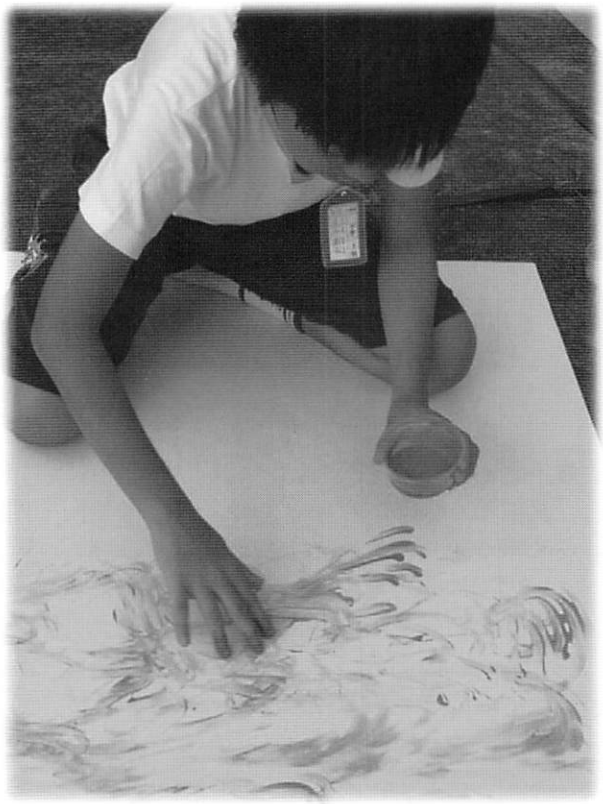
■　成果と課題

私たち都図研研究局は，心と体を働かせて造形活動をとらえる研究を常に心がけてきました。表現とは，頭の中だけで生まれるのではなく，いつも身体の感覚を使いながら，感情や知識に働きかけて成り立っていくものです。

昨年から通して７つの実践を行ってきました。５つの接点を切り口に，様々な実践を試みながら「子どもスイッチ」を探求しています。

「子どもスイッチ」は，子どもの造形表現の視点をわかりやすく示していこうと生まれてきたキーワードなのですが，スイッチという言葉の持つ狭義な意味から誤解を受けることがありました。しかし，私たちの考える「子どもスイッチ」とは，系統的，操作的な指導を意味するものではなく，子どもの表現活動を大きな流れの中から捉え，その本質を見極めて，子どもの豊かな表現を大切に見守っていきたいという願いが込められています。

分科会に参加されたみなさんといっしょに，この「子どもスイッチ」をキーワードにして，子どもの心と体を働かせた表現を深く読み解き，私たちは図工のなかでどう子どもに関わっていくのが良いのかを研究したいと考えます。



●分科会　５－②

体と心を働かせた造形活動

栃木県　宇都宮市立戸祭小学校　福田　知香子

■　提案発表内容の要旨

本校では，学校課題「豊かな心をもち，自分で考え実践できる戸祭の子の育成」を受けて，図画工作科における研究主題「自分の思いを生き生きと表現できる子どもの育成を目指して」を設定し，授業研究に取り組みました。

その中で，「表現力」の内容を「思いを見つめ，ふさわしい方法で表現できる力」と捉え，その構成要素として「かく力」「つくる力」「組み合わせて構成する力」を考えました。また，「自分で考える」「活動を振り返る」「自分の製作活動に生かす」ことができるようになった状態を，学んだことをもとに行動として表出させ，生きてはたらく力として定着した状態と捉えることとしました。

また，児童の主体的な学習を実現させるために，学習過程を「見つめよう」「とらえよう」「やってみよう」「生かそう」という４つの段階に構造化して捉えました。実際の指導にあたっては，この学習過程の中で思いや材料を見つめ，イメージを膨らませ，自分の思いを生かす表現方法を見つけ，気付いたこと学んだことをこれからの作品作りに生かそうとする姿が見られるような支援の工夫に努めてきました。

また，それぞれの学習過程で児童の発達段階に応じた鑑賞活動を取り入れ，その後の学習に生かす支援を行いました。そうした活動が，作品に対する感じ方や見方を深め，ひいては自分の表現したい思いをより深く捉える力につながっていくと考えたからです。

■　成果と課題

・自分の思いを見つめ，その思いにあった表現方法を選ぶ場を意図的に設定したことで，工夫して表現しようとする姿が見られるようになってきた。
・鑑賞活動の工夫により，多様な表現方法の良さに気付き，自分の作品に生かす姿が見られるようになってきた。
・特に低学年においては，生活科を中心に他教科との関連を図った表現活動を取り入れたが基礎的基本的事項を踏まえた指導内容の体系化を図ることが十分でなかったので今後さらに研究を深めていきたい。

●分科会　５－②

体と心を働かせた造形活動

新潟県　上越市立上雲寺小学校　大竹　裕範

■　提案発表内容の趣旨

図画工作のよさは。言葉という表現手段に頼ることなく自分の表そうとしている思いが表現できることである。それは思いの表出エネルギーに自由度が生まれ、自己表現や伝え合いが、直感的・感性的に行われることにつながる。その意味で図画工作は、より子どもが自分らしさを生かして活動をつくり、つくりかえ、関係し合うなど、新しい自分との関係を楽しむ豊かな「人間形成」にかかる活動になる可能性を秘めているといえる。

感情も感覚も知も体も心もそれは「自分らしさ」を多面的にとらえた一つの領域であると考えると、図画工作の活動では、それらは総合されてすべて「自分らしさ」としてとらえることができる。またこの「自分らしさ」は、他者が存在して初めて意識されるものであると考えると、他者と関わり合いながら新しい活動をつくり続けていく姿の中で初めて意識される必然をもっているといえる。

本実践は、「すてきワールド」は、この「自分らしさ」を互いに意識し、思いを分かち合い、新しい活動をつくり続けていく子どもの姿を見つめようとしたものである。そのために①体験②振り返りの表現活動③創造的な表現活動④総合的な発表活動の流れを構想し実践を行った。

■　成果と課題

活動を通じて、経験に基づく思いから表現活動へ進んでいくことが大切であることがわかった。思いは、最初からあるものではなく、ある経験をもとにそれぞれの「自分らしさ」が発揮されて形作られていくものである。そこでどのような経験を行うかについての構想が後の造形表現に大きな影響を持つので、より効果的な体験活動のあり方を探る必要がある。

次に、経験は造形表現の種子であって、そこからは、自分で自分をつくり、つくりかえていく環境が大切であることと、他者との関わり合いが大切な活動上の視点であることがわかった。何から始め、どうかかわらせるか、活動プロセスをどう仕組むか。今、一番ベストな方策は何かを常に問い続け、構想を変え続ける姿勢が「生きる力＝つくる力」につながると考えたい。

●分科会　6

子どもがもてる力を発揮し，思いの実現に向けて働かせる力を考える。

茨城県　常総市立石下小学校　野村　久美

■　提案発表内容の要旨

これから大人になる子ども達にとって不可欠になるものが「創造性」クリエイティブであることだと考える。新しいものをつくり出す力は，情操的心情が豊かでないと高まらない。美しいものを見たり，感動する風景や場面との出会い。五感をフルに働かせ吸収したものが，蓄えられ何かをつくり出すときの源になる。また，本大会のテーマである「思いの実現に向けて働かせる力」とは，主体的に選ぶ(選択力)・主体的に判断する(判断力)・主体的に描いたり，つくったりする(表現力)の３つが考えられる。これらの力を育てるためには，図工の時間の中で与えられた題材を楽しみながらこなしていくことが必要である。まず，選択力では，材質を選ぶ，用材を選ぶ，色を選ぶ活動がある。次に判断力では，どんなものをどうやってつくっていくか。一番の子ども達の悩みどころである活動がある。そして表現力は個人差に関わらず，こうかかなければいけないと思っている枠をはずし，自由にのびのびととりあえずやってみる。そこから教師の支援を受け，充実した表現活動する。

この３つの力を引き出す題材として第３学年「どろどろねんどのゆめの島」を取り上げた。一人一人の思いがのびのびと表現できる題材の工夫と支援の在り方をサブテーマとして，土台となる粘土を自分でつくることに始まり，材料集め，自分がつくる物への期待感を十分に膨らませながら準備をすることで，自然に表現したい思いが大きくなり，早くつくりたくてしかたがない気持ちになってくる題材である。支援の在り方として，一人一人の思いに添った四つの支援情報(自信支援・示唆支援・共感支援・未来支援)を心がけて行った。結果として，作品完成という思いの実現のために子ども達は，内なる力をそれぞれに発揮することができた。

■　成果と課題

・授業での工夫(材料の宝箱・場の設定・音楽・鑑賞場面の持ち方)により子ども達の思いが様々に広がった作品ができた。
・制作時における，より有効な材料の画一化と自由性の選択の仕方に課題が残った。

●分科会　6

自発的な表現活動の生まれるとき

山梨県　甲州市立松里小学校　三枝　清美
泉　　薫

■　提案発表内容の要旨

図画工作科において自発的な表現が生まれるように，主に次のような取り組みをしている。

○「４つの力」の提示：図画工作科では，子どもは４つの観点に示された資質や能力を常に絡み合わせながら働かせている。４つの観点に示された内容を，子どもたちにも一目でわかるように表したものを「４つの力」(低・中・高学年ごとの文言)として，毎時間始めに掲示し，意識化を図っている。

○「ピピッとタイム」の活用：自他の作品(つくりつつある作品を含む)のよいところなどを見つける時間であり，互いにアドバイスを伝え合う場でもある。表現活動の中に意識的に設定していくことにより，鑑賞の力を頻繁に働かせるようにする。全体やグループ・個々になど柔軟に活用し，そのことがまた，表現の意欲にもつながっていく。

○家庭との連携：図画工作科の活動を作品(や作品の写真)学習カード(ふりかえりカード)と共に家庭に返し，感想や意見をもらうことで，保護者の理解を得たり，子どもたちの意欲につなげたりする。

■　成果と課題

・「４つの力」の提示により，子どもたちの意識も変わってきたようだ。高学年では，「上手」「うまい」ではなく，発想や構想の能力や創造的な技能の力をよく使うようになった。また，教師も子どもも鑑賞の能力に目を向けるようになり，活動や作品を自然に見ることができ，言葉掛けにもつながった。鑑賞と表現の有機的な関わりが見られ，認められることで意欲化が図れた。
・「ピピッとタイム」で友だちと交流することは，鑑賞について新たな視点から見るという学び合いにもなり，そこから，発想・構想の能力や創造的な技能を伝え合う場にもなった。それが，題材への関心をより深め，更なる活動への意欲にもつながっているが，活動の流れを止める可能性もあり，設定の見極めが必要である。
・家庭との連携により子どもたちの意欲が高まり，保護者の意見や感想が，教師の意欲や指導・支援の参考になった。保護者の意識の改善にもつながった。

●分科会　７－①

連携を考える（鑑賞）

東京都　府中市立日新小学校　伊東　由美

■　提案発表内容の要旨

子どもにとって「みる」ことは，楽しく魅力的な活動である。どの子も対象に出会ったときに，体全体の感覚を使ってかかわり感じ取ろうとしている。

府中市美術館は，東京，多摩地区において，開館（7 年前）以来，学校と連携し子どもたちの鑑賞活動を積極的に推進してきている美術館である。また，その活動も多様である。鑑賞教室，鑑賞授業，ワークショップ，教員鑑賞研修など，年間を通してさまざまな取り組みがなされている。

今回の発表では，その中から，昨年実施した授業の中より以下の三つの報告をする。

①美術館の展示作品を鑑賞する授業
（3 年生）

②自分の作品を美術館の市民ギャラリーに展示し，多くの人に鑑賞してもらう授業
（4 年生）

③「作品と作家とのつながり」から広げる鑑賞の授業
（6 年生）

どの授業においても，美術館という場所で造形作品や作家・学芸員，友だちと関わり合いながらみることを通して，子どもたちは心を動かし新たな見方や感じ方に気づき，それぞれの思いを豊かにしていた。

■　成果と課題

今回の授業は，美術館学芸員と教員が何回も話し合い，その上で可能になった授業である。美術館との連携を考えたとき，この子どもを中心とした鑑賞の話し合いが重要であった。美術館で教職員の鑑賞研修が毎年実施されていることも大切な要素である。

また，今回の授業は，これまでの様々な実践をもとにした環境があって設定された授業であった。多くの他地区学校においては，一部の学校で独自に行われている以外，鑑賞教室が実施されておらず，行政サイドへの呼びかけも必要である。

同時に，美術作品と子どもを引き合わせる方策を学校のシステムの中からも探っていくこと必要であろう。

●分科会　７－①

連携を考える（鑑賞）

埼玉県　さいたま市立田島小学校
才津　純子
協力者　埼玉県立近代美術館
学校・教育普及担当　田中　晃氏

■　提案発表内容の要旨

１埼玉県立近代美術館との連携

田島小学校は，さいたま市の西を流れる荒川の土手の隣で，美術館から近いとはいえない。そこで田島小では，４～６年で年間計画に位置付け美術館との連携した鑑賞の授業を行っている。それを土曜参観日などの機会を利用し，保護者にも公開している。その際美術館の学校・教育普及課の存在は大きく，学校で勤務していた経験を生かして現場の悩みをわかってくれる。我々教員に対し押し付けではなく，共に作り上げてくれようとする姿勢でのぞみ，必要に応じて他の学芸員との橋渡しをしてくれる。また教員向け展覧会の解説会を開催し，若い教員にも美術館に足を運ぶ機会を広く設定してくれている。

２自己研修の場としての美術館

学校と美術館が連携した鑑賞のプログラムを作成する「美術館利用研究会」に参加し実践したり，「夏休みの子ども向け教育普及サポートスタッフ」としての活動し，夏休みを利用して来館する子ども達と関わる子ども相談員の活動を行ったりしている。

３美術館の立場からの連携(協力者より)

埼玉県立近代美術館では，美術館の教育普及の新しい展開や発想を期待して，学校教員を教育普及担当として招き，学校との連携に力を入れている。美術館利用研究会，教員美術講座の開催などの教育普及に関わる活動や近隣の美術館との連携（うらわ美術館など），図工美術の教員や美術教育に関わる人で構成している「彩ネット」というネットワークについて紹介する。

■　成果と課題

・教員が継続して美術館と関わることで，子どもが美術館を身近なものに感じるようになると思う。

・芸術作品に様々な方法で楽しく触れ合うことは，子ども達の視野を広げ，その経験は日常の生活の中で，「見る目の成長」につながっていくのではないかと思う。

●分科会　７－②

連携を考える（幼小中）校種間の連携

東京都　新宿区立落合第六小学校　本間　基史

■　提案発表内容の要旨

造形教育においても異校種間連携の取り組みの重要性が言われている。なぜ，幼稚園や中学校との連携が必要なのだろうか。一つにはお互いの理解を図り，幼～小～中とスムーズにつなげることによって，長期のビジョンで造形教育を進めることができるようになる。

また，異年齢交流によるコミュニケーション能力の育成が考えられる。低学年→高学年に向けて「こういうものを作りたい。」「こんな風にしたい。」「一緒に作って。」高学年→低学年に向けては自分より下の学年の思いを受け止め，一緒に表現していく活動となる。「どうしたいの？」「こうしたら？」「一緒に作ろうか？」

幼・小の連携では年長組と５年生との授業「もうひとつのおとめ山」の実践例を発表し，小・中の連携では，３年生と中学２年生と建築家の方をゲストティーチャーとして迎えた「こちら落合設計事務所」の実践例を発表する。

■　成果と課題

小・中・建築家との連携の授業では，垂木を使って家を作っていく活動の中で，小学生の思いを中学生が大人の建築家の間に入って伝え，建築家のアドバイスを中学生が，小学生にわかりやすい形で示していく潤滑油となっていた。幼・小の連携では，自分の思いと園児とのかかわり合いを生かしながら，大きな画面の中でバランスをとりながら，形にしていく姿が見られた。各校種間の指導上の連携や相互理解は十分ではなく，授業を実施していく上で時間の設定など困難な面も多々あるが，連携を図ることにより，自分の学びが他者の学びになり，他者の学びが自分の学びになる，互恵性のある活動が期待される。

●分科会　７－②

連携を考える

神奈川県　川崎市立渡田小学校　桒島　千愛

■　提案発表内容の要旨

小学校図画工作科から，中学校・高校美術科までは指導要領で内容的につながりがあり，川崎市では小学校から高校までが連携をたもちながら同じ授業観に立ち授業を組み立てている。今回は中学校美術科のカリキュラムをもとに図画工作科における題材を見直し，中学進学前である高学年児童の「表現」のつながりを考えた授業を行いたいと思った。

中学校の美術科カリキュラムを見た時に，デザイン的な学習が入っていることに気づいた。デザイン的な学習には「発想・構想の能力」と「創造的な技能」が重要であると考え，小学校図画工作科の「絵に表す」という領域において，どのようにこれら「発想・構想の能力」「創造的な技能」を伸ばしていけるのかというテーマを設定した。高学年として意識も高まりつつある５年生の後期題材「もじ文字デザイン」で子ども達が文字をどうデザインしていくかを通して，このテーマに迫ってみた。

■　成果と課題

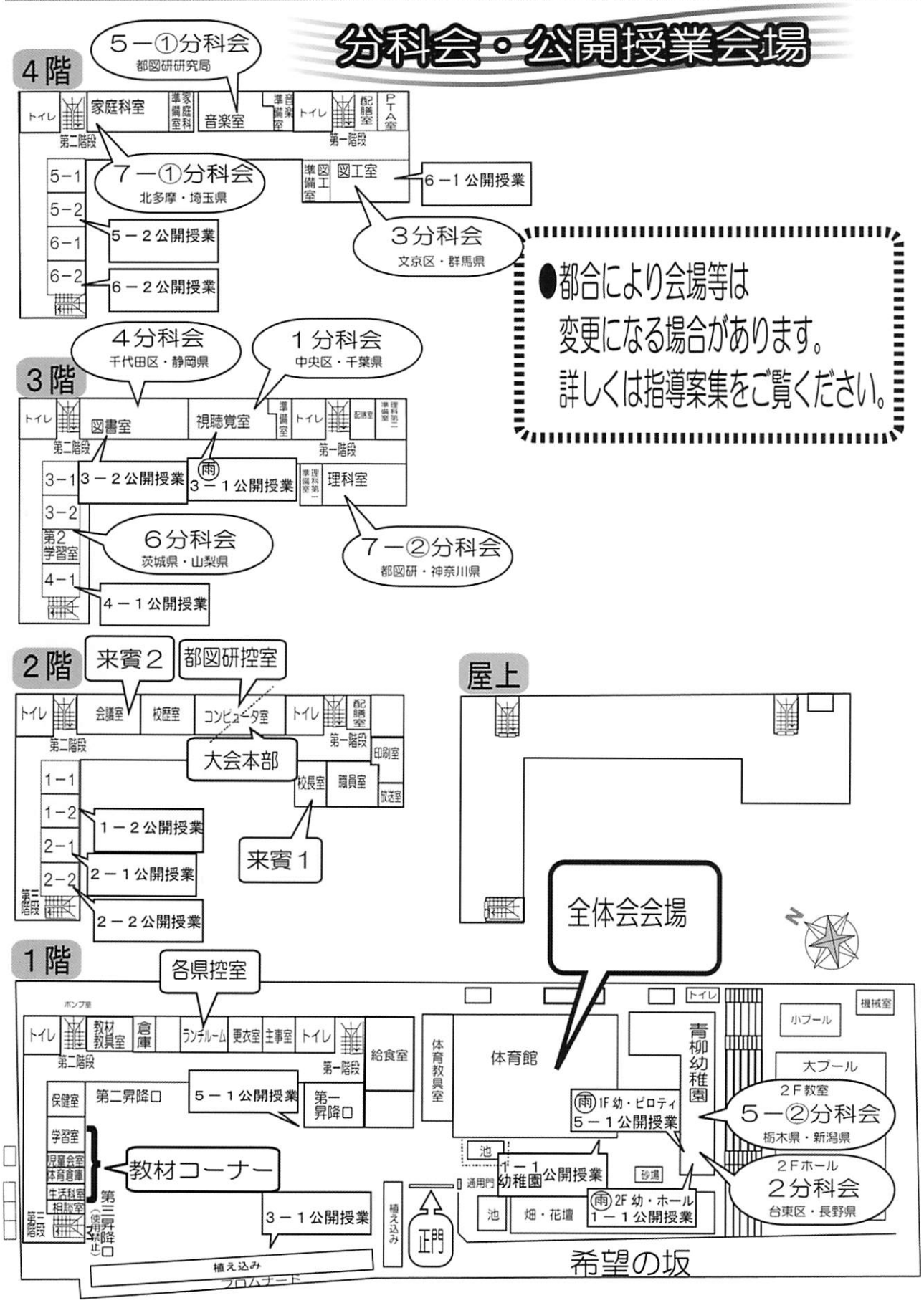
思いをふくらませるための「発想・構想の能力」では，参考作品の見せ方を工夫し色々な表現があることや，作品と向き合う中で構図を考えることが自分の思いの表現につながること，これらの気づきを大切にしながら授業を組み立てた。また，思いを支えるための「創造的な技能」では，よく見てかく時の視点を定める大切さや，自分の思いを表すための紙の選び方，絵の具のぬり方の重要性を視覚的にわかりやすく気づく工夫を行った。子ども達は，導入時に見た参考作品から「発想を広げながら文字をデザインする楽しさ」に目覚めていき，また何気ない斜めの線が奥行きや広がりを表す表現につながることに気づいた。さらに対象をみる視点を定めることで自分の思いをさらに表すことに気づいた。そして，自分の思いを表現できることに喜びを感じていた。自分の思いを表現する時に広がりや深まりが生まれ，その思いにあった表現を見つけられること。これは，自分の思いを表現する喜びと力を育てることにつながり，この喜びと力は中学校美術教育の中でも必ず生きていくことだと思われる。

小学校公開授業

公開授業一覧

学年　組	授業者	分科会	活動場所／（雨天時）	内容　題材名　等	分科会提案者
1－1 幼稚園	山崎　聖美（台東区立田原小学校） 吉田　順子（台東区立富士小学校）	2分科会	園庭／1－1	みんなでつくって！！ キラキラトンネル	餅　和子（台東区立金曽木小学校）
1－2	吉岡　琢真（八王子市立第一小学校） 都図研研究局	5分科会	1－2	こなこな　とろとろ　まぜまぜ	玉置　一仁（北区立滝野川第二小学校）
2－1	竹内とも子（中央区立明正小学校） 栃山　彰子（中央区立阪本小学校）	1分科会	2－1	ふわ・くる・ひらり	三浦百合子（中央区立泰明小学校）
2－2	平良麻由子（文京区立湯島小学校）	3分科会	2－2	ひらめき　ざくざく	桐敷　芳子（文京区立根津小学校）
3－1	白　井　誠（中央区立常盤小学校） 緑川　敏夫（中央区立明石小学校）	1分科会	校庭／視聴覚室	色　いろ　そめーる	三浦百合子（中央区立泰明小学校）
3－2	森脇　勝美（千代田区立富士見小学校） 砂澤　弥生（千代田区立九段小学校）	4分科会	図書室	箱（はこ）　はこ　ハッピー	森脇　勝美（千代田区立富士見小学校）
4－1	室　恵理子（台東区立石浜小学校）	2分科会	4－1	夢工場からのおくりもの	餅　和子（台東区立金曽木小学校）
5－1	穐本　尚子（台東区立浅草小学校） 柿沼美知子（台東区立根岸小学校）	2分科会	校庭／ 幼稚園1Fピロティ	大地からの贈りもの “土”で…	餅　和子（台東区立金曽木小学校）
5－2	小川　怜奈（文京区立大塚小学校）	3分科会	5－2	光と影のものがたり	桐敷　芳子（文京区立根津小学校）
6－1	平本かおり（文京区立林町小学校）	3分科会	図工室	光をとおして輝く形	桐敷　芳子（文京区立根津小学校）
6－2	田中　明美（品川区立立会小学校） 都図研研究局	5分科会	6－2	みることからはじまる ストーリー	玉置　一仁（北区立滝野川第二小学校）

分科会・公開授業会場


4階
5－①分科会
都図研研究局
家庭科室
音楽室
図工室
7－①分科会
北多摩・埼玉県
5－1
5－2
6－1
6－2
5－2公開授業
6－2公開授業
6－1公開授業
3分科会
文京区・群馬県
●都合により会場等は
変更になる場合があります。
詳しくは指導案集をご覧ください。
3階
4分科会
千代田区・静岡県
1分科会
中央区・千葉県
図書室
視聴覚室
理科室
3－1
3－2
第2学習室
4－1
3－2公開授業
3－1公開授業
4－1公開授業
6分科会
茨城県・山梨県
7－②分科会
都図研・神奈川県
2階
来賓2
都図研控室
会議室
校歴室
コンピュータ室
大会本部
校長室
職員室
来賓1
1－1
1－2
2－1
2－2
1－2公開授業
2－1公開授業
2－2公開授業
屋上
全体会会場
1階
各県控室
教材教具室
倉庫
ランチルーム
更衣室
主事室
給食室
保健室
学習室
児童会室
体育倉庫
生活科室
相談室
第二昇降口
第一昇降口
第三昇降口
5－1公開授業
教材コーナー
3－1公開授業
体育教具室
体育館
青柳幼稚園
1F幼・ピロティ
5－1公開授業
1－1公開授業
2F幼・ホール
1－1公開授業
池
畑・花壇
砂場
通用門
植え込み
正門
植え込み
プロムナード
希望の坂
小プール
大プール
機械室
2F教室
5－②分科会
栃木県・新潟県
2Fホール
2分科会
台東区・長野県

つくりだす喜び

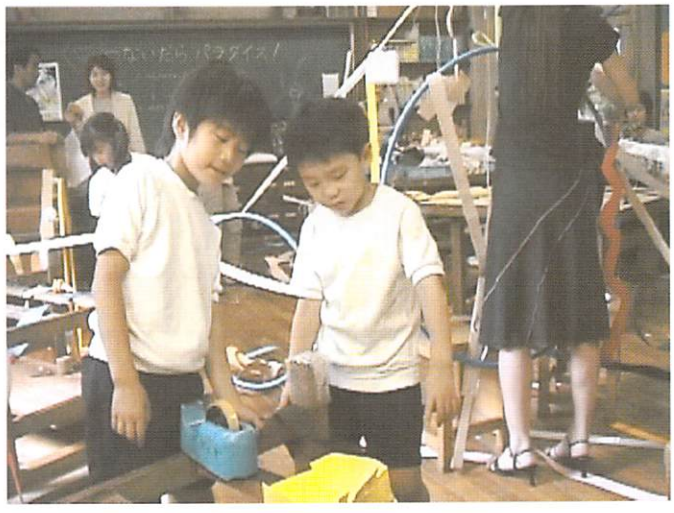
発表者　　中央区立泰明小学校
三浦　百合子

つくりだす喜びから生きる力をはぐくむ

１　はじめに

「つくりだす喜び」「子どもの育ちを大切にする図工をもとめて」というテーマを与えられ，普段与えられることに慣れていない私たちは，じっくり考えることを余儀なくされた。私たちは，つくりだす喜びを検証することが果たしてできるのだろうか。子どもの育ちを大切にするということは，どのようなことなのだろうか。

一昨年の授業研究会でのできごと。子どもたちは，様々な大きさの紙と空き容器を材料に造形遊びをしていた。A君は，手にした材料から自分の知っている身近な魚屋とそこにいる番犬を考え，つくっていた。B君は，少し離れた場所で，船をつくることを思いつき，人形をつくり，船に乗せ，A君になにやら話しかけようと近づいてきた。これから二人の海と魚屋をつなぐ世界がつくられようとしていた。しかし，そこで，A君に興味を示した教師が，A君との会話を始めると，A君は，自分のつくっている世界を夢中で教師に説明し，A君と教師は，向き合う関係となった。すると，B君は，A君を横目で見ながらA君から次第に離れていった。ここで，もしも教師がA君の背後に寄り添い，A君から見た世界を見ていたのなら，A君とB君の世界は広がり，意味がつくられつつ，二人の世界が開かれていたのかもしれない。（次の授業では，A君とB君の海と魚屋の世界が完成するのである。）



私たち教師（大人）は，子どもたちのつくっている意味を理解したり，子どもたちのつくっている世界を見取ったりする力を持っているのだろうか。

私たちは，こんな疑問から研究の視点を「子どもを見る」ということに絞り，学習観察および分析から，子どもが今を生きている現場のできごとに立会い，感じ考えながら，子どもとともに生きようとすることから研究の主題に迫ることにした。

２　「子ども力」の発見

一般的に，「私たちは，言葉によって一義的に意味を固定することによって世界や他者と安定した関係を維持することを促進している。このことは，複雑な社会への私たちの適応を可能にさせる。しかし，私たちは，世界をいつのまにか多義的な意味を孕まない，変更不可能な堅固なものとみなすようになっている。」（発達と障害を探る－第２巻　麻生武）

と考えられている。つまり，私たち大人の世界では，言葉によって意味を理解し，言分けているのである。しかし，「A＝B（かたち＝意味）」を一義的に固定することは，共通言語としての理解を可能にする代わりに「かたち」と「意味」のあいだにある多義的な意味群を排除し，イメージの広がりや「新しい知」の可能性を閉じることにもなっている。

それに比べて，子どもたちは，自己と世界，または，自己と他者との境界が流動的であり，大人とは違い，意味が固定されていないことが多い。例えば，2 年生の図工の時間，牛乳パックを材料に人形をつくった。ある子どもは，自分のつくった人形が大切で手放せず，給食を人形に食べさせていたという。その子は，人形が自分のつくった「もの」であることを知っている。しかし，人形が出来上がった時の喜びから，「私―人形」がともに生き始めるのである。その子どもにとっては，「材料―つくること―人形」が「私―生」とかかわり合い，その瞬間をともに生き合っているのである。そのような中では，さまざまな意味が流動的に浮遊し，多様な結びつきを可能にしている。つまり，子どもたちは，様々なできごとにかかわり，おどろきや喜びを伴い，発見をしたり，想像をしたりしながら「新しい知」や「新しい意味」をつくり，つくりかえ，つくり続けているということができる。

このようなことから，子どもたちには本来，自己と他者，または，自己と世界を流動的に越境する柔軟な感性や，未来に向かって生きようとする力，「新しい知」をつくりつづける力が備わっていると考えられる。このような子どもたちの力を「子ども力」と名付けた。

しかしながら，現在の社会の状況から，学習塾や受験戦争などの知育偏重ぎみの教育の中では，子どもたちが本来もって生まれたよさともいえる「子ども力」は，十分に発揮されているとは言い難い。

そこで，私たちは，この「子ども力」に着目し，従来の題材開発や指導方法などの研究をひとまず横に置き，次の二つの視点から研究を進めることにした。

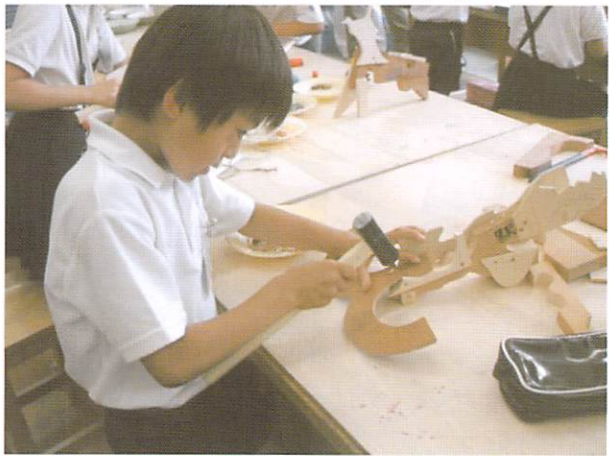
３　研究方法

＜視点 1＞　子どもと他者との相互作用・相互行為

図画工作科の学習においては，「子ども力」が十分に発揮されることが大切である。子どもが「子ども力」を発揮し，自分らしい活動を楽しんでいる時は，どのような状況で，どのようなできごとが起こっているのかということを，学習観察をもとに子どもの側からとらえ，子どもとともに考えることによって，「子ども力」を発見し，学びの成立過程を可能な限り可視化する。

＜視点 2＞　教師の働きかけ（題材・導入の工夫，支援と評価）

どのような教材をどのような方法で教師が子どもに手渡していくのか，また，教師のどのような働きかけによって，子どもたちが「子ども力」を発揮し，生き生きと学習活動を展開することになるのかなど，学習観察をもとに，子どもの側から教師の働きかけをとらえ，分析および考察し，ねらいを評価する。



本研究は，仮説を立て，実証していく方法をとるのではなく，子どもの学習活動における学びのありようを観察・分析することを通して，「子ども力」を発見し，学習課題のねらいを評価し，改善していこうとするものである。

４　実践事例１　＜教師の働きかけ分科会＞

「ギコギコ　トントン　何になるかな？」３年生　授業者　竹内とも子（明正小学校）

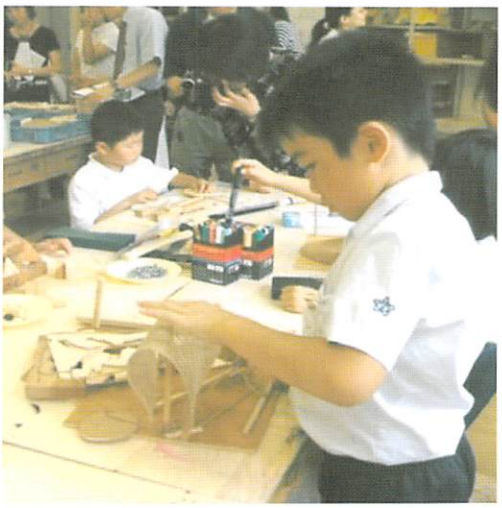
① ねらい

木切れを中心とした材料の特徴を見て，
触れて，感じながら，発想したことを表現したり，つくりたいものをつくったりすることを楽しむ。

② 本時に至るまでの学習活動

教師があらかじめ準備した様々な大きさや形の木切れを基に，何かの形を発想したり，組み合わせることによってできた形からつくりたいものを発想したりして，子どもたちは，自分の作品を何かの形に見立て，名付けていた。

③ 本時の学習活動（観察・分析・考察）



子どもたちは，ほぼ完成した作品を手にしていた。材料置き場には，新しい材料（麻布やシュロ縄，木の実など）が追加されていた。

Ｊくんがはじめに，持っていた作品は，大きな板にいろいろな形を貼り付けたような平面的なものであった。この時にはまだ，いろいろな形を並べることによって，広場，または，平面的な動物に見立てていたのかもしれない。

しかし，麻布をテントのように建てると，そこから丸い木にヒートンを付け，麻紐を使ってロープーウェイをつくり，いろいろな種類の木を置き換えながら考え，しだいに立体的な空間がつくられ，遊園地のような作品になった。

Ｈさんは，きょうりゅうのような形の作品を手にしていた。大きな板にいくつかのアーチがくりぬかれた板を立てようとしていた。恐竜の棲家か遊び場をつくるつもりだったのかもしれない。しかし，大きい板に，丸くスライスされた木を釘で打ちつけると，釘が長かったため，丸い木と板を貫通し，机まで打ち付けてしまった。そこで，教師に助けを求めると，教師は，「釘を抜くこともできるけど，釘が出た部分に他の木をつける方法もある。」と答えた。このとき，教師が釘を抜いてやることもできたのだが，二つの方法をアドバイスするだけにとどまった。Ｈさんは，机から板をはずし，飛び出た釘に別の丸い木を打ち付けて，車にした。

Ｊくんと Ｈさんの思いついたことは，教師があらかじめ予想していた活動ではない。教師は，様々な材料の特徴から，触れて，感じながら発想を広げることをねらいとして材料を提供し，**表現の内容や方法を子どもに任せた**ことによって，二人は，材料に働きかけられたり，偶然に起こったできごとに働きかけたりしながら，「子ども力」を発揮し，自らの学びを成立させていったのである。このように，子どもの姿から学習活動のねらいを見ていくことによって，子どもへの評価は，おのずと導き出されるものと考えられる。

５　実践事例２　＜子どもと他者との相互作用・相互行為分科会＞
「色のおつけもの」２年生　授業者　常川英子　（城東小学校）

① ねらい

染料の色やつけかたに関心をもち，体全体の感覚を働かせて，発想したことをもとに思いのままに表すことを楽しむ。

② 本時の学習活動（観察・分析・考察）

はじめに，数色の染料を溶かした色水とさらし布の他，多様な材料や用具などが準備されていた。A さんは，さらし布を少しずつ色水につけ，絞ってから別の色につける行為を繰り返し，５色の同系色をつける。それを広げて干すと両手を振ってから膝をたたき，にっこりする。この行為は，自分の活動に対する「うまくいった」という自己評価であると考えられる。次に，小さい寒冷紗を選び，スキップをしながら色水の場所へ行くが，色につけて開くと，「小さい」とつぶやく。ふたたび，大き目のさらし布を選び，丁寧にたたんで，少しずつすべての色をつける。カラフルな色の模様を見て，満足げに側にいた友だちに広げて見せ，さらに，干してからも別の友だちに楽しそうに笑いかける。その後もＡさんは，綿にスポイトで色をたらしてつけたり，クリアーファイルに色水を入れ，はさんでみたりしながら，次々と違う材料を試していった。Ａさんは，自己評価することによって，「私―生」を立ち上げ，自らの「子ども力」を発揮しながら生き生きとつくり続けていったのである。

Ｂくんは，長いさらし布を選び，「大きすぎたかな」といいながらたたんでいき，最後にはくるくると巻き，ロールの両端の先から色水をつけ，ロールを折って，中央にも色水をつける。Ｂくんがそれを干している側に，同じ長さで１色に染めた布をＣくんが干そうとしていた。Ｂくんは，自分の布を留めるとＣくんの干している布を手伝いにいき，それからは，ＢくんとＣくんが競い合うように，板やスポンジに色をつけていき，最後に，ビニル傘に色を付けようとしたところで授業が終了する。ＢくんとＣくんは，それぞれ自分の作品を見比べながら，「これが一番うまくいったかな」と満足げにいい，さらに，色に染まった手を，笑いながら教師のエプロンにつける。この二人の行為は，次々といろいろな材料を自ら試し，つくっていったことへの喜びと，ともに活動したことへの満足感の現れであり，その喜びを教師にも分かち合おうとしたものであると考える。

６　まとめ

私たち教師は，教材開発や指導方法を研究することも大切であるが，このような子どもたちの姿から「子ども力」を発見し，自らの学習計画の内容を評価し，改善していくことが，子どもたちの＜いま＞を生きることとしての学びを保障していくことになるのではないかと考える。

他者や世界とのかかわり

～造形表現活動を通したかかわり合いから育つ力を考える～

台東区立金曽木小学校　餅 和子

（１）台東図工部研究テーマ「子どもの世界をひろげよう」とかかわり合いとの関連について

「子どもの世界」を，子どもの内面世界である

- 子どもが周囲を見ている見方，感じ方。
- 子どもの想像するイメージの世界。

と，子どもの外面世界としての

- 人やもの（材料や用具），こと（場所や環境）

と捉える。

造形表現活動する子ども達は，全身の感覚を働かせて材料や友達とかかわり合いながら，自分らしい発想を広げて新たに何かをつくり出そうと意欲的に活動する。その時，子どもは心の中に“生きるって楽しい”という感情を見出しながら，さらに活動意欲を高めて造形活動を進めていく。また，その活動では，材料や周囲の友達，環境との出会いから，はじめに想像したことが考えもしなかった新たなものに変化していくこともある。ここにかかわり合いながらつくることのよさや可能性が生まれる。子どもの内面世界は，外面世界から影響を受け，変化し，さらに外面世界を媒介として他者に発信（表現）される。

（２）図工におけるかかわり合いの具体的な姿

造形表現活動におけるかかわり合いは，「こうしてみたらいいんじゃない？」と伝え合うような言語によるかかわり合いもあれば，察することで相手の考えを理解し合ったり，目と目で通じるような非言語のかかわり合いもある。その中でも色や形，材料をもとに，造形的な活動を通してかかわり合う姿こそ，図工にしかないかかわり合いの姿と言えるだろう。本研究では，異なるかかわり合いの姿を３つの授業で提案する。

（３）成果と課題

・新鮮な材料や表現方法との出会いは子どもたちの多くの発見や工夫を生み，それを伝え合おうとするかかわり合いが生まれた。

・かかわり合うことで，お互いに共通したものや違っているものに気付き，そのよさを発見しながら活動していく姿が見られた。

材料や環境，友達に刺激されたり，影響を与えたりしてかかわり合うことで，より強くつくり出す喜びを味わうことができるように今後も研究を進めていく。

みんなでつくって！！キラキラトンネル

発表者　台東区立田原小学校　山﨑　聖美
台東区立富士小学校　吉田　順子

○題材について

この題材では，幼稚園児と１年生の児童が共にかかわり合いながら透明な材料を用いて造形活動をする。幼稚園児と１年生とでは１年間の違いがあるが，普段学習している環境や内容が違うため，見方や感じ方，考え方には少なからず違いがある。そんな幼稚園児や１年生が一つの大きなものをつくることを通して，「１年生になるとこんなことできるんだな！」「幼稚園の友達もエネルギーあるなあ！」といったお互いのよさや違いを感じ合いながら，自分の世界を広げていくことができると考える。そのようなかかわり合いを生み出すようなきっかけ作りを教師は工夫し，子どもたちの達成感や成就感を大きくふくらませられるような授業を作っていきたい。

教師と子ども
とのかかわり

子ども同士
とのかかわり

子どもと世界
とのかかわり

○育てたい子どもの力

きれいな光や色を実感・体験させ，自らつくり出す喜びを味わわせたい。また自分だけでなく，友だちのものとの重なり，大きなトンネルとしての見え方，友だちが感じたこと，光のあたり方，内と外の見え方…様々なことを味わってほしい。

ステキな空間をつくり，夢の世界を思わせるような色や光を感じさせたい。いつまでも心の中に夢をもち，思いを広げていけるような子どもたちに育ってほしい。

夢工場からのおくりもの

～ドリーム・ファクトリー～

発表者　台東区立石浜小学校
室　恵理子

○題材について

本題材は，造形活動を通して他者とかかわり合いを持たせる内容である。他校の児童から依頼されたテーマを，自分なりに捉えなおして作品にする。まだ見ぬニックネームの友だちの喜ぶ姿を想像しながら，試行錯誤を繰り返し製作に励む。そこには，与えられた課題に向かうのとは異なる，子どもが自ら考え，悩み，製作を楽しむ姿がある。また，作品の鑑賞においても，主体的に製作したからこその関心の高まりや，個々の表現の違いへの気付きも期待できると考えた。このような造形活動の交流は，実現への思いはあっても様々な校内事情等でなかなか実現できなかったのではないだろうか。しかし，クリアすべき点はいくつかあっても，この活動が今後の子どもたちの造形表現へ与える影響は大きいと考える。

欲しいものは安く早く手に入り，携帯やパソコンのメールですぐに連絡が取り合える現代。手作りのプレゼントや直筆で書いた手紙をやりとりする経験は少なくなっている。人と人とがつながる温かさや心地よさを図工教育を通して実感させる学習の場としたい。

○活動の内容と方法

ここでは，図工室をどんな夢でも叶えてくれる夢工場という設定とした。初めに，Ａ校児童が切手のデザインをしてＢ校児童に渡す。Ｂ校児童はその中から好きな切手を選んではがきに貼り，自分の“ほしいもの”を書いて，Ａ校の夢工場に送る。Ａ校児童は，自分の切手が貼ってあるはがきに書かれた“ほしいもの”を作品にして届ける。その間のやり取りは，想像力を膨らませるために，本名ではなくニックネームで行う。最後に感謝の気持ちを込めてメッセージを渡し，互いに鑑賞する。

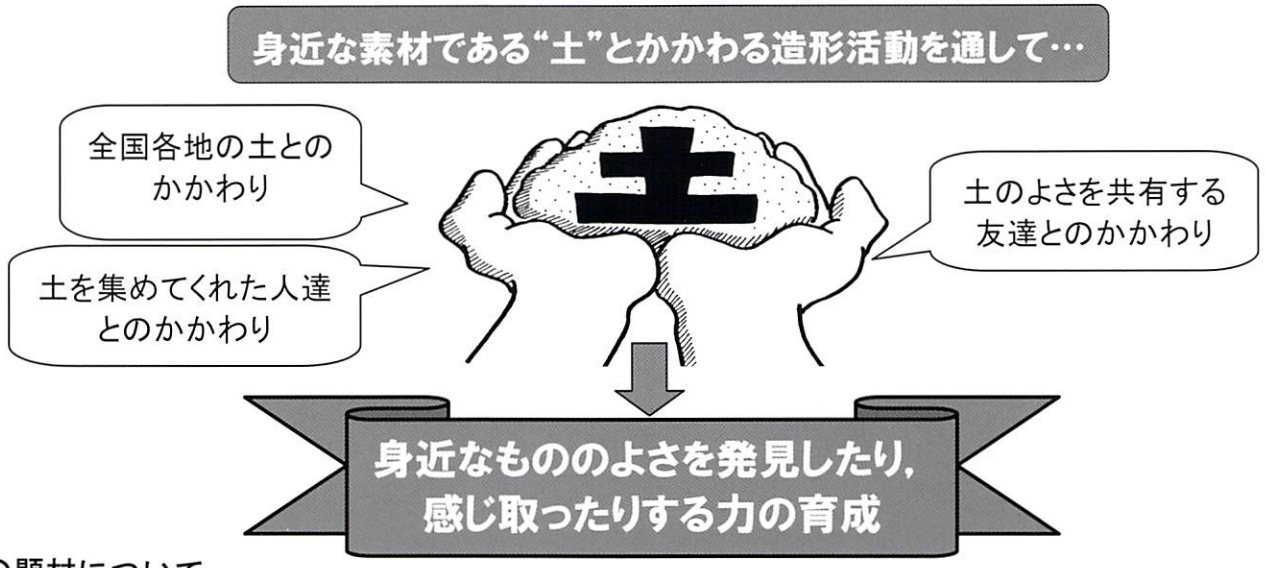
○実践から

事前の研究授業を近隣の学校同士で行った。作品が出来上がった時点で，それを受け取るためにＢ校児童がＡ校児童を訪問するかたちで対面をした。子どもたちはウキウキ，ワクワク，ドキドキのこれまでにない時間を体験した。「相手が喜んでくれてうれしかった。」「自分の予想以上の作品が届いてうれしかった。」「今までやった図工の中で一番楽しかった。」「またやりたい！」などの感動体験が感想として寄せられた。

また作品鑑賞では，制作者と注文者が作品を前に率直に語り合う場が生まれ，従来以上に充実した観賞活動となった。子どもたちの満面の笑顔が室中に広がり，よいかかわりがもてたことを実証できた事前授業だった。

大地からの贈りもの“土”で…

発表者　台東区立浅草小学校　穐本　尚子
台東区立根岸小学校　柿沼　美知子



○題材について

普段何気なく足元にある土を，描画材とし，その多様な色の美しさや，触った時の心地よさを感じ，自然素材としての土のよさを味わいながら絵を描く活動である。

まず子ども自らが土を採取し，乾燥させ，ふるいにかける。するとぼそぼそしていた土が，さらさらの土パウダーに生まれ変わる。農作物を育てたり，粘土として陶芸に使われるといった，日常の土の見方を転換し，描画材としての新たな価値が生まれる。自分が集めた土が，触り心地のよい素材に生まれ変わったことで，素材に興味・愛着をもち，児童にとって素材に対する価値観を大きくゆさぶる体験をさせたいと考える。

全国各地には，茶，黒，赤茶，黄色，ピンク，緑，白，といった様々な色の土がある。児童が自ら集めるとともに，台東区，文京区の学校にも呼びかけ，多様な色の土を用意した。

たくさんの色の土を児童が鑑賞することにより，絵を描く興味関心を高め，構想を膨らませるきっかけになると考える。

また絵を描く紙を長いロール紙にし，友達と一続きの場所に絵を描き，お互いの活動が見合えるような場の工夫をすることで，友達との自然なかかわり合いが生まれ，材料を交換したり，友達の活動のおもしろさに気づいたり，活動のヒントを発見したり，活発なやりとりが生まれることを期待する。

「土」での活動を通して，今まで気がつかず見落としていたものや身近にある様々なもののよさや美しさを発見する力，感じ取る感覚を培いたい。

「日常にいきる図工」分科会

発表者　　文京区立根津小学校
桐敷　芳子

～公開授業に向けての文京区の取り組み～

図工で育む資質や能力は，様々で，幅広い。学習指導要領に示されている内容そのものでもある。「日常に生きる図工」とは，題材の目新しさや，単に役立つとか飾るという視点ではなく，図工で育む力が，日常にどう生きて働くのかという視点である。それには，まず目標・内容をしっかり把握し，子どもたちに寄り添い日々の授業を充実していくことこそが第一であると考える。そこで文京区では，幅広く内容Ａ表現（１）を中心とした授業・（２）を中心とした授業・Ｂ鑑賞を中心とした授業を行うこととし，３グループに分かれて研究を進めた。

それぞれのグループごとに以下の視点をもとに授業を提案し「日常に生きる図工」を考えた。

～つくりだす喜びから日常に生きて働く資質や能力を考える～

・第一に，つくりだす喜びを味わう（子ども自らが自分の資質や能力を十分に働かせる）授業を創造すること。
・第二に，その喜び（自分のもっている資質や能力を自ら十分に働かせたという実感）を授業の中で大切にすること。子どもに共感的に寄り添うこと。
・そうした図工の時間を積み重ねていくことによって，自分に自信を持って自分らしさを表現できるようになるだろう。そうして育まれた力は，真の力として図工以外の日常のあらゆる場に生かされると考える。
・どのような力が，どのように生きて働くと捉えるのか，授業を通して提案していきたい。

【つくりだす喜びがわく授業】
・「みて，みてこんなのつくったよ」「いいこと考えた」「いいこと思いついた」等，つくりだす喜びの言葉や表情，自発的な表現活動を誘発するような授業を創造する。
・これらが活動の結果としてだけなく，活動の過程で，子どもから教師，子どもから子どもへあらわれてくる楽しい授業を創造する。
・授業のねらいと子どもの実態，活動から読み取った子どもの姿を常に照らしあいながら指導の改善を積み重ねていくことが重要な課題である。

【つくりだす喜びを大切にする授業】
・「みて，みて○○さんはこんなのつくったよ」「いいこと考えたね」「いいこと思いついたね」等，教師は子どもの在りようを認め，子どもたち同士が友達のよさに気付くことできることができる雰囲気を創り上げる。
・子ども自らが働かせた資質や能力をどう受けとめ，どう返すか。子どもへの支援・共感等を工夫する。
・図工を通して，一人一人の人間の成長を見守っているという姿勢をもつ。

Ⅰ　内容，Ａ表現（１）を中心とした第２学年の授業に向けた取り組み

子どもたちの
造形活動を楽しむ力・試行錯誤する力・考える力を育む

【つくりだす喜びを味わう授業への手だて】
- 材料選択の工夫に加え，児童の実態に即した授業を構成することにより，興味や関心を引き出し，造形的な創造活動の体験を深める楽しい造形活動をする。
- 「私はこうしよう」というような，一人一人が自分なりのめあてを持ち，新たな考えや方法などをつくりだせるような授業を工夫する。
- 試行錯誤しながら手や体全体の感覚などを働かせることができる楽しい活動を工夫する。
- 友だちとかかわりながらの活動の楽しさも味わえる工夫をする。

【つくりだす喜びを大切にする授業への手だて】
- 一人一人の子どもの活動を肯定的にとらえ，共に楽しみながら，共感的な言葉をかけるような教師の姿勢や態度を大事にする。
- 子ども同士が互いのよさを認め合えるような雰囲気をつくる。
- 作品だけでなく活動から，表したいことや，表現への思いやこだわり，どのように表現を進めているかなどを読み取るようにする。
- デジタルカメラなど視聴覚機器を活用し，活動の記録や評価，相互理解に役立てる。

子どもたちが
自分の考えを自分の力で表す

事前授業「きらきら水が光ったよ，おどったよ，うたったよ」

目標・水の美しさや面白さを味わいながら，水を入れ物にいれて並べたり，組み合わせたりして，自分なりのめあてを持って活動する。

内容・水を色々な入れ物に入れてみようというところから始める。児童は自分が水を入れたいと思ったものを選び，あらかじめ家から持ってきておく。それらの道具や学校で用意したものを組み合わせて，多様な水の表情を味わいながら自分のめあてをもって活動する。

題材について
- 生活のための水という存在を超えて，水のもつ特性や美しさに児童の目を向けさせたい。それは，光を通したり反射したりする美しさであったり，形をもたない流れる動きの面白さであったり，袋に入れた時の柔らかい感触であったり，水の流れる音であったりする。このように，子どもの身体感覚を刺激し，何度も試しながら活動できる，水を素材とした題材を設定した。

Ⅱ　内容，Ａ表現（２）を中心とした第６学年の授業に向けた取り組み

子どもたちの
自分の目的や主題を持つ力・創造的に表現する力・考える力を育む

【つくりだす喜びを味わう授業への手だて】

・子どもの実態に合わせ，それまでの造形体験を生かし，創造的な想像力などもてる力を総合的に働かせるような題材を設定する。
・感じたことや想像したことをもとに，表したいことやつくりたいもののおよその目的や主題をもてるように，題材（名）や導入・展開を工夫する。
・子どもが自分で材料を集めたり，選んだりすることで主体的にものとかかわるようにする。
・造形表現の自由さや自己実現的な楽しさを味わえるような題材を設定する。
・造形的な新しい試みをすることで，つくりだす喜びの実感，やり遂げた充実感をもたせるようにする。

【つくりだす喜びを大切にする授業への手だて】

・過程を重視し，その子なりの取り組み方を把握・理解してつくる意欲を大切にする。
・行動観察だけでなく，画像による情報・計画表や制作カード等を活用して子どもの思いや考えを読み取り，一人一人の子どもへの共感的支援を繰り返す。
・共感することを基本とする。一人一人のよいところを見つけて直接的に，間接的にほめる。
・子どもから読み取ったことを次の指導に生かす。さらにそれを積み重ねていく。
・友だちとのかかわりから，自分の表現を振り返り，新しい考えを取り入れるなどして，思いのままに活動することができるようにする。

子どもたちが　**主体的にかかわる**

事前授業「宇宙から来た物体Ｘ」

目標・ありふれた廃材を金や銀に塗ることで，そのものの印象が変化するおもしろさに気付き，材料の形や色・友だちの表現方法等から発想を広げ，効果的な表し方を試したり見つけたりしながら工夫してつくる。

内容・集めてきた材料を金や銀色に塗り，「宇宙から来た物体」をヒントに自分のつくりたいものを決めてつくる。

題材について

・生活の中で普段は気にもかけないものを，金色や銀色にすることで，そのものの印象が変化するおもしろさに気付かせたい。また，テーマに沿った視点から材料探しをさせることで，ものの形や質感を注意深く見るのではないかと期待する。主体的にかかわる力を普段の生活においても発揮させた。

Ⅲ　内容，Ｂ鑑賞を中心とした第５学年の授業に向けた取り組み

子どもたちの
体全体で感じ取る力・互いに認めあう力・考える力を育くむ

図工の「鑑賞」の場合，自分たちの作品や作品をつくる過程でのお互いの活動のよさを感じ取ること，また，身のまわりの材料や場所の特徴を感じ取ることなども「鑑賞」と捉える。指導要領にも，小学校の図画工作科における「鑑賞」は，芸術作品に限ることのない幅の広い活動として定義されている。また，「Ａ表現」との関連を図ることとある。そこで，子どもたちが，身のまわりの環境や材料などに主体的に働きかけながら，「みる・感じる」喜びをとおして，自分の体と心から直接的に感じ取る力を育てたいと考える。「鑑賞」は，独立した領域として扱わなくてもよい。「表現」と「鑑賞」の活動がいったりきたりする中で，新しいものの意味や見方を生み出し，子どもたちが自分を変えていく。そのことが日常に生きて働くことにつながるのではないかと考える。

子どもたちが　**自分を変えていく**

事前授業「ちょっとかわって・いいかんじ」

目標・身のまわりの場所やものの特徴を感じ取り生かしながら，自分なりに工夫して造形的に働きかけ，場の変容をとおして「みる」ことの面白さ，楽しさを十分感じ取る。

内容・教室の机や椅子，床や廊下の隅，階段や手すりなど思い思いの場所に，身のまわりのもの（例：三角定規，コンパス）を置き，チョークをぼかし網ですって，粉にしてふりかけ場を変容させる。

・「枠」を使って，見え方を感じ取りながら鑑賞する。

・デジカメで撮った映像をモニターでみながら，自他の活動の面白さをみつけ話し合う。

題材について

・普段，感じたりみたりしている場や環境を自らの造形的な働きによって変容させていく過程のなかで，「鑑賞＝みる」行為を活性化させたいと考えた。

・今回は個人の活動から入り，自然発生的な共同の活動を期待した。

『私をつくる』分科会

発表者　　千代田区立富士見小学校
森脇　勝美

（分科会提案）
　子どもたちがつくる過程で様々なこととかかわり合い，試行錯誤し自分との対話をしながら自分らしさを発見したり，困難を乗り越えたりしながら成長していくこと。

１．はじめに－「私をつくること＝自分自身の投影」

近年，「13歳のハローワーク」という子ども向けの仕事・職業紹介本がヒットした。人生の設計図をもてないフリーターやニート，何をすればいいのか分からない若者の増加などの社会現象が執筆のきっかけであると著者の村上　龍氏は述べている。

確かに人生の目的や意識があまりもてないまま，取りあえず進学をしたり就職をしたりする若者たちはとても多い。

そこで，今教育では，自分の将来に夢や希望をもち人生を生き抜くために，子どもたちが将来の人生設計に向け，自分は何が好きか，自分の適性は何か，自分の能力や才能は何に向いているか・・・自分を知り，自分を見つめ，興味・関心や好奇心をもって学び続ける力を育成することが求められている。

図画工作の時間，子どもたちは，目を輝かせ，体中でつくる喜びを表している。そして，子どもたちは，様々なかかわりの中で試行錯誤し，自分と対話しながら自分の世界をつくり上げていく。その過程には，豊かな人間形成へとつながる道があると考える。

「ぼくは，青がすき」「こんな色ができた！すてき」「ふわふわした綿の感じがすき」など，子どもたちが自分の表現を語る時，自信と満足感に満ちている。

また，私たち教師も，この子どもたちの表現活動から生まれる時間を共有できる喜びに浸る。

H18　研究授業風景3年「木工作」

子どもたちは，無意識にあるいは意図的に，自分の好きな色や形，心地よい感触や行為などを選択しながら自己を作品に投影し，自分らしさを表現している。自分らしい好みや傾向を色や形，材料などに託し主観的に表現しているのである。

２．分科会提案について

千代田区教育会図画工作部の研究のテーマは「児童の思いにもとづく造形活動」である。子どもたちが自分らしい発想を大切にし，創造力を働かせて楽しみながら造形活動に取り組めるよう研究を進めてきた。このことは，自己を肯定し，自己の課題を解決しながら自分を生きるという本大会の分科会研究テーマ「私をつくる」と共通し関連している。

これまでの授業研究において，導入段階での題材，素材提示，教師の投げかけの重要性を意識した計画的・意図的指導が「思いを生かし」「つくり出す喜び」をそれぞれの子どもなりに身につけたという成果があった。

しかし，個々の児童の思いを十分教師が受け止め，思いに応じる指導が出来たかについてはまだまだ課題が残る。

そこで，大会テーマの「私をつくる」を，子どもたちが様々な事象と対話しながら試行錯誤していく過程で「自分らしさ」を表現することができる快さや充実感を手がかりにし，自己発見，自己実現していくことと捉えた。その中で子どもたちは，自分自身を再発見したり，新しい自分に気付いたりする中で達成感や自己肯定感をもち，次へと活動のエネルギー（要求トルネード）を生み出していくことができるのではないだろうか。

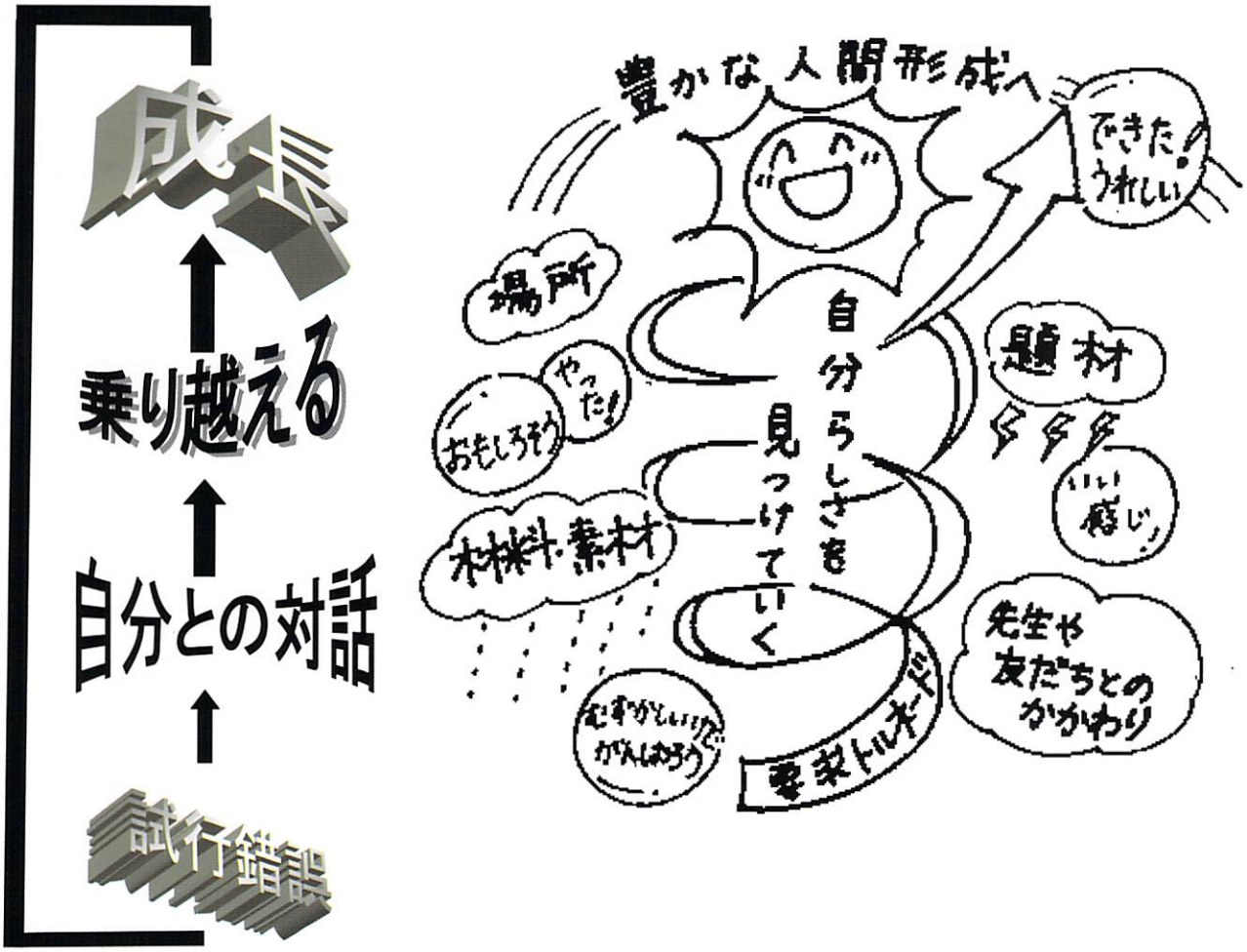
H19 研究授業風景２年「スイミーの海をつくろう」

つまり，子どもの造形表現は自分との対話を通して新しい自分に気付き，その行為を意味づけ価値づけし続けることで，自己実現へとスパイラルし続けるのである。

私たちは，子どもとつくり出す図画工作の時間に一人一人の子どもの育ちを大切にする授業づくりをめざし，以下のように授業の視点を定めることにした。

●様々なこととかかわり（対話）気付く（自分らしさ）ことができる場や指導法の工夫

●表現活動のよさや自分らしさを振り返る（評価）ことができる場や支援の工夫

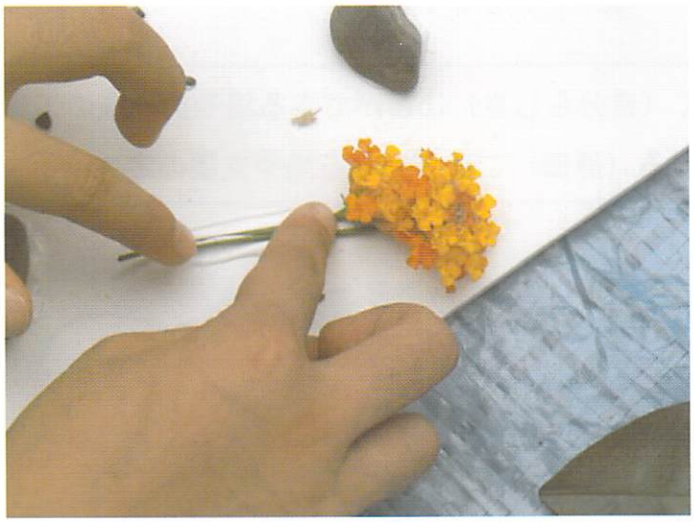


子どもにアートが生まれるとき
子どもスイッチ～子どもの造形と５つの接点～

発表者　東京都図画工作研究会研究局
北区立滝野川第二小学校
玉置　一仁

分科会助言者
明和電機代表取締役社長　土佐　信道　氏
教育庁指導部　指導主事　岩﨑　治彦　氏

＜子どもスイッチ　ココロとカラダがつながるとき＞



子どもたちが描いたりつくったりしている様子を観察していると，ときどき作業が止まって何かを考えていたり，その後，びっくりするような表現を突如展開したりする場面に何度も出会います。

このとき子どもの中ではいったい何が起きているのでしょうか？そして，そこに至るまでに何があって，このあと子どもはどこへ向かって行くのでしょうか？その疑問の答えを求めて，私たちは「子どもスイッチ」というキーワードを手がかりに研究を進めてきました。

「スイッチ」という言葉には，接点という意味がありますが，その接点の関係のしかたによって，何らかの変化が起きたり，何かが切り替わったり，ある流れが生まれたりします。子どもが造形する様子の中にも，同じような動きを見いだせるのではないでしょうか。私たちが考える「スイッチ」とは，こういった，子どもの造形に関わる発端・変化・動き・流れなどを包括的にとらえて考えています。

子どもが造形活動の中で，自分から内面や他者に向けて表現の方向性を見いだそうとするとき，体の様々な感覚を使いながら何かに刺激を求め，影響を受けます。例えば，目で見ること，手や足で触ること，体を動かすこと，音やにおいを感じること，記憶の断片を探し求めること…。これらのような，感覚から受けた刺激が感情を揺さぶり，そこから新しい表現の方向を見つけることにつながっていきます。この時，子どもの中では，ココロとカラダがつながり，新しい表現が生まれ，自分自身を発見していくのではないかと考えます。この一連の流れが「子どもスイッチ」ということになります。

＜子どもスイッチの中の５つの接点＞

子どもの思いがその造形活動の中で劇的に変化するとき，そこには，子どもの周りの様々な

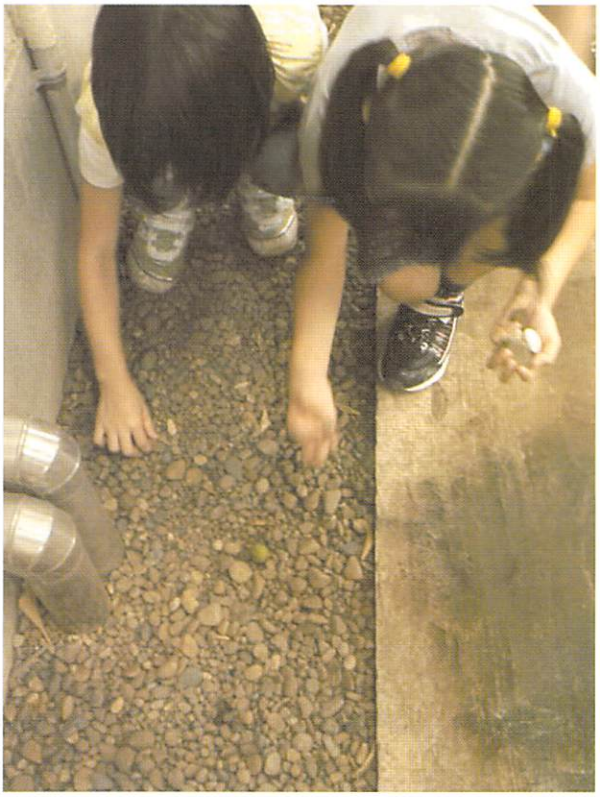
ものが複雑な関わり合いを形成しながら影響していると考えます。この変化の中で子どもとこうした関わり合いをつくりだすものとして，私たちは子どもスイッチの５つの接点を挙げて，それに関わる実践を行ってきました。

１．ものと子ども
（「木とねんどのずこう」2006 年 12 月 15 日　都図研北多摩大会にて実践）
２．つくることと子ども
（「よっこいしょ！」2006 年 7 月 4 日　江戸川区立清新第三小学校にて実践）
３．人と子ども　（「ペンでおさんぽ」　2006 年 12 月 15 日　都図研北多摩大会にて実践）
４．みることと子ども（「ギャラリートーク」2006 年 8 月 27 日　国立西洋美術館にて実践）
（「カガミのむこう」2007 年 2 月 2 日　北区立稲田小学校にて実践）
（「コロちゃんのなかまをさがそう」2007 年 7 月 13 日　北区立岩淵小学校にて実施）
５．文化と子ども　（未実施）

これらの接点に着目して子どもの造形活動を考えるとき，ココロとカラダの関連性には大変重要な意味があるのではないかと考えるようになりました。つまり，子どもの感情と感覚が結びついて個性的な表現が生まれている，ということです。

＜今年度の実践からみた子どもスイッチ＞

今年度は，「みることと子ども」という接点で７月に実践を行いました。身近な「石ころ」という素材を観察し，その石ころと自分との関わり，石ころと環境との関わり，石ころやその仲間となる素材との関わりを，「みること」を通して感じ取って自分の表現をみつけていく実践でした。１週間前にみつけた石ころに名前「コロちゃん」をつけて，みたりさわったりして親しみをもち，本時では，その「コロちゃん」と関わりのある友だちを見つけて並べて遊ぶ，という内容です。ここでは「みること」「見つけること」は子どもの記憶や思い出と重なり合って，自分の今まで生きてきた時間や友だちや家族との関係を意識するきっかけとなり，単なる自然物を並べて遊ぶだけの実践とは一線を画したものになっていました。みること触れることという身体的な接点が，心情的な領域にまで深く関わることに意味のある子どもスイッチであったと思います。



＜分科会での提案について＞

私たちの分科会では，「子どもスイッチ」というキーワードをもとに，子どもから表現が生まれるとき，ココロとカラダがどのように子どもの造形表現と関わり，それは子どもにとってどういう意味をもっているのか，ということについて提案し，みなさんといっしょに考えてみたいと思います。また「子どもスイッチ」というキーワードをさらに掘り下げて，私たちが提案した５つの接点以外にも考えられる「子どもスイッチ」を様々な角度から探ってみたいと考えています。

『すごいとすごいをつなげよう！』

授業者　　八王子市立第一小学校
吉岡　琢真

図工はすごい，多様性こそ

図工はすごい。なにがすごいか。多様な実践がされていて内容が広く深く，そして現場の教師の裁量がこんなに自由な教科もないからだ。教師一人一人の創意工夫にまかされている。教師の質が問われる教科だ。質というのはやはり経験によって高まるものだろう。だから，先達の実践をみて沈黙させられることがあるのだ。

なぜ，説明を強く求められ，理解できないものは排除される現在にまで，図工は，広く深いにもかかわらず自由であれるのだろう。

それは，どうでもよかったからではなく，先達がみんなで共通の図工というものの価値を大切にしてきたからだろう。そして，その価値こそ，多様性ではないだろうか。先達が大切にしてきた多様性こそ，「広く深いにもかかわらず自由」であっても，教師の個性を輝かせてきたのだ。

この図工のあり方は，多様な実践を許容していくと同時に，手探りで子どもと向き合い実践していくことだ。これが，図工の，図工の教師の，そして図工の授業の質を向上させると考える。この質を向上させることが，信頼を得ることになる。この信頼が，さらなる「広く深いにもかかわらず自由」な地平へとつながっていく。先達が残した豊穣な地平をさらに耕していきたい。

子どもはすごい，愛情をもって触れ，みる能力

この図工という豊穣な地平において，授業でどのような題材にするかを考えるのは，気が楽である。というのも，何をやっても図工の守備範囲だろうし，もしその外に出ても許容されるという安心感があるからだ。

しかし，授業はそんなにあまくない。それは，子どもがすごいからだ。言い訳はできない。実践者としての質が問われる。子どものなにがすごいか。資質としては，まず，どんなことにも歩み寄ってくれること。また，ちょっとした困難さに負けない気持ちをもっていること。これは，授業者としてはプレッシャーになる。これだけ寛大な子どもの資質に通用しない授業はできない。もちろん中には，かいたりつくったりするのが嫌いで，あまり寛大ではない子どもがいることもある。そんな子に出会うとさらにプレッシャーになるのだ。

だが，子どもの能力が育つことに目を向けると楽しみがある。

かいたりつくったりするのが嫌いで，いつも途中で放り出してしまうＩくんの，自分の表現に喜びをもつことができたときが忘れられない。春が近づく３月初めに「雨上がりの晴れの日は・・・？」と散歩にでかけ，その後に絵をかいた。Ｉくんは，４つ切りの画用紙の上に，赤，青，黄色の絵の具を指で混ぜていると，あることに気づいた。「あっ！！虹の土だ！」。混ぜてできた茶系の色の下には，引っ掻くと３つの原色が輝いていた。それに気づいて驚いているＩくんに「きれいだね」と伝えると，驚いたままの顔で周りの友だちに見せていた。その後，しばらく一人で「虹の土」に見入っていたＩくんは，その土の上に双葉をひとつ現した。満足そうな顔をしているＩくんは，誰に見みせるでもなく，その絵をじっと見入っていた。私も一緒にその作品を見入っていた。時間にすると何分というぐらいであろうか，私は時間が止まって感じた。すごい。

子どもは，愛情をもってものに触れ，みる能力が優れている。解るとか解らないとかではなく，愛情をもって，ものに触れ，みることは，美しさに出会う間や，答えを導きだす間，何かを理解する間などの，間を耐えるための重要な能力だ。そして，耐えるべく間を，苦ではなく快として感じることができる。この能力を育むことが，体も心も働かせた総合的な活動ということになる。そのためには，教師は，子どもを見る目をもつこと，また，子どもがこの能力を発揮するのを待つことが必要であるが，図工こそ重要な教科であろう。

「図工はすごい」＋「子どもはすごい」＝「子どもスイッチ」

研究局では，子どもの自発的に変容していく活動全体を「子どもスイッチ」とした。私は，先達が残した図工の豊穣な地平と，子どもの愛情をもつという能力を足し算してみると，「子どもスイッチ」になると考えた。この二つは，とても相性がよいのだ。＋役としての連結人の私は，どのような＝「子どもスイッチ」が当日みられるかが楽しみである。

みることからはじまる　ストーリー

－みることを接点に－《　６年　》

授業者　品川区立立会小学校
田中　明美

■子どもとみるコト

子どもたちは，日常の造形活動で，自分の思いを外の世界と行き来させたり，内なる世界の中で自分の感じを広げ深めたりしている。そして，目を通してみることはもちろん，身体全体の感覚を通してみることをきっかけとして，自分の身体に沁みている経験・思いも織り込みながら，その子なりの思いの物語を紡ぎ表出している。子どもは目や身体全体の感覚でみながら，実は目にみえていないもの・みたもの以上のものを造形しているのである。

今回の６年生の授業では，前半で子どもたちの視覚を閉ざして，対象の和紙へと身体・腕を使って視覚以外の感覚を使い，墨で線を描いてみる。描いた墨の線や点は，描きながら目にはみえないが，自分の身体のどこか（その人によってみえて映っている所は違うと思うが）・自分の心には映ってみえているだろう。また後半では，視覚以外で表現した身体感覚（腕のストローク等）と，ペアの友だちからもらったコメントを頼りに自分の表したものを捜してみる。自分の表現に対して意識してみたり向き合ったりすることで，自分の表現と出会い，わたしの造形が始まるのである。身体の感覚でみること・目を通してみることから自分との関係をつなげ，「あっ！いいコト考えた」のスイッチが入り，感情と身体の感覚がつながり，自分の中での意味づけが行われるであろう。

■『心と体を働かせる造形活動』から起こるコト

授業では，５つの**「子どもスイッチ」**の中から，**「みることと子ども」**の部分に視点をおいた。これは他の４つのスイッチと重なり関連しながら子どもたちの造形活動と接点をもつ。みることとは，身体の全感覚を通してみることを指している。しかし一般的には視覚のウエイトは大きく，造形の始点になりがちである。感覚の上でのみる行為が主体的に行われれば，子どもと対象，それを取り巻く環境との間に「みることスイッチ」が入り，みる感覚以上に，心と体はお互い作用しながら子どもの思いを深める。対象との関係の深さによっても違うが，みることで子どもの思い・感情が揺らぎ，「もっとみたい」「もっと描きたい・つくりたい」きっかけとなる。目で見えるものをみて，自分の経験を身体の中から呼び起こし，心（身体の中）でみている目にはみえないもの（思い・自分自身）へと発展させ，対象とわたしが同化しながら新しいわたしを見つけていくことになる。

■みて（感覚）感じる（感情）コトが図工の力に

視覚以外の身体の感覚で描いた自分の線や点をみながら，自分の表現と出会い子どもたちは触発される。そこで自分から楽しんで表現する気持ちをもち，主体的にみることから自分の思いをもつことにつながる。一人一人の思いの違い，表出した表現の違いも大切にしたい。６年生。私と初めて図工を通して出会う子どもたちである。高学年になると，自己の内面を出したくない年齢ではあるが，そこで，いろいろな角度からのみるというきっかけから，少しでも自分の内面が表せる活動・場としたい。表現方法は一人一人それぞれであっても，心のザワザワする思いを表したい。子どもたちが，自分の物語を作り，造形への思いをもつこと，自分や友だちの表現の美しさや面白さに気付き，造形への心地よさを感じてほしいと願っている。

MEMO

中学校分科会

つくる喜び・みる喜び」
ー未来を心豊かに生きるためにー

つくる喜び・みる喜び
―未来を心豊かに生きるために―

研究局長　　板橋区立上板橋第三中学校
畝村　明男

はじめに

今回、第25回東京都中学校美術教育研究会(以下都中美)第4ブロック大会は、第47回関東甲信越静地区造形教育研究会東京大会、第46回東京都図画工作研究会中央大会との同時開催という形で行うこととなりました。そこで都中美としては、関東甲信越静地区造形教育研究会の大会テーマである『人間形成としての造形美術教育』を受けて、今大会のテーマを『つくる喜び・みる喜び』副題として、―未来を心豊かに生きるために―と設定し、美術教育が人間形成の上でいかに重大な役割を担っているかを踏まえて、研究をすすめることにしました。

テーマについて

美術が週に2時間あったのは20年ほど前になるでしょうか。それ以前は授業そのものにゆとりがあり、子どもたちは失敗を繰り返しつつ、自然に自分の気持ちと向き合い、作品づくりに取り組んでいられたように思います。

ところが、私たち美術教師の意に反して、新指導要領改訂のたびに、美術の授業時数が徐々に削減されていき、子どもたちが「ゆとり」を持って作品制作等に取り組むことが、ますます難しい状況になっています。

この間にも、世の中は激しく変化し、今や、居ながらにして世界の情報が得られる時代になってきました。キーボード一つで無数の情報が得られ、キーボード一つで多額のお金が動き、キーボード一つで人の心までも動かす。そして、携帯電話やパソコンなどのIT機器を介した事件や犯罪は増加の一途をたどり、昨今では、学校に不当な要求をするモンスター・ペアレンツなどという言葉まで出現し、正直、私たち美術教師の危惧していたとおりの世の中になってしまっているともいえます。

テレビや漫画が悪者といわれた時代から、今や美術の授業でも、イラストやアニメーションが取り扱われ、すでにパソコンは極めて当たり前な存在となっています。私たちもノスタルジックになってばかりはいられません。いかなる情報化社会にあっても、それをどう判断するのか、どう活用するのか、その基礎基本となるのは、人としての心です。そして、子供たちに実体験を通してその心の動きをとらえさせ、育ませることができるのが、教科でいえば美術であり、授業時間削減の中で、あらためて、美術の重要性と必要性を実感し認識しているのは、私たち美術教師に他ならないのですから。

さて、今回『人間形成としての造形美術教育』という大きなテーマの中で、その人間形成における美術の必要性については先に述べたとおりですが、中学校のテーマである、『つくる喜び・みる喜び』－未来を心豊かに生きるために－とは、「制作」や「鑑賞」といった活動を通し、子ども自身の心の動きを自ら感じ取らせ、また、他者の心の動きや考えを理解させることによって、子ども自身の心の発達を促進させる。という心の成長を主眼に考えたものです。

美術の基本には、自己の表現活動があります。そのもととなるのは確かに豊かな感性です。もちろん、よいものができた。よいものを見た。というだけでも感動する心は得られます。しかし、ものの存在は、一方向から見えるものだけが全てではありません。角度を変えたり、考え方を変える

ことにより、そのものの見え方や感じ方も変わってきます。

『つくる喜び・みる喜び』とは、『自分を知る喜び・他者を知る喜び』ともいえるでしょう。一つの作品作りから、その中にある主体的な子どもの思いや考えを引き出し、また、多くの作者の意図を伝え、様々な見方・とらえ方・考え方を学ばせること。つまりは、『様々な見方・考え方ができる喜び』であり、自己の表現活動のもとにある『ものを見よう』『感じよう』とする心から、自分を認め、他者をも認める広い心へ、その心の動きを膨らませることをできるのが、美術の持つ特性であり、それは私たち美術教師の働きかけがあってこそのものなのです。そして、その幅広いものの見方・考え方こそが人間形成の主を成すものであることはいうまでもありません。

今、私たちの周りには、次々とありとあらゆるものが作り出され、氾濫しています。すぐにゴミになるのか、あるいはリサイクルされるのか。しかし、それらの一つ一つにも間違いなく美を追求する人々の心は存在します。ものが溢れ、情報が溢れる今日において、状況を整理し判断する力は必要不可欠であり、そのためには、心を伴った幅広いものの見方・考え方が何より重要になります。その力を培い、育てることこそが美術教育の果たせすべき役割なのではないでしょうか。そして、ものを大切にし、人の心を大切にするという原点に立ち返り、未来を心豊かに生きていくために欠かせない力の育成に、務めていかなければならないのです。

分科会では、大会テーマに書かれている実践研究の 3 つの視点である

①「主体としての私のはたらき」

②「共感的なまなざし」

③「他社や世界（文化）とのつながり」

を下の 4 つのテーマにわけ、具体的に授業の中で、未来を心豊かに生きるための、力の育成について研究をすすめていただきました。しかし、それは日頃から先生方が模索し、実践されてきた授業そのものなのではないでしょうか。なぜなら、その心の育成こそが、情操教育といわれる美術の教育そのものなのですから。

- **つくる喜びを味わおう！**
  「美術って楽しい！」その気持ちを作品づくりで存分に味わう。この喜びが生きる力につながる。

- **生活にいかそう！**
  美術で学んだことが生活の中にいかされている。そんなことに気がつけば、さらに生活が明るくなる。

- **地域とつながろう！**
  私たちのクラス地域と学校の枠を越えて、今、私たちの生きる世界と学ぶ美術がつながる。

- **見つめよう、感じ取ろう！**
  見つめること、感じ取ることを通して、生きる力を豊に育み、そして伸ばす。

最後に、新指導要領では、美術科の授業時数はほぼ現状維持のようですが、実際に創造という作業を通してだからこそ体感できる心の動き、そしてその育成は他の教科では得られない重要な役割を担っています。人間形成に欠くことのできないこの教科が現状維持でよいのでしょうか。せめて1，2年生までは2時間の授業となることを切に願ってやみません。

●分科会　８

つくる喜びを味わおう

群馬県　館林市立多々良中学校　藤﨑　敬太郎

■　提案発表内容の要旨

ものを創造する原動力になるものは，これまでの自分の体験が大きく関わっている。自分の目で見たこと，耳で聴いたこと，そして魅力を感じて感動したこと，そうした経験が自分の中に蓄積されて，個性豊かなアイデアを生み出すことは多い。

本校が所在する館林市は，川や沼，緑などが多く自然に恵まれた環境にある。その反面，都会と比べると情報量は少なく，斬新なデザインの建築物や生活用品，販売物に触れることのできる機会は少なかった。しかし，ここ数年の間に，県立美術館や大型ショッピングセンター等が近くに次々と建てられた。それらは，身近に足を運ぶことのできる場所として，子供たちに新しい刺激を与えてくれるものとなっている。例えば，ショップに並んだポストカードやレターセット，フライヤー，リーフレットやポスターなどは子供たちが好むものであり，美しく豊かなデザインを感じることができるものも多くある。しかし，日常の中であまりにも多くのデザインに囲まれて生活している私たちは，その価値や働きを実感として受け止めているとはいえない。

本題材では，まず，そうした生活を美しく豊かにするためのデザインの働きに目を向けることで，普段何気なく見て生活している空間の中の「美」への関心を高めたい。そして，形や色彩，図柄や文字などそれぞれがもっている特質のよさを十分に生かし，洗練されたデザインを追求する活動を通して，創意工夫して美しく表現する力を身に付けさせたいと考えた。

■　成果と課題

・実際に販売されているポストカードやレターセットなどは生徒に身近なものである。そのよさや美的秩序を発見する活動は，日常生活の中の美しいものを発見することとなり，意欲の喚起となった。また，その気持ちを作品制作にもつなげることができた。

・生徒の作品には多種多様な発想が見られた。反面，制作進度にばらつきが見られた。テーマやデザインをもっと絞って，指導する方法もよいのではないかと思う。

●分科会　８

つくる喜びを味わおう！
「美術って楽しい！」その気持ちを作品作りで存分に味わおう。この喜びが生きる力につながる

埼玉県　上尾市立上尾中学校　山内 美和子

■　提案発表内容の要旨

本題材『仮面で変身！～なりたいものになる自分～』は，張子の仮面の制作をとおして自己理解をより深め，作品完成後，仮面と衣装を着けて，なりたいものになりきって発表するものである。生徒は，張子という立体制作の技法を学ぶことにより，思い通りの仮面を容易につくることができ，さらに発表するための衣装や発表方法など自己表現の方法を工夫することが求められる。思い通りにできる仮面の制作を通して美術の楽しさを味わい，発表をとおして自己表現のおもしろさや他者理解もでき，生徒の生きる力につながる題材であると考える。

実践の概要（第一学年・１５時間扱い）

（１）導入<0.5>テーマ発表，張子の技法説明

（２）発送・構成<0.5>アイデアスケッチ

（３）制作<10>油土で成形→ラップで油土の表面を覆う→和紙をちぎってボンドで貼る（２～３回重ねる）→軽量紙粘土で細部を仕上げる→着色→異素材（毛糸，針金等）を組み合わせる→ニスを塗って完成

（４）小物・衣装作り<1>

（５）写真撮影<2>仮面，衣装等を着け，ポーズをとって写真を撮る。

（６）発表・鑑賞<1>写真を貼り，セリフや能力等の紹介をしたワークシートを作成し，発表する。

■　成果

なりたいものをつくるという設定及び張子の制作のおもしろさから，普段なかなか制作に取り組めない生徒も積極的に取り組んでいた。また，制作時及び写真撮影時に形やポーズ等について友達同士で相談する場面が多く見られ，コミュニケーション能力を高める上でも効果的であった。

■　課題

張子の立体造形に係わる表現技能と小物・衣装の工夫やワークシートの作成等発表に係わる表現能力の評価の観点・比重について苦慮したので今後どう扱うか，また，制作時間にクラス差・個人差がでてしまったので，制作過程の時間配分等の再検討が今後の課題である。

●分科会　８

つくる喜びを味わおう！

栃木県那須塩原市立厚崎中学校　小林　栄子

■　提案発表内容の要旨

平成１０年の学習指導要領改訂で改善のあった「伝えたい内容を，イラストレーション・図，写真・ビデオ・コンピュータ等映像メディアなどを使って，効果的に表現できるようにする」を受けて，実社会で生かせるような指導のあり方について研究を進めた。教師側のメディア技術を向上させることと，生徒に美術の楽しさを味わわせるために，導入や制作途中で活用できるようなコンピュータ指導資料を研究することで，テーマに迫ることとした。

年間計画から，学年ごとにコンピュータを活用できる部分を抜粋し，デザイン分野で使える資料（ポスターでの配色の工夫，美の秩序など）の作成をした。また，１学年のデザイン（マーク）の授業実践を紹介する。

■　成果と課題

・コンピュータを活用することで得られる効果は，①生徒・教師共に，映像メディアを身近なものとしてとらえられた②短時間で題材や手順を把握することができた③短時間で多くの資料を提示できた④画像の切り替えが簡単であり，一目で理解できた⑤参考作品や写真資料などで興味をもつことができた，などである。映像メディアを使えば，教科書や資料集だけでなく，実社会で活用されているものも幅広く提示することができる。

・改訂の内容に合わせて授業を行うためには①学校のコンピュータ室等の施設の充実②教師のメディア技能の習得③生徒のコンピュータや映像機器への基礎技能習得が必要である。

・生徒が，「美術は楽しい」とつくる喜びを感じるために，意欲をかき立てることができるような支援の仕方を工夫する必要がある。制作過程の中で自己決定しながら問題解決ができるように支援する。

生徒がコンピュータとかかわる中で，本来の自分らしさを発見し，手作りのよさから得られるものもあるが，コンピュータ機器を活用して得られるよさもある，ということを明確にし，自己陶冶できるように授業を組み立てていく必要がある。

●分科会　９

生活に生かす

静岡県藤枝市立藤枝中学校　河原　茂樹

■　題材名

２年　「ユニバーサルデザイン プロジェクト」
～ 人に優しい「もの・まち」づくりを提案しよう！ ～

このプロジェクトは，「もの・まち」づくりに視点をおいて，人に優しいデザインをテーマにした題材である。子どもたちが，それぞれの思いで構想を練り，形や色を追求しながら，人に優しいユニバーサルデザイン（以下ＵＤと表記）を自分なりに表現していこうというものである。

この題材のよいところは，自分たちの生活に結びついていることである。また，個人の表現が教室の仲間へ，教室から他の教室へ，さらに地域・社会への表現へと拡大させることができることである。子どもたちは，アイデアを考える段階で作品を通して，友だちや家族にも意見をもらうなど，積極的な人とのかかわりが見られた。

制作の過程において，題材を構想しやすくしたり，造形的な価値を見極めて「支援」したりする教師の存在は欠かせないものである。完成した生徒作品は，「しずおかＵＤアイデアコンクール（静岡県主催）」に出品した。ＵＤについて深く研究されている大学教授，専門家や有識者の方々など多方面から評価していただけたことは，子どもたちの励みとなった。このような県の取り組みへ一緒に参加できることもこの題材の魅力の一つとしてあげられる。

（http://www.pref.shizuoka.jp/ud/　静岡県ＵＤ ）

■　成果と課題

制作の途中段階において，アイデアの中間発表会を設定した。教室の仲間から評価をもらい，自分の作品をよりよいＵＤにするための見直しができたことは，大きな成果である。中間発表会は，作品の質を高める「手だて」としてたいへん有効に働いたと判断できる。

課題としては，少ない授業時数の中での取り組みなので，できるだけ少ない時間数でＵＤプロジェクトを行いたいと考えている。子どもたちにとって，最も時間のかかるのは，発想の部分である。この部分でいかに時間短縮を図れるか，そのための「手だて」を考えていきたい。

●分科会　9

生活にいかそう
題材名「ウィンドウ・ディスプレイの提案」

東京都　北区立紅葉中学校　　藤本　卓

■　提案発表内容の要旨

題材の目標

① 生活を美しく彩るためのデザインとして街頭のウィンドウ・ディスプレイを鑑賞し，豊かな発想や造形上の工夫等そのよさを味わい，レポートにまとめる。

② それらをふまえ，造形的な美しさ，材料や用具の生かし方などを総合的に考え，独創的に発想し，ウィンドウ・ディスプレイの模型を表現する。

題材設定の理由

地域環境に働きかけ，私たちの生活を豊かで潤いあるものにすることも，デザインの大切な機能のひとつである。目的や条件，機能と美しさの調和，使う人や見る人の立場を配慮し，地域環境に広く発信できるデザインについて，鑑賞，表現の両活動を通して学ばせたいと考え，本題材を設定した。

数ある素材としてウインドウ・ディスプレイを採り上げた理由は，以下に示す通りである。

① 街頭を彩りながら，広く地域社会へ美的価値観を発信する媒体であり，社会とデザインとの関わりについて考える契機ともなる。

② 本校学区域は池袋などの大きな街に近接しており，店舗のディスプレイは生活に身近な学習素材として生徒にも受け入れられやすい。

③ これまでに学んだ色彩や構成等，造形上の諸要素を，比較的高い自由度で応用できる総合的な素材である。

■　成果と課題

消費者として普段何気なく接している街頭のウィンドウ・ディスプレイにも，様々な造形上の工夫やユニークな発想が生かされていることは生徒にとって新鮮な発見だったようである。加えて，美術の造形性が日常の消費活動と密接な繋がりを持っていることを実感し，改めて生活の中に生きる美術の大切さを理解できた。

「コンセプト」という概念の理解と，長期にわたる課題のためモチベーションの持続が課題である。

●分科会　9

生活にいかそう

長野県　長野市立川中島中学校　森　　崇

■　提案発表内容の要旨

美術は，高校入試に関係ないから必要ないと感じていたり，美術は生活に根ざしており，また生活を豊かにしているといったことに気づくことができない生徒が年々増加している傾向が見られる。

そこで，地元の特産として有名な，「川中島白桃」を題材にして，川中島白桃を全国にＰＲするために，色や形，言葉を発想し，既習体験（シンボルマークの制作）や，いろいろなマスコットキャラクターやパッケージデザインの資料などを参考にしたり，異年齢（大学生）の人やＪＡグリーン長野川中島共選所，地域の方（桃の生産者）の人とタイアップしたりしながら，自分なりの構想を練り上げ，プレゼンテーションをしながら，川中島白桃のパッケージデザインやキャラクター，ＰＲポスターなどを制作することが有効であると考えた。そして，実際にデザインしたものが，ポスターや携帯ストラップなどになることで，自己肯定感が高まったり，造形活動は，いろいろな人と関わり，情報発信ができたりする良さ，さらには，上述した美術は生活を豊かにしていることに気づくのではないかと考え，実践し，提案することにした。

■　成果と課題

共選所や大学生，地域の方とのつながり，実際にＪＡグリーン長野で生徒のアイディアを携帯ストラップやポスターにしていただいたことから，美術は，「ただ制作をするだけ」「美術は得意な人がやればよい」「生活とは関係ない」といった意識から脱却してきたり，自己肯定感を高められたりする面が見られた。

また，地域の良さを見直す良いきっかけとなり，生徒自身が自分の住む地域に誇りを持てるようになった。

課題としては，生徒といろいろな人をコーディネートしていくなかで，生徒にとっていかに必要な人や効果的な支援に結びつけられるかといったこと，また，他教科や総合的な学習と結びつけることで，より充実した学習展開を構築させられるかが上げられる。

●分科会　１０

地域とつながろう！

茨城県　日立市立河原子中学校　平根　聡子

■　提案発表内容の要旨

「生きる力」の育成や「開かれた学校づくり」などのキーワードを基に学校教育と地域社会との連携が求められている現在，地域全体での教育力をいかに高めていくかに注目が集まっている。美術教育においても自分たちを取り巻く地域社会との関わりの中で，生徒たちが美的体験活動をし，学びを実感していくことは「生きる力」の育成において有効な手立てとなると思われる。地域とのつながりをもった授業の在り方は多方向に渡るが，大きくは美術館や博物館などの施設や設備の利用，地域の人材・題材・文化財等の活用，地域の方々との交流活動などが考えられるのではないか。

今回は，この３つの形態を授業の中に取り入れ，地域とのつながりをもった活動の展開を試み，実生活の中での美術への「関わり方」「楽しみ方」に気づかせるような授業の在り方を提案したい。

授業の実践としては・・・

○　美術館から複製画や画材等を借りてくることで，実物のもつ造形的な力やその魅力を最大限に活用した鑑賞活動をする。

○　作品づくりにおいて，地域人材の活用を図り，美術の楽しみ方を実感する。

○　作品完成後，地域の方々と交流活動し，美術による人との関わり方やその喜びを知る。

■　成果と課題

複製画や画材・素材を実際に観たり触ったりしながら鑑賞することで，驚きや感動を伴った作品との出会いができ，主体的な活動につながった。また，地域とのつながりをもつと言うことは，実生活に根ざすということであり，人材活用や交流活動を効果的に取り入れていくことも美術の学びと生活をつなげていくための有効な手立てとなった。今後も多種多様な方法での実践を試み，回数を重ねることで学校と地域のつながりが真の教育力となるよう働きかけていきたい。学校の中での美術教育を離れても，美術に親しむ方法，楽しみ方が分かるような自己教育力を身につけさせ，生涯にわたり美術に親しんでいこうとする心情や意欲・態度を育てることが大切であると感じた。

●分科会　１０

地域とつながろう

神奈川県　相模原市立大沢中学校　山本　実

■　提案発表内容の要旨

１．こどもの文化，市民の文化を育てる

相模原市では今年２９回目になる野外造形展「造形さがみ風っ子展」が開催された。

この野外展では主に市内の小・中学校の児童生徒作品が淵野辺公園に展示される。作品の点数はおよそ１万５千点，選抜された作品でなく基本的には学級，学年全員の作品が展示される。一年がかりで準備される作品は普段の授業でつくられたもので一つひとつの作品が群になり展示されている。市内を８ブロックに分けて参加体制が組まれている。開催日の３日間はたくさんの親子，市民が訪れる。「野外」は教室や屋内展示会場に飾るのとは大違いである。雨風はもちろんのこと光や小さな虫や雑草までもが作品に関わりを持つ，だから展示から片付けまで息が抜けない。公園は，たちまち，こども，市民のための野外学校美術館になりその全てがドラマになり時間をかけて幾重にもつながり四半世紀をかけて今，相模原の文化となりつつある。

２．作ることはつながること

開催期間中に「合評会」が行われる。市の内外に講師を要請，様々な観点から作品を鑑賞し題材の選び方，展示のしかた等を研修・研鑽する。このことは教育研究会としての役割を担っている。作品を通してさまざまことが見えてくる。子どもたちのこと，学校や地域のこと等々。

わたしは２００２年から昨年度まで６年間にわたって小学校と連携して合同作品づくりをした発端は総合的な学習の取り組みがはじまりだった。周囲の小・中学校はテーマを「地域」としさまざまな取り組み，試みをしていた。当然のように，地域の商店街，公民館等の学習活動のなかに小学校との連携も考えるようになり，中学生が小学校に出向いて一緒に作品づくりをすることになった。

■ 成果と今後の課題

地域とつなげて作品づくりをすることは，広い意味で私たちの文化を追い求めることでもあるこのことは野外展を進める中で実感としてとらえることができるようになってきた。学校の多忙化やマンネリ化，などを乗り越えて野外造形展をさらに発展させたいと考える。

中学校分科会１０提案

● 分科会　１０

地域とつながろう

山梨県　大月市立鳥沢小学校　佐藤　政道
大月市立猿橋中学校　小俣　博昭

■　提案発表内容の要旨

学校五日制実施前夜の2001年11月，私たちは「飛び出す造形教室」を提案した。それは，今までの（閉じられた）授業研究を，土曜日の（開かれた）地域への授業実践へ発展させていこうという提案であった。北教研（北都留地区教育研究協議会）美術部会有志の会（「イーゼル・アクション」と命名）の活動と銘打った。

第1回は2002年1月，土笛製作から始まった。陶芸，ペーパークラフト，針金細工，風景スケッチ，各種版画，美術館見学……と，レパートリーを広げながら，2007年8月までに43回の造形教室を開催している。

市の企画（地域子ども教室事業）への申請を通して予算補助を戴き，これが継続となって文科省の放課後子どもプランへの移行期補助予算も戴きながら，運営をしている。

参加者は地域の小中学生とその保護者。会場は私たちの勤務校である。学区の枠を超えて，各自の興味によって参加するが，リピーターも多い。指導を担当するのは私たち小中学校の教員だが，参加する保護者にも適任の方がいて，スタッフとして活動をともにしている。

また毎年，活動母体である北教研美術部会が大月市民会館を会場に開催する「北都留の美術教育の展覧会」での展示とワークショップを企画し，少し大掛かりな「造形あそび」を実施することにしている。会場柄，幼児教育の研究会などに来ていた幼稚園の先生方が参観に来たり，毎年企画に声をかけてくれる教員OBもいたりして，広がりも感じられる。

■ 成果と課題

「イーゼル・アクション」の名前は徐々に知名度を得ている。CATVで活動を紹介されたり大月市商店街活性化のシャッターアート事業に声がかかったりと，教員が地域の子どもたちとともに活動する実践に一石を投じたと言える。

また，私たちは「飛び出す」ことによって教材開発や授業の実験の場も与えられたことになる。これらの機会を財産としながら「地域にフィールドを借りた教育活動」（地域につながる活動）を通して更に学んで行きたいと考えている。

中学校分科会１１提案

●分科会　１１

見つめよう，感じ取ろう！（鑑賞）

東京都　板橋区立志村第一中学校　町田　廣泉

■　提案発表内容の要旨

絵画作品を鑑賞する上で大切なことは，見る人それぞれの感性で自由に素直に感じ，感動することである。

実際には目を通して受け入れることになり鑑賞者に「感じる心」が育成されていなければ何も伝わってこない。

また，絵画作品には，それぞれの背景として個々の国々の歴史や文化の流れがあり，国や時代が異なると，第一印象だけでは，作品を十分に理解することが難しくなる。

以上２点が鑑賞教育をすすめる上で大切な要素と考え，「感じる心」の育成と個々の国や時代の文化的社会的背景の理解が不可欠であるとの視点に立った授業の構築が必要だと考えた。　そこで，本題材では，日頃の授業に加え，夏休みの宿題としての美術館巡りなどを通して体験した「感じる心」の育成や収集した資料などによる文化的社会的な背景の理解の深化が生徒一人一人の鑑賞能力の向上に繋がると考え，これらの視点を取り入れた授業を試みた。

実施に当たっては，近隣の美術館案内を配布したり，絵画鑑賞については，ワークシートを使い，個々の感想や意見が把握できるよう配慮した。

また，各自が気に入った作品ごとに調べ学習班を編成して，それぞれの作品について，さらに深く調べさせ，班ごとにまとめさせた。

発表にあたっても班内でそれぞれの役割を決め，参加意欲を高めさせるよう配慮するとともに，それぞれの発表を聞いて，自己の鑑賞眼を高めさせるように努めた。

■　成果と課題

出来るだけ多くの作品に触れさせることにより，自己の感性に合う作品の選択するという能動的な態度を育成することができたと考える。　感想を纏めるに当たり，文字だけではなく，スケッチやイラストといった表現手段も用いたことにより自分が感じたことをより具体的に纏めることができたと考える。また，自分とは違う見方についても，より深い気付きができたと考える。教育機器の活用や外部機関との連携など，更に研究を深めていく必要がある。

●分科会　１１

見つめよう　感じとろう

千葉県　千葉市立幕張中学校　北根　晃一

■　提案発表内容の要旨

表現と鑑賞は同等に扱われなくてはならないが，実際は，表現に重きを置くことが多く，また，鑑賞の授業も美術史的に扱われることが多いのも現実である。

知識理解に偏った美術史的な扱いが多く見られたが，鑑賞教育とは，鑑賞を通した人間形成，生涯にわたって造形し，物を見ることを楽しむということを重視したその基礎を養うことが大切であると考える。とりわけ　生涯教育が叫ばれ，多くの美術館ができ，毎月展覧会が，催され来館者であふれていることからも生涯に渡って美術鑑賞を楽しむ基礎的な能力を育てていかなければならない。

鑑賞を単発授業として　実施するのではなく，年間のケージュールの中で互に連携しあうこと，授業時数削減という点から鑑賞授業を用いた作品制作への発展も重要であると考えた。

アンディー・ウォーホルの「FLOWERS」を鑑賞することで，日常の生活の中で深く考えることもなく見ていたりするものや，先入観の強いものが，表現の仕方を少し変えるだけで印象が大きく変わり，そこに造形的な面白さがあることを事前に鑑賞授業で学習する。それを受けて，生徒自身がアンディー・ウォホールになったつもりで作品を制作するという授業を構成した。

日常の何気なく見ているものにも造形的な美しさがあり，それに手を加えること（構成や配色の工夫）により新しい発見がある。鑑賞で学んだことを実際に表現することで表現方法の広がりを更に手に入れることができると考えた。

■　成果と課題

参考作品の提示や発問に関連を持たせて行うことで，生徒個々が主体的で創造的な表現をするようになった。

作家論に大きくふれなかったが，制作をしていく過程で生徒が，アンディー・ウォーホルに興味を持ち始めたことは興味深かった。

表現活動に生かせる鑑賞作品の吟味を行い，授業時数の削減に対応していくことが必要である。更に鑑賞授業との関連を図った題材を使った作品制作の研究をしていかなければならない。

●分科会　１１

見つめよう，感じ取ろう！（鑑賞）

新潟県　十日町市立十日町中学校　佐藤　隆幸

■　提案発表内容の要旨

私は生徒の作品制作時にこそ自分の作品や他の生徒の作品を「見つめ」「感じ取る」鑑賞をするべきだと考える。そのための実践の一つにパソコンの作品画像データベースを用いた鑑賞がある。これは美術室においたパソコンに過去の生徒の作品画像を保存し，生徒が作品制作時にその作品画像をデータベースとして随時鑑賞して制作の参考にし，制作していくというものである。実際に自分が制作し，自分の制作したい作品について考える時にこそ，その参考となる作品画像の独創性や表現力が生徒自身に迫り，感じることができる。

１年生から３年生までのカリキュラムで行う題材全てを校内ホームページ上の最初のメニュー画面に表示しておく。そしてそれぞれの題材をクリックすると，その題材の参考作品が全てサムネイルで表示される。その画像データベースは題材別にまとめておき，制作時に自分の求める参考作品がすぐに見ることが出来るようにしておく。

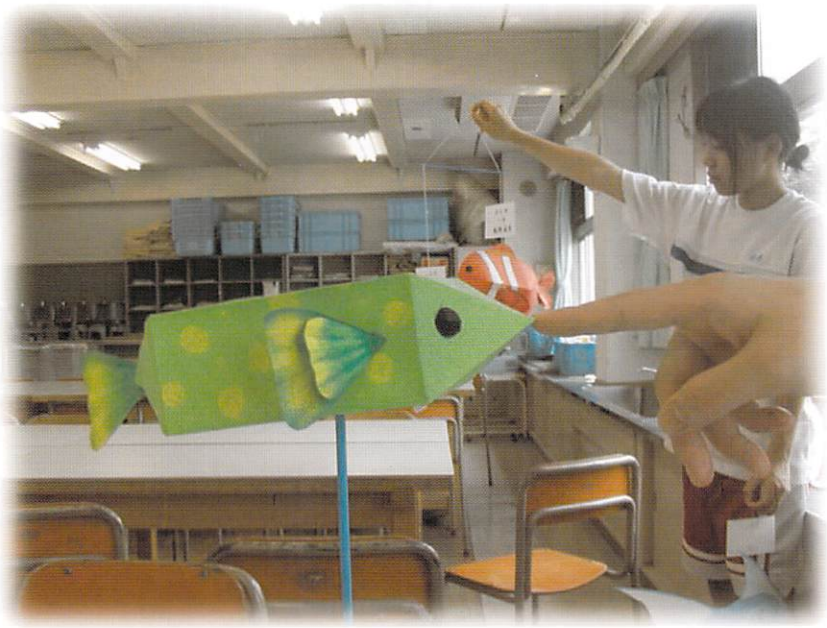
■　成果と課題

・生徒たちは参考作品を見ることができる校内のパソコン環境において，授業時はもちろん昼休み等にも意欲的に参考作品を鑑賞する場面が見られた。
・校内のネットワーク環境によって作品を見ることが出来るパソコンの数や場所が変わってしまう事が課題である。ネットワーク環境が充実している場合，美術室以外にある普段から解放しているパソコンからの鑑賞が可能となり，関心・意欲のある生徒は授業時間外の鑑賞をすることが出来る。またネットワーク環境が乏しかったり堅牢すぎるネットワーク環境だったりすると，せっかくの校内環境を使いこなすことが出来ない。
・このデータベースをｗｅｂ．上に制作し，どの学校からも接続し，活用できるようになることが理想である。その場合には生徒から著作権の許諾を得ておく必要がある。また，たくさんの学校から作品群が集まれば作品が増えて様々な視点の参考となる作品が集まり，より意義深いものとなる。

MEMO

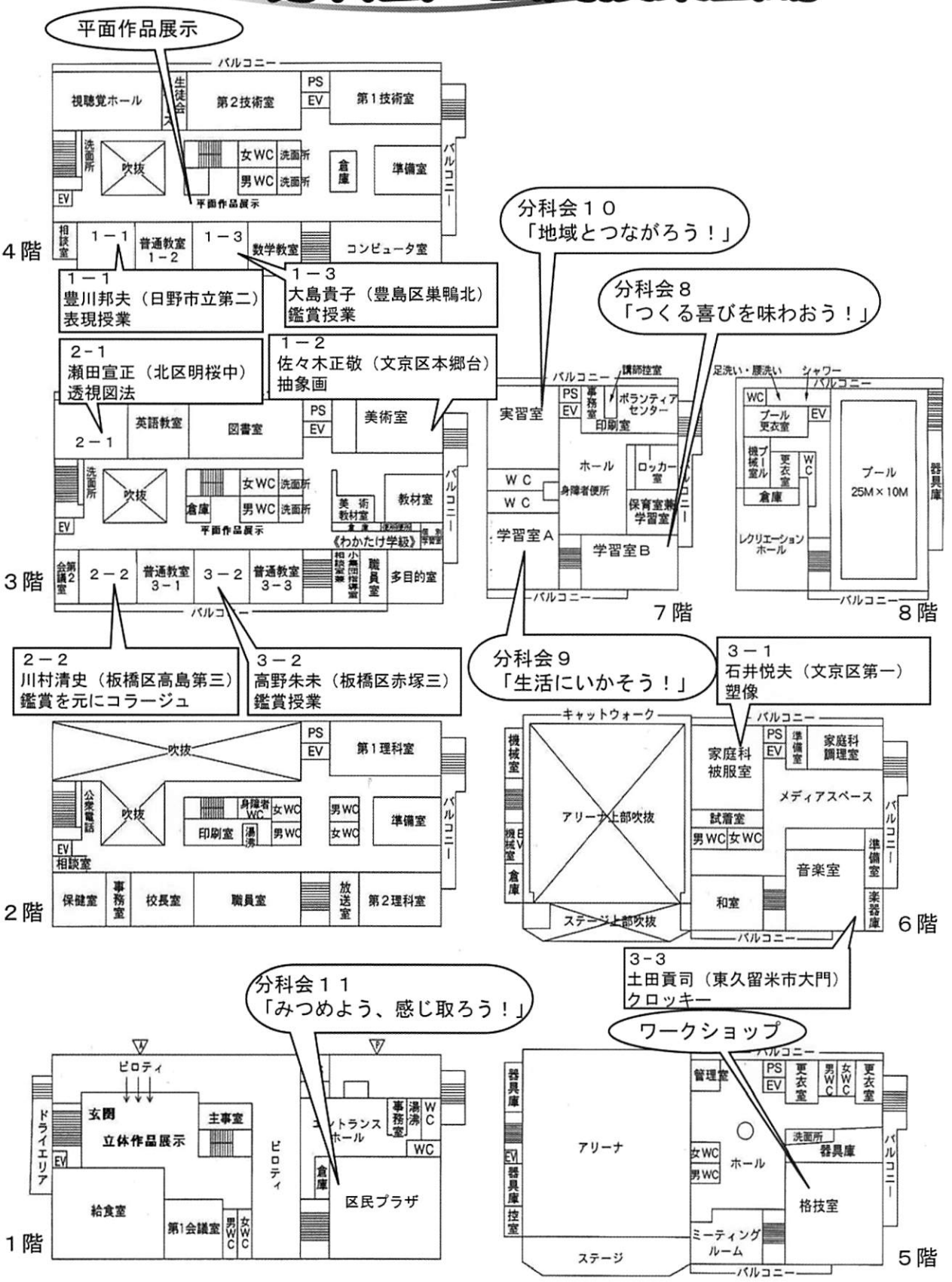
中学校公開授業

公開授業一覧



学年 組	授業者	活動場所	内容・題材名　等	助言者
1－1	日野市立日野第二中学校 豊川　邦夫	1－1	想像力をふくらませて、 素敵なオリジナルキャラクターを作ろう	野﨑裕一郎 大田区立南六郷中学校　校長
1－2	文京区立本郷台中学校 佐々木　正敬	美術室	抽象画に挑戦してみよう	曽根　信行 杉並区立高井戸中学校　副校長
1－3	豊島区立巣鴨北中学校 大島　貴子	1－3	アートゲームによる鑑賞	佐藤　清 大田区立大森第十中学校　副校長
2－1	北区立明桜中学校 瀬田　宜正	2－1	迷路をつくる	永関　和雄 町田区立町田第三中学校　校長
2－2	板橋区立高島第三中学校 川村　清史	2－2	アートの後のＡＲＴ	中村　一哉 府中市立府中第五中学校　校長
3－1	文京区立第一中学校 石井　悦夫	家庭科 被服室	塑造　粘土で葉っぱをつくる	平内　利光 大田区立馬込東中学校　校長
3－2	板橋区立赤塚第三中学校 高野　朱未	3－2	見えてくる物語	大野　雅生 西東京市立ひばりが丘中学校　校長
3－3	東久留米市立大門中学校 土田　貢司	音楽室	ちぎり絵クロッキー	安藤　聖子 稲城市立稲城第一中学校　副校長

分科会・公開授業会場


平面作品展示
バルコニー
視聴覚ホール
生徒会
第2技術室
PS
EV
第1技術室
洗面所
吹抜
女WC
洗面所
男WC
洗面所
倉庫
準備室
平面作品展示
相談室
1－1
普通教室 1－2
1－3
数学教室
コンピュータ室
4階
1－1
豊川邦夫（日野市立第二）
表現授業
1－3
大島貴子（豊島区巣鴨北）
鑑賞授業
2－1
瀬田宣正（北区明桜中）
透視図法
1－2
佐々木正敬（文京区本郷台）
抽象画
英語教室
図書室
美術室
2－1
美術教材室
教材室
《わかたけ学級》
会議室2
2－2
普通教室 3－1
3－2
普通教室 3－3
職員室
多目的室
3階
2－2
川村清史（板橋区高島第三）
鑑賞を元にコラージュ
3－2
高野朱未（板橋区赤塚三）
鑑賞授業
吹抜
第1理科室
公衆電話
身障者WC
印刷室
湯沸
準備室
相談室
保健室
事務室
校長室
職員室
放送室
第2理科室
2階
分科会１０
「地域とつながろう！」
分科会８
「つくる喜びを味わおう！」
実習室
講師控室
事務室
ボランティアセンター
印刷室
ホール
ロッカー室
WC
身障者便所
保育室兼学習室
学習室A
学習室B
7階
足洗い・膝洗い
シャワー
プール更衣室
機械室
更衣室
倉庫
プール 25M×10M
器具庫
レクリエーションホール
8階
分科会９
「生活にいかそう！」
3－1
石井悦夫（文京区第一）
塑像
キャットウォーク
機械室
アリーナ上部吹抜
家庭科被服室
家庭科調理室
メディアスペース
試着室
男WC
女WC
音楽室
和室
ステージ上部吹抜
楽器庫
6階
3－3
土田貢司（東久留米市大門）
クロッキー
分科会１１
「みつめよう、感じ取ろう！」
ピロティ
玄関
立体作品展示
主事室
ドライエリア
給食室
第1会議室
トランスホール
事務室
湯沸
区民プラザ
1階
ワークショップ
管理室
アリーナ
ホール
洗面所
器具庫
格技室
ミーティングルーム
ステージ
5階

中学校公開授業　１－１

想像力をふくらませて，素敵なオリジナルキャラクターを作ろう

授業者　日野市立日野第二中学校

豊川　邦夫

１，課題設定の理由

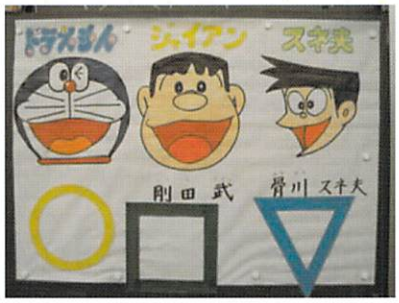
上手に描けないからを理由に，美術に苦手意識を持ってしまう子が時々います。もっと気軽に描くことの楽しさを味わい，美術を好きになってもらいたいというのが本課題を設定した理由です。想像力を働かせ，単純な線を駆使しながらオリジナルキャラクターを作ります。どうすれば魅力あるキャラクターが描けるのかを，子供たちが小さい頃から慣れ親しんだキャラクターから探っていきます。どんな形を基本に作っていけばいいのか，その形にふさわしい性格とは，そしてそのキャラクターを主人公にしたらどんな物語が展開するのかまで，時間の許す限り考えさせてみたいと思います。ちょっとしたアニメーション作家になった気分です。

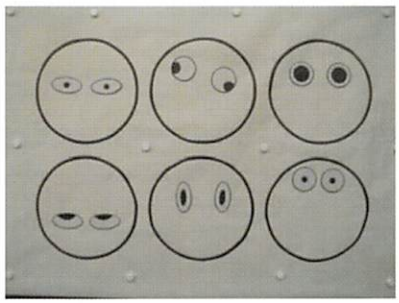
キャラクターというと安易な教材と考えられやすいのですが，単純な線の微妙な変化で変わる表情の楽しさを感じながら制作できたらいいと思っています。こどもたちの豊かな想像力を引き出す課題としてふさわしいものになるようがんばります。

２，準備するもの

鉛筆，消しゴム，黒のサインペン，色鉛筆，アイディアスケッチ用紙，発表用紙

３，作品例





４，評　価

- 豊かな発想でたくさんのキャラクターを考え出すことができたか。
- 選んだ作品について，豊かな発想でキャラクターにふさわしいネーミングや性格の設定，物語の展開を考えることができたか。

抽象画に挑戦してみよう

発表者　　文京区立本郷台中学校
佐々木　正敬

１．題材設定の理由

抽象画を理解するには，自分で抽象画を作ってみることが一番ではないかという発想からこの課題を設定してみた。と言っても抽象画を教えるのはなかなか難しい。色，形の調和のとれた組み合わせ，また具象からの抽象化，あるいは偶然性等々抽象画の表現はさまざまだ。どこから入っていったらいいのか皆目見当がつかないところだが，まずはいろいろな表現方法を試みながら，具体的なイメージをもとに自分の想い描く画面を作る方法で抽象画を描かせてみたい。そして，抽象画を描くことで面白い形や思わぬ色の発見など具象画とはまた違った描くことの楽しさ，喜びを感じてもらいたいと思う。

２．指導のねらい

・抽象画のさまざまな表現方法に気づかせる。
・モダンテクニックを理解し，自分の気持ちにあう表現方法を探らせる。
・事物を描く絵画と違った表現のおもしろさに気づかせ，また，内的な表現の大切さに気づかせる。
・抽象画・抽象表現に対する興味・関心を喚起する。

３．準備する教材，教具

参考作品（モンドリアン，ファン・デル・レック，ポロックほか），資料（トンパ文字），画用紙，マット紙，テープ，ストロー，スパッタリング（網，ブラシ），ドライヤー，色紙，はさみ，糊，筆に代わる描画道具（刷毛，厚紙，ちり紙等），資料ほか
生徒が準備するもの；教科書，資料集，絵の具，新聞紙

４．参考作品

５．評価

・自分らしくよりよい表現を創造しようと意欲的に作品作りに取り組んだか。（意欲・関心・態度）
・自ら進んで創造的な発想，構想をし，自分なりのイメージで形や色，表現方法などの工夫が見られたか。（発想・構想の能力）
・テーマにあった表現方法，モダンテクニックの技法や材料・道具を生かし，創造的な作品作りができたか。（創造的な技能）
・参考作品から，良さや美しさ，作者の心情・意図と表現の工夫，創造力の豊かさなどを感じ取り，自分の作品作りに生かすことができていたか。（鑑賞の能力）
・自分の作品を説明することができる。（鑑賞の能力）

アートゲームによる鑑賞

授業者　　豊島区立巣鴨北中学校
大島　貴子

領域：B 鑑賞　　題材：マッチングゲーム　　学年：１学年　　時間：１時間

１．はじめに

美術における「確かな学力」の基盤になるものは，感動する心や，想像する力の育成であり，今大きな問題になっている心の問題と深く結びついているものと考える。そこで，作品制作の中から主体的に育まれていくことも大きいが，「構成的グループエンカウンター」と結びつけた鑑賞の授業を通して，心を育てていく（生徒理解・心の健康・コミュニケーション能力・自己開示・教師の自己開示など）の美術教育も可能であると考えている。

２．題材の目標

○作品をじっくり観ることにより，生徒の観る目や，感じる心（感性）を豊かに育む。
○１時間という貴重な時間の中で，知識的なことではなく，具体的な鑑賞体験をする。
○自己開示し，コミュニケーション能力を高め，楽しみながら学ぶ。

３．題材設定のポイント

授業の中では，制作・表現活動に比べ，鑑賞などに充てる時間は少ない。また，鑑賞の授業のイメージとしては，いわゆる芸術作品の文化的意義や歴史的意義，社会的な評価を知ることが主であり，教材研究の時間もままならない，ゆとりのない日々の中で，敬遠されがちであったのは事実である。そんな中，短時間で楽しみながら行える鑑賞の授業も研究されている。芸術文化を愛好していくための基礎を，楽しみながら学べ，教師が自己開示することにより，生徒も自分を開き，友達とコミュニケーションをとりながら学習する場面より，生徒理解を深めることも可能である題材として試みたいと思い，設定した。

４．題材の評価規準

（ア）美術への関心・意欲・態度
　自分のカードまた他者のカードについて関心をもち，対象と向き合い進んで何かを感じたり，考えたりしようとしている。

（イ）発想や構想の能力
　カードを鑑賞しながら感性や想像力を働かせ，対象のそれぞれの表現の意図を想像しようとする。

（ウ）鑑賞の能力
　作品の良さや美しさ，創造力の豊かさを味わい，自分の意見や印象を持ち，見方や感じ方を深め，対象の魅力を感じ取る。
　他者との交流を通して，自分の感じたことや考えたことを広めたり，深めたりしている。

５．まとめ

美術の授業では，技能面で能力の優れた生徒に関しては，自己実現感や成就感を得やすい反面，能力の低い生徒は，反対の思いをすることが多く，褒めることである程度のそれを得られても，直接，評価・評定には結びつきにくい。苦手意識も強くなってしまいがちである。大会のテーマでもある，つくり・みる喜びを味わう以前に心を閉ざしてしまわないよう，感覚的に楽しい授業により，心を育てていくことも試みていきたい。

ただ，具体的な数値や形に表われないものを，評価することの難しさは，大きな課題である。

迷路を造る

授業者　　北区立　明桜中学校
瀬田　宜正

１．題材名　二点透視図による迷路の作成

２．題材設定の理由

デッサンから絵画の基本を学ぶとすると，対象に陰影をつけて，立体感をだし，立体間の距離感を表現して，平面の中に空間を作り出していく。自然に身に付いている生徒もいれば，なかなか表現することが困難な生徒も多い。しかし同じように，画用紙の中に立体感や遠近を表現させ，同様の喜びを味わわせようとすると，透視図のように，ある程度方法を飲み込めば，遠近感を表現できる方法は都合がよい。画一的で没個性ではあるが，逆に，これまでにないクリヤーな画面が新鮮に感じる生徒も中にはいる。画用紙の中の遠近法の一つとして二点透視図を学習する。

３．指導目標

① 二点透視図の作図方法の基礎を学ぶ。
② 立体感や遠近感を表現方法を，透視図を用いてできるようにする。
③ 画面効果を考えて，「迷路」を構成できる。
④ 原色と白による三色の色分けで，平面構成的に塗り分けることができる。

４．指導のポイント

① 透視図の基本である消失点，視点の位置，地平線，作図の方法を習得させ，基本パーツの作図法を覚える。
② 基本のパーツは，壁立て，穴掘り，入り口，階段，を作図できるように指導する。
③ 「迷路」の難解さより，見下ろした迷路が美しく見えるように構成する。
④ 面の方向は三方向に限定し，左右の壁の色分けと天井を向いて壁を着色し立体的に表現する。着色の指示は次の通り。
　右壁：各自選んだチューブからの原色
　左壁：原色＋白（７：３程度の割合）
　天壁：原色＋白（３：７程度の割合

５．学習の展開

通常は１学年の３学期，８時間の作業を予定している。（全８時間）
　①．透視図の説明　（１時間）
　②．各パーツの書き方の練習（１時間）
　③．方眼紙に「迷路」を作成する（１時間）
　④．黒の台紙に転写して，着色する（３～４時間）

６．【評価の観点】

① 基本の三本線の描き方を理解できたか
② 各パーツを描けるか
③ 基本要素を取り入れて，迷路が描けているか。
④ 迷路を意識した構成になっているか。
⑤ 作業の手順は指示通りに行えているか。
⑥ 着彩の技術と工夫はできているか。

アートの後のＡＲＴ

授業者　　板橋区立高島第三中学校
川村　清史

いろいろなアートを味わって自分のＡＲＴを描いてみよう！

あなたは，どんな作品が好きですか？自分が気に入ったり興味を持った作品を味わうことは豊かな感性を育むことにつながる活動です。その中から得た感動や発想は，新たな表現へのきっかけやエネルギーとなるはずです。鑑賞した中から作品を選び，その作品を始点・視点として新しい自分の表現を作り出してみましょう。

ねらい

・美術作品の鑑賞を導入として，参考作品からの発想を生かし自分らしく描く。

準備するもの

・参考資料　・教科書　・資料集　・板目紙　・はさみ　・のり　・定規
・ポスターカラー　・色鉛筆　・カラーペン　・使いたい材料

指導のポイント

・自分の感性，自分の表現に自信を持つように働きかける。

・同じ参考作品から多様な表現が生まれてくる。独創性を発揮できるように働きかける。

・作品に込められたテーマや発想を大切にし，描材や技法を工夫していくように働きかける。

・多様な表現を認め，互いに尊重し合える姿勢が身に付くように働きかける。

「塑造　粘土で葉っぱをつくる」

授業者　　文京区立第一中学校
石井　悦夫

〈題材設定の理由〉

私たちを取り巻く環境は刻々と変化している。郊外などを見てみると森がいつのまにか消えマンションや道路に変わっていたりすることが多く見られる。幸い文京区は都内２３区の中でも新宿区に次いで木の数が多いと聞く。

本題材でテーマを「葉っぱ」をつくるとしたのは，単に塑造材料としての葉っぱというだけでなく，自然のなかではぐくまれてきた「いのち」としての木（葉っぱ）に注目させたい。

普段単に何気なく見ているさまざまな葉っぱをじっくりと観察したり，そっくりにつくったりすることを通して，葉っぱの美しさや感触のやさしさなどを感じさせながら塑造をすることによって、自然と共存するような誠実な心情をもって制作することを期待したい。

〈指導のねらい〉

・葉っぱをよく観察し，イメージをふくらませ，立体で表現することに興味・関心をもたせる。
・観察を通してとらえた対象のイメージを工夫して表現できるようにする。
・塑造に必要な用具の機能を理解し，的確に使用できるようにする。
・友達の作品を鑑賞し，そのよさを感じ取ることができるようにする。

〈指導計画〉

第一次（１時間）　本時
・粘土で葉っぱの制作
第二次（１時間）
・乾燥した作品にアクリル絵の具で着色する。
・友達の作品を鑑賞しそのよさを感じ取る。

〈評価〉

・美術への関心・意欲・態度
　塑造の制作方法を理解し，いろいろな表現方法を取り入れながら，制作に集中しようとすることができたか。
・発想や構想の能力
　対象の特徴をとらえて生き生きと表現できたか。
・創造的な技能
　粘土の扱いに慣れ，自分独自の作品を制作することができたか。
・鑑賞の能力
　粘土の持つ感触や造形上の効果を感じ取ることができるとともに，他の作品の良さを味わうことができたか。

〈作品例〉

見えてくる物語

発表者　　板橋区立赤塚第三中学校
高野　朱未

題材設定の理由

絵画鑑賞において，様々な情報を与えられ解説を受けると，「なるほど」と思い，作品の理解が深まるものである。しかし，受け身で情報を得ると，そこにはすでに情報発信者の意図や解釈が加わっており，感じ方もその影響を受けがちである。かといって，何の足がかりも無くいきなり作品を見せられたときに，どのように鑑賞を深めていけばよいのか戸惑うことも少なくない。映っているのに心に留めない，当たり前すぎて認識しない，という慣れの見方から，「どんな些細なことにも重要なメッセージが含まれている」ことを知り，自分自身で気付き発見したことが，真実に近づいていく足がかりとなることを実感してもらいたい。そこから，何かを見る目がより自由で深いものになっていくに違いない。

時には，生徒自身が気付いてたどり着く考えが，一般の評論と同じ結論になったり，中にはほとんど論じられていない新しい観点に巡り会ったりすることもある。そんな時には授業者である私自身が生徒に負けず劣らずとてもワクワクしている。

生徒一人ひとりが，自分自身で読み取り，考え，みんなとその考えを交換し合いながら，自由に自分なりの意見を持つ楽しさを感じてもらえたらと思う。

授業の展開

まず，何も情報を与えない段階で絵に描かれている内容をじっくり読み取らせていく。目に入るものなら何でもよい。人物に着目するならば，人数，性別，年齢層，装い，髪型，仕草，表情など。室内の様子からドアや窓，壁に掛かっている絵画や鏡，天井の突起物など。一つ一つの事実を積み上げ，意見を交換していく中で状況が見えてくる。この部屋には灯りが無く，画面右側の窓から入ってくる自然光だけの空間。「普通に生活するための部屋ではなさそうだ」また，登場人物が一様にこちらを向いており，絵の鑑賞者である我々と目が合うかのような構図は，何を語っているのか。

この有名なベラスケスによる「ラス　メニーナス」の中には画家自身や宮廷の人間模様，王の家族，遠近法や鏡による空間構造の面白さ，画家の自画像に込められた思いなど，イメージを広げていく題材が豊かにちりばめられている。それを，生徒たちと一つ一つ拾い上げ，紐解いていくことで，この１枚の絵に込められた物語を想像していく。

まとめの段階では，中学美術で学んできた遠近法表現や，ピカソとの関連性などを通して，自分の知識や経験と，自ら気付くことができた観点とを結びあわせた鑑賞ができればと思う。

ちぎり絵クロッキー

授業者　　東久留米市立大門中学校
土田　貢司

［題材設定の理由］

クロッキーは短時間に物の形や動勢をとらえる良き題材である。しかし，実際に生徒同士でモデルをしてクロッキーをしても，思うように表現できず，全体のプロポーションをつかめない生徒や，人の大きさが小さくなったり，人形を描くような硬い表現をしてしまう生徒も少なくない。そんなクロッキーを楽しく取り組め，作品としても鑑賞できるようなクロッキーができないかと考えた。

その工夫として，制作過程で紙をちぎりながら，クロッキーをすることを取り入れた。紙をちぎるという行為は案外楽しい。そして，人の形を意識してちぎるにはモデルをしっかり観察する必要がある。また，紙をちぎるという行為はハサミで切るようには思うようにいかずそれがまた，面白い形を生み出したり，描くことだけでは得られない新しい発見を体験できる。ちぎるための紙や，描くペンの色は各自で自由に選ばせ生徒本人の色彩感覚を大切にしながら，見た目にも楽しい作品作りができればと考える。

［用具・材料］

教師：参考作品，八つ切り画用紙，八つ切り色画用紙（１０色程度），ミリペン
生徒：ノリ，好きな色のミリペンやサインペン

［題材の目標］

クロッキーに興味を持ち，紙をちぎり，描くこと等の工夫から多様な表現の面白さを味わわせる。

［評価の規準］

ア 関心・意欲・態度　クロッキーについて興味関心をもって，主体的に表現できたか。

イ 発想の能力　ちぎり絵クロッキーの作品の完成を想像し，ちぎり方やクロッキーおよび，色画用紙やペンの色を工夫し表現できたか。

ウ 創造的な技能　制作方法を理解し，モデルの生徒の特徴をとらえ効果的に表現できたか。

エ 鑑賞の能力　自分や友達の作品の良さや美しさを感じ取ることができたか。

参考資料

関東甲信越静地区造形教育研究大会のあゆみ

No	年　月　日	開催県	開催区・市	大会テーマ
1	昭和36年	東京都	中央区	図画工作の実践研究発表大会
2	〃 37年	山梨県	甲府市	たくましい心を育てる造形教育
3	〃 38年	新潟県	高田市	造形教育の現状をたしかめこれからの志向を見いだそう
4	〃 39年 全国大会	栃木県	宇都宮市	造形教育の実践を通し豊かな個性を育てる
5	〃 40年 国際会議	東京都	台東区	科学と美術教育
6	〃 41年	千葉県	千葉市	子供の調和的な育成をめざす造形教育
7	〃 42年	新潟県	新潟市	人間形成をめざす造形教育の現実的課題と解決策
8	〃 43年	茨城県	水戸市	主体的活動をめざす造形教育の推進
9	〃 44年	群馬県	高崎市	個性豊かな表現活動をねらう造形活動
10	〃 45年	埼玉県	浦和市	今後の造形教育の基本的内容とその指導の研究
11	〃 46年 全国大会	静岡県	静岡市	たくましい創迫力を育てる造形教育
12	〃 47年	山梨県	甲府市	造形教育のたしかな授業をめざして
13	〃 48年	神奈川県	横浜市	情報時代における造形教育
14	〃 49年	長野県	松本市	人間回復の美術教育
15	〃 50年	栃木県	宇都宮市	造形教育における子どもと教師
16	〃 51年 11/10～12	千葉県	千葉市	造形教育における今日的課題の解明 （人間としての表現の喜びと自信を持たせる造形活動をめざして）
17	〃 52年 6/23～24	茨城県	水戸市	明日をきりひらく子どもの造形教育（子どもの表現力を探りながら）
18	〃 53年 10/19～21	埼玉県	浦和市	造形教育の本質に迫る実践はどうあるべきか（全国大会一川口市）
19	〃 54年 11/21～22	群馬県	前橋市	豊かな人間性を育てる造形教育　（子どもの表現力を探りながら）
20	〃 55年 11/20～21	静岡県	沼津市	創る喜びを確かめる造形教育（授業を通してつくる喜びにひたらせよう）
21	〃 56年	新潟県	長岡市・三条市・小千谷市・十日町市・見附市	生きているあかしの表現〈創る喜びのもてる造形学習〉
22	〃 57年 10/28	山梨県	敷島市	創る喜びを味わう造形教育
23	〃 58年 10/28～29	神奈川県	横浜市	明日をになう子どもの造形教育
24	〃 59年 10/25～26	長野県	更埴市	心おどらせて取り組む造形
25	〃 60年 6/27～29	東京都	豊島区・新宿区	素材と創造者たち（教育における造形教育の重大性を問う）
26	〃 61年 10/30～11/1	群馬県	桐生市	未来をになう子どもの造形
27	〃 62年 10/27～29	千葉県	千葉市	千どもの心を掘り起こす造形教育
28	〃 63年 10/6～7	新潟県	上越市	つくる意欲・感性…今、子どもだちと（創造の喜びを育む造形教育）
29	平成元年 10/26～28	静岡県	浜松市	子供の感性を研ぐ造形教育（自らに素直な表現を求めて）
30	〃 2年 10/25～27	茨城県	水戸市	豊かに、人らしく　たくましく
31	〃 3年 11/7～8	埼玉県	浦和市	感性を高め創造する力を育む造形教育
32	〃 4年 10/22～24	山梨県	甲府市	豊かな感性、つくる喜び、生きる力
33	〃 5年 10/21～23	栃木県	宇都宮市	豊かな心　伸びる個性　ひらく明日
34	〃 6年 11/16～19 全国大会	神奈川県	横浜市	いま、さらに豊かな感性、創造のよろこび
35	〃 7年 11/9～19 全国大会	長野県	飯田市	いのちにふれる造形活動　つくるよろこび 自分らしさの表現をもとめて
36	〃 8年 10/2～5 全国大会	東京都	中野区	「人間・表現・環境」
37	〃 9年 11/6～7	群馬県	前橋市	自分らしい造形活動を保証する教師の役割
38	〃 10年 11/12～13	千葉県	千葉市	自分らしい発見、思いっきり造形
39	〃 11年 8/4～ 6	埼玉県	大宮市・浦和市	自分"彩"発見　（「自分さがしの旅」をしつづける子どもの造形活動）
40	〃 12年 8/1～ 3 全国大会	静岡県	富士川市	開く造形教育に　生き生き交流
41	〃 13年 11/8～9	茨城県	水戸市	つくりだす力　かがやき　いきる感性
42	〃 14年 11/14～15	新潟県	新潟市	生きる力を培う造形教育　大地と大河と日本海からのメッセージ ―かかわり　発信　還元　そして　自信へ―
43	〃 15年 10/24～25	山梨県	甲府市・東八代郡豊富村・中巨摩郡郡田富町・中道町	「自立への道すじ」―豊かに感じ、自分を見つめ、造形に挑む―
44	〃 16年 11/11～12	栃木県	宇都宮市	ハート・ART　～風かよう夢広場～
45	〃 17年 11/9～11 全国大会	神奈川県	横浜市・川崎市	つくり続けるよろこび、それは生きるよろこび ～色と形のメッセージ　IからWEから～
46	〃 18年 11/1～3 全国大会	長野県	長野市	私っていいな！！"いろ・かたち"　生きあい　学びあい
47	〃 19年 11/8～9	東京都	文京区	人間形成としての造形美術教育

関東甲信越静地区造形教育連合規約

1．本連合会は，関東甲信越静地区造形教育連合といい，事務所を理事長所属の所に置く。
2．本連合会は，関東甲信越静地区の造形教育の振興を図り，各都県の親睦連絡を図るを目的とする。
3．本連合会は，東京都．神奈川県．千葉県．茨城県．栃木県．埼玉県．群馬県．山梨県，長野県．新潟県．静岡県下の各学校種別の造形教育研究団体をもって組織する。
4．本連合は，その目的を達成するために，次の事業を行う。
　（1）本連合会としての研究協議
　（2）各都県間の研究活動の協力助成
　（3）造形教育振興を目的とする他の団体への協力
　（4）その他連合が必要と認めた事業
5．本連合会に次の役員を置く。
　（1）理事長　　1　名　　（2）副理事長　　2　名
　（3）理　事　　若干名　　（4）評議員　　若干名
　（5）監　事　　3　名　　（6）事務局長　　1　名
　（7）顧　問　　〔前年度大会委員長または運営委員長〕
6．役員の任務は次のとおりとする。
　（1）理事長は本連合を代表し，業務を処理する。
　（2）副理事長は理事長を補佐し，業務の処理にあたる。
　（3）理事は本連合の運営にあたる。
　（4）評議員は理事を補佐し，各都県の研究団体との連絡運営にあたる。
　（5）監事は本連合の会計並びに事業を監査する。
7．役員の選出は次のとおりとする。
　（1）評議員は各都県下の参加団体ごとに４名以内を選出する。
　（2）理事は各都県下の参加団体の代表者をもってあてる。
　（3）理事長・副理事長は理事の互選によってきめる。
　（4）監事は理事会において，評議員の中から選出する。
8．役員の任期は１ケ年とし再任を妨げない。
9．会議は次の二つとする。いずれも出席者の合議によって成立し，理事長がこれを招集する。
　（1）評議員会　　年１回以上。
　（2）理事会　　必要に応じて開く。
10．本連合会の経費は各都県の会費及び分担金，その他の収入をもってあてる。
　（1）会費　各都県ごとに年額３，０００円・研究大会分担金１０，０００円
11．本規約の改正は評議員の決議による。
12．本規約についての細則は評議員会の議を経て定める。

本規約は昭和43年4月20日より施行する。
本規約は昭和58年10月27日に改正し同日を以て施行する。
昭和62年6月13日，会費２，０００円に改正し同日を以て施行する。
平成1年7月3日，監事3名に改正し同日を以て施行する。
平成2年10月25日，会費3，０００円に改正し平成3年度を以て施行する。

役員一覧

第４７回関ブロ東京大会・運営組織表

役職		氏名	所属	Tel	Fax
関ブロ理事長		辻 政博	文京区立誠之小学校	3811-7171	5689-4551
大会会長		正留久巳	日野市立平山中学校	042-593-3015	042-593-3014
大会副会長		牧井直文	中野区立富士見中学校	3381-7270	3381-7279
都中美大会実行委員長		新保邦明	板橋区立上板橋第一中学校	3956-8126	5995-8352
都図研大会実行委員長		沼野章彦	文京区立小日向台町小学校	3947-2371	3947-3038
都中美大会会場校校長		後藤一男	文京区立茗台中学校	3811-2969	5689-4559
都図研大会会場校校長		鴇田光俊	文京区立青柳小学校	3947-2471	3947-2045
実行委員	関ブロ事務局長	本間基史	新宿区立落合第六小学校	3565-0943	3565-0985
	都図研理事長	時任 勝	調布市立布田小学校	042-480-8821	042-480-8821
	中央ブロック長	榎本 稔	文京区立青柳小学校	3947-2471	3947-2045
	中央ブロック各区図工部長及び担当	山本秀夫	千代田区立昌平小学校	3251-0448	5256-6708
		榎本 稔	文京区立青柳小学校	3947-2471	3947-2045
		岩嵜長玉	中央区立有馬小学校	3666-5702	3668-2364
		安倍啓斎	台東区立平成小学校	3831-1530	3839-5154
		古川邦明	文京区立篭籠町小学校	3944-1471	3944-6148
大会顧問	各区小中学校顧問校長	馬場俊一	台東区立浅草小学校	3841-1575	3847-0162
		渡邊尚美	文京区立文林中学校	3827-7671	5685-4960
		山口 勉	北区立赤羽中学校	3901-4291	3901-4456
		瀬川博明	豊島区立西巣鴨中学校	3986-0661	5950-4679
研究局長		南 育子	墨田区立堤小学校	3614-6921	3614-6850
副研究局長		松永かおり	目黒区立第八中学校	3714-4594	3714-4751
事務局長		大道博敏	文京区立駒本小学校	3827-5451	5685-4928
副事務局長		安田宣幸	江戸川区立松江第四中学校	3652-7591	3652-7592
会計部長		飯塚雅子	文京区立本郷小学校	3813-7551	5689-4552
庶務部長		児玉由美子	文京区立第九中学校	3821-7178	5685-4955
渉外部長		平野康夫	文京区立第十中学校	3944-0371	3944-5914
事業局長		眞城勝彦	品川区立鈴ヶ森中学校	3765-2849	3765-2751
副事業局長		濱脇みどり	豊島区立千登世橋中学校	3987-6285	5950-4680
会場部長		近藤幸司	渋谷区立代々木中学校	3466-0181	3466-9331
庶務部長		須藤千絵	豊島区立池袋中学校	3986-5435	5951-3906
厚生部長		松本澄代	八王子市立石川中学校	042-691-6881	042-691-9143
編集局長		庖刀由利子	豊島区立巣鴨小学校	3946-9551	3946-3690
記録部	小	高波亜矢子	文京区立千駄木小学校	3821-7168	5685-4926
	中	藤本 卓	北区立紅葉中学校	3915-8225	5567-4529
紀要部	小	奥 真智子	文京区立金富小学校	3811-0066	5689-4549
	中	瀬田宜正	北区立明桜中学校	3913-8336	3913-8363

役員一覧

第２５回東京都中学校美術教育研究大会
第４ブロック大会運営組織一覧

		氏名(区・市／学校名)
都中美	大会会長	牧井　直文（中野／中野富士見中）
	都中美事務局長	眞城　勝彦(品川／鈴ヶ森中)
総務	実行委員長	新保　邦明(板橋／上板橋第一中)
	副委員長	渡邊　尚美(文京／文林中)
	副委員長	山口　勉(北／赤羽中)
	副委員長	瀬川　博明(豊島／西巣鴨中)
	関ブロ実行委員長	正留　久巳(日野／平山中)
事務局	事務局長	平野 康夫(文京／文京第十中)
	副事務局長	児玉由美子(文京／文京第九中)
	局　員	鯨井　靖子(文京／茗台中)
	局　員	茜谷佳世子(文京／文林中)
	局　員	小田島慎治(文京／文京第三中)
	局　員	春日　弥生(文京／文京第六中)
	局　員	永見久美子(文京／文京第七中)
	局　員	佐々木正敏(文京／本郷台中)
	局　員	中村　和子(文京／文京第五中)
	局　員	石井　悦男(文京／文京第一中)
	関ブロ事業局長	眞城勝彦(品川／鈴ヶ森中)
研究局	研究局長	畝村 明男(板橋／上板橋第三中)
	副研究局長	田中　　進(板橋／上板橋第一中)
	局　員	湯原恵美子(板橋／板橋第一中)
	局　員	石川　達也(板橋／桜川中)
	局　員	倉科　幸雄(板橋／板橋第五中)
	局　員	春日利佳子(板橋／板橋第三中)
	局　員	池村　清治(板橋／向原中)
	局　員	佐藤真理子(板橋／加賀中)
	局　員	町田　廣泉(板橋／志村第一中)
	局　員	栗原　良司(板橋／赤塚第一中)
	局　員	石井　和子(板橋／板橋第二中)
	局　員	樋口　　久(板橋／志村第三中)
	局　員	深谷　玲子(板橋／赤塚第二中)
	局　員	住岡美智子(板橋／高島第二中)
	局　員	平岡いずみ(板橋／志村第四中)
	局　員	高野　朱未(板橋／赤塚第三中)
	局　員	川村　清史(板橋／高島第三中)
	局　員	佐藤　真理(板橋／志村第二中)
	局　員	佐藤　敏文(板橋／中台中)
	局　員	坂本　啓子(板橋／高島第一中)
	関ブロ副研究局長	松永かおり(目黒／目黒第八中)

		氏名(区・市／学校名)
編集局	編集局長	瀬田　宜正(北／明桜中)
	副編集局長	小川　永祐(北／稲付中)
	局　員	石井恵美子(北／王子桜中)
	局　員	多気　容子(北／岩淵中)
	局　員	藤井香恵子(北／赤羽中)
	局　員	吉原智恵子(北／堀船中)
	局　員	宮本　麻里(北／桐ヶ丘中)
	局　員	毛利万里子(北／浮間中)
	局　員	池原美恵子(北／飛鳥中)
	局　員	美辺　　泉(北／富士見中)
	局　員	大塚　順司(北／明桜中)
	局　員	藤本　　卓(北／紅葉中)
	局　員	竹内　博生(北／新町中)
庶務局	庶務局長	濱脇みどり(豊島／千登世橋中)
	副庶務局長	小林　　至(豊島／千川中)
	局　員	渡辺　　茂(豊島／駒込中)
	局　員	大島　貴子(豊島／巣鴨北中)
	局　員	山崎百合子(豊島／池袋中)
	局　員	須藤　千絵(豊島／池袋中)
	局　員	板橋　尚文(豊島／明豊中)
	局　員	相磯　亮子(豊島／長崎中)
	関ブロ事業部副局長	濱脇みどり(豊島／千登世橋中)

役員一覧

第46回東京都図画工作研究大会・中央大会

役職			氏名	所属
大会会長	都図研会長		辻　政博	文京区立誠之小
大会副会長	会場校校長		鴇田光俊	文京区立青柳小
	都図研副会長		庖刀由利子	豊島区立巣鴨小
	都図研副会長		南　育子	墨田区立堤小
大会顧問	文　京		古川邦明	文京区立駕籠町小
	台　東		馬場俊一	台東区立蔵前
	中　央		岩嵜長玉	中央区立有馬小
	千代田		山本秀夫	千代田区立昌平小
実行委員長			沼野章彦	文京区立小日向台町小
副実行委員長	4区代表		榎本　稔	文京区立青柳小
			安倍啓斎	台東区立平成小
			高村弘志	中央区立京橋築地小
			長田千春	千代田区立番町小
	ブロック長		榎本　稔	文京区立青柳小
研究局	研究局長		森田敏裕	文京区立礫川小
	副研究局長	文京区分科会長	桐敷芳子	文京区立根津小
		台東区分科会長	餅　和子	台東区立金曽木小
		中央区分科会長	三浦百合子	中央区立泰明小
		千代田区分科会長	森脇勝美	千代田区立富士見小
		都図研分科会	玉置一仁	北区立滝野川第二小
	局員	文京	仙北屋崇	汐見小
			船田京子	関口台町小
			平本かおり	林町小
			沼倉瑞穂	明化小
			小川怜奈	大塚小
			平良麻由子	湯島小
			名達英詔	学大附属竹早小
		台東	安倍啓斎	平成小
			山﨑聖美	田原小
			穐本尚子	浅草小
			室　恵理子	石浜小
			吉田順子	富士小
		千代田	長田千春	富士見小
			砂澤弥生	九段小
			高野ゆかり	和泉小
		中央	竹内とも子	明正小
			緑川敏夫	明石小
			栃山彰子	阪本小
			樋口　誠	日本橋小
			星野淳子	月島第一小
			白井　誠	常盤小学校
事務局	事務局長		大道博敏	文京区立駒本小
	副事務局長		栗野陽子	台東区立上野小
	会計部長		飯塚雅子	文京区立本郷小
	庶務部長		津田信子	千代田区立麹町小
	局員	文京	平岩奈津美	駕籠町小
		台東	竹内通枝	東浅草小
			河原俊明	蔵前小
			田中士郎	谷中小
		千代田	棚橋和正	有馬小
		中央	原田佐和子	月島第三小
事業局	事業局長		榎本　稔	文京区立青柳小
	副事業局長	文京	鈴木繁雄	文京区立指ヶ谷小
		台東	小竹一平	台東区立黒門小
		千代田	南島　隆	千代田区立昌平小
		中央	正木真一	中央区立月島第二小
	局員	文京	平江正好	柳町小
			大島浅香	昭和小
			佐藤裕子	明化小
		台東	保坂亮子	育英小
			門脇みどり	大正小
			菊池佐智子	千束小
		千代田	山田和弘	お茶の水小
		中央	中西はるみ	佃島小
			佐藤幸子	中央小
			鎌田由美子	久松小
編集局	編集局長		庖刀由利子	豊島区立巣鴨小
	副編集局長	文京	高波亜矢子	文京区立千駄木小
		台東	佐藤洋子	台東区立松葉小
		千代田	志水克栄	千代田区立千代田小
		中央	高村弘志	中央区立京橋築地小
	局員	文京	平山久仁子	窪町小
			奥　真智子	金富小
		台東	柿沼美知子	根岸小
			金子奈都子	忍岡小
			天野牧子	東泉小
			森　美衛	金竜小
		中央	常川英子	城東小
			上原果菜子	豊海小

編集後記

この研究紀要が皆様の手元に届くのは、秋の終わりと冬の訪れの狭間、ドラマチックな年末に向けてそろそろ今年を振り返る頃でしょう。皆の周りの造形美術教育にとって今年はどんな年だったのでしょうか。

編集作業は、先輩の綴った過去の大会の紀要を見直したり、関係者で話しあったりしながら、一つ一つ手探りで進めるといったものでした。分からないことや不慣れなことがたくさんあり、関係の皆様に大変お世話になったことと存じます。また、今年の夏はひときわ暑く、原稿をお願いした方々もそれに耐えながらの執筆作業をなさったことを考えるにつけ、本当に頭の下がる思いです。

なんとかこれを一つにまとめることが出来ましたが、それは一重に文部科学省をはじめ東京都教育委員会、会場地区の文京区教育委員会並びに関係諸機関、団体の皆様、各地区の造形美術教育を愛する皆様方のお力添えがあってのことと存じます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

編集担当としては、すてきな文章や写真に誰よりも早く出会って、誰よりも早くそれを味わう至宝の日々でもありました。周辺がめまぐるしく変化する昨今の教育現場ではありますが、人間の育ちの根底にかかわる造形美術教育こそは、どっしりと大地に根を張りたいものと思います。

皆様方のご協力・ご支援に深く感謝申し上げますとともに、これからの造形美術教育の発展を祈念したいと思います。ありがとうございました。

東京大会編集局長　豊島区立巣鴨小学校　　庖刀　由利子

２００７第４７回関東甲信越静地区造形教育研究会　東京大会

第４６回東京都図画工作研究大会　中央大会

第２５回東京都中学校美術教育研究会　第４ブロック大会

発行日　平成１９年１１月８日

発行者　関東甲信越静地区造形教育連合理事長　辻　政博

関東甲信越静地区造形教育研究大会会長　正留　久巳

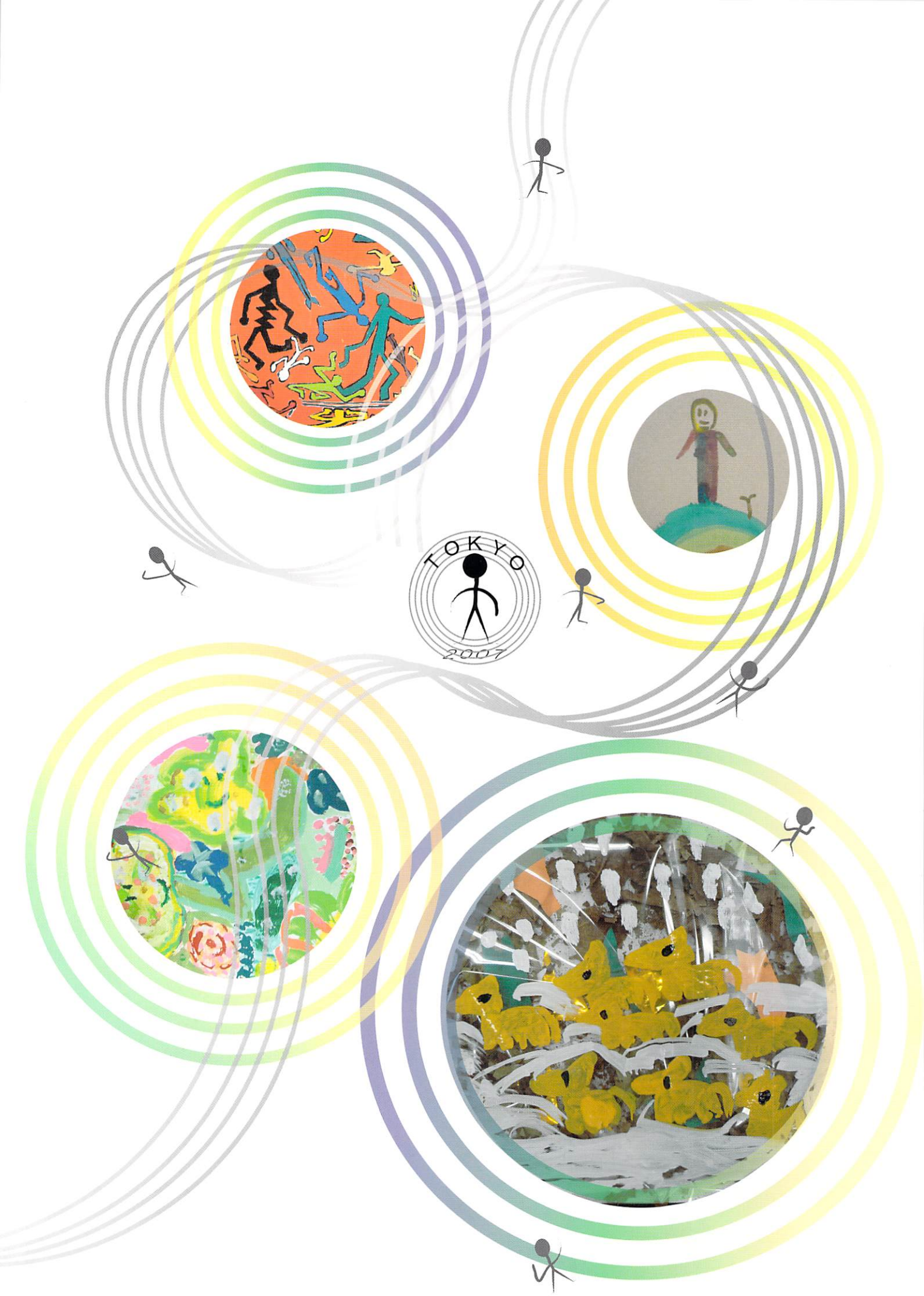
事務局　大道 博敏　東京都文京区立駒本小学校

〒113-0023　東京都文京区向丘２－３７－５

Tel：03-3827-5451　Fax：03-5685-4928

印　刷　（株）椎名印刷所　東京都文京区白山１－２６－１８

Tel：03-3811-1391


TOKYO
2007